日本古典全集刊行會板

與謝野寛
正宗敦夫
與謝野晶子
編纂
校訂

吾妻鏡 第一

吾妻鏡解題

一、「吾妻鏡」は「東鑑」とも書く。全部五十二卷に分れ、日記體に編したる鎌倉幕府の半官的記錄である。即ち高倉天皇（一一六一「應保元年」――一一八一「養和元年」）の治承四年（一一八〇）四月に、源頼朝（一一四七「久安三年」――一一九九「正治元年」）が兵を伊豆國に擧げ、平家討伐の端を開いた時から筆を起し、龜山天皇（一二四九「建長元年」――一三〇五「嘉元三年」）の文永三年（一二六六）七月に、將軍宗尊親王（一二四〇「建治元年」――一二七五「文永十一年」）が京都に歸られ、同年同月、其時三歳の王子惟康親王（一二六四「文永元年」――一三二六「嘉曆元年」）が北條時宗に擁立せられて將軍と成られたるまでの、八十七年間に於て、幕府側より見たる公私の事實が細大と無く記述せられてゐるのである。

一、從つて「吾妻鏡」は、鎌倉時代の人情、趣味、道德、宗教、制度、風俗、文學、美術、武藝、政治、其他各種の廣汎なる範圍に亘り、文化史上の最も重要なる根本史料として無盡の價値を藏してゐる。謂ゆる武士道の起原を初め、當時に於ける敬神崇佛の思想、源平二家興亡の史實、北條義時（一一六三「長寬元年」――一二二四「元仁元年」）が後鳥羽、土御門、順德三帝の遷幸を强要し奉るに至つた承久の亂、引いて近世にまで及びたる武家專橫の緣由、坂東武士の氣質風習、鎌倉幕府の法制經濟、當時の言語文章等を研究する爲めには、必ず此書に依らざるを得ない。

一、また「吾妻鏡」は、趣味上の「讀み本」として見るも、賴朝の猜疑心深くして、其父義朝より遺傳した殘忍なる性格、「源平盛衰記」及び「平家物語」と表裏參照して知り得る、一の谷、屋嶋、壇の浦等に於ける源平合戰の實狀、賴朝の妻北條政子（一一五七「保元二年」――一二二五「嘉祿元年」）、源賴家（一一八二「壽永元年」――一二〇四「元久元年」）、源義仲（一一五四「久壽元年」――一一八四「壽永三年」）、源義經（一一五九「平治元年」――一一八九「文治五年」）、源實朝（一一九二「建久三年」――一二一九「承久元年」）、梶原景時（――一二〇〇「正治二年」）、熊谷直實（――一二〇八「承元二年」）、曾我祐成（十郎、一一七二「承安元年」――一一九三「建久四年」）兄弟、僧文覺（一一二〇「保安元年」――一一九九「正治元年」）、北條時政の後妻牧の方等、其他後の稗史戲曲に現れたる、鎌倉時代の多くの人物及び其事蹟の史實は、主として此書に求めて初めて知る事が出來る。概して武家の諸記錄を基礎として編述されたるに關らず、諱まず飾らず、公私の人物の言行が書かれてゐる爲めに、精讀する每に興味の甚だ深いものが有る。

一、「吾妻鏡」の著者は今日まで未だ分明しない。德川初期の官學の大家林　道春（羅山、一五八三「天正十一年」――一六五七「明曆三年」）は、「東鑑考」の中に「未だ誰の撰たるを詳にせず、蓋し北條家の左右、文筆を執る者之を記るすか。此中、北條殿の請文、下知、書狀等、皆平姓を書いて諱を書かず、又其廣元、邦通、俊兼等が筆記、亦當に混雜して在るべきか」（原漢文、別掲の「東鑑考」參照）と云つてゐる。想ふに此書の記事の終つてゐる文永三年より後、まだ間も無い數年間、卽ち龜山、後宇多兩帝、鎌倉幕府

に於ては北條時宗（一二五二「建長四年」――一二八四「弘安七年」）の執權時代に、鎌倉に住んで編史の志あり文筆の才の有つた北條氏の家臣若くは僧徒の編述したものであらう。是れが一人の筆に成つたか否かに就ても未だ學界の研究を經て居ない。

一、歷史的著作の題簽に「かがみ」（鏡、鑑）の語を用ふる事は、同じく道春の「東鑑考」に云つて有る如く、支那の「通鑑」、「唐鑑」、「帝鑑」等に擬して、既に平安朝に「大鏡」、「今鏡」が有り、また此「吾妻鏡」と略ぼ同時代に「增鏡」が有る。他は歷史としてのみならず、歷史小說として文學的筆致を濃厚に用ひたものであるが、此書の著者は全く歷史としての目的から、今日謂ふ所の科學的精神を以て眞率に精確なる記述を成さうとした事が、全篇に亘つて看取される。其文も亦乾燥なる尋常記實の態無くして、簡素の中に溫潤雅趣ある筆致を用ひてゐる。題簽に「かがみ」の語を用ひたのは、後人の鑑戒とする漢土史家の原意に據つたものであらうが、之を讀む者には、人間として史家としての玲瓏たる著者の心の明鏡に似たる詮表である事を想はしめる。

一、「吾妻鏡」の文章は、一見した所、漢文の外容を持つてゐるから、今日の讀者に親み難い感を與へるであらうが、是れは決して漢文を以て目すべき文章で無く、初めから一種の國文、即ち和漢混淆文として書かれたものである。唯だ文字が漢文體に並べられ、之に和訓を施し、送り假字を添へつつ飜轉して讀むやうに書かれてゐる爲めに、漢文の如き外容を示してゐると云ふに過ぎない。此種の書き方をした和漢混淆

文は早く平安朝の公文、記錄、及び男子の書牘に由來し、久しく我國に通用したる國文の一種である。さうして此種の和漢混淆文にも變遷が有り、特に此「吾妻鏡」は鎌倉時代の武家通用文を代表してゐる。中に「御」の字を「給ふ」と訓じ、「者」の字を「テヘレバ」(ト云ヘレバの約)と訓ずる如き、平安朝以來の特別の用字例を幾つか示してゐるが、初め三四頁も讀み慣(ナラ)へば後(アト)は決して讀みづらいものでは無い。殊に豐滿なる內容の興味が讀者を牽引して卷を擱(オ)く能はざらしめる。

一、「吾妻鏡」は、德川時代に於て廣く學者士人の間に愛讀せられた。道春はまた寬永版「東鑑(アヅマカガミ)」の跋に於て「方(マサ)に今の世の東鑑を見る者、滔滔として皆多し」(原漢文)と云ひ、また同じ版の他の跋に德川家康が此書を愛讀した事が書かれてゐる。然るに明治以來此書を讀む人の稀れなのは、一般に普及すべき手頃な本(ホン)が無いからである。我我は此缺を補ふが爲めに、「日本古典全集」の第一回刊行本として此「吾妻鏡」を加へたのである。

一、「吾妻鏡」には古寫の異本が多い。轉寫を重ねて傳はつたが爲めである。其等の古寫異本には一二册に過ぎない殘缺本「伏見宮家本」、「前田侯爵家本」の如きが有り、やや完本に近い「北條本」、「宮內省圖書寮本(舊忍(オシ)藩藏)」、「島津公爵家本」、「吉川子爵家本」、「京都府圖書館本」、「黑川眞道本」其他には誤字及び脫落の箇所が有つて、彼れ是れを比較校合する事業が未だ學界に完成されて居ない。たとひ完成されるにしても、如此く異本の多い書籍は、恐らく定本を得る事は不可能であらう。

一、「吾妻鏡」の版本で、明治以前のものは、慶長十年（一六〇五）に京都南禪寺の僧承兌が、徳川家康（一五四二「天文十一年」――一六一六「元和二年」）の命に由り、林道春と議り「北條本」を校訂して木活字を用ひて印行した「慶長本」が最初である。次いで廿年の後、寛永元年（一六二四）の春、播磨國の人菅玄同、菅聊卜の兄弟が、右の「慶長本」を底本として訂正と和訓とを加へ、整版を用ひて印行した「寛永本」が有る。林道春の跋文が之に附いてゐる。また此「寛永本」を卅八年後に再版して寛文元年（一六六一）の奥書の添つた本も有る。

一、また明治以來の「吾妻鏡」の版本には、明治廿九年（一八九六）に高桑駒吉氏等が諸異本を校合して出版した半紙形拾冊本が有る。之が學徒の間によく用ひられた。また島津公爵家所藏の「吾妻鏡纂」と云ふものが「史籍集覽」に編入して印行された。是れは卷十六より卷四十六までの內の脫落を集めたものである。また同じく「史籍集覽」に編入して「東鑑脫漏」と云ふものが印行された。是れは「東鑑脫漏四十五」として有るが、年代から考へて卷二十六に加はるべきものであらう。次にまた明治三十六年（一九〇三）に、古寫「北條本」を底本とし諸書を參照して「續國史大系本」が印行せられ、次第に本の內容が善く成つて來た。更に大正四年（一九一五）に古寫「吉川本」（前述の吉川子爵家本）が國書刊行會から出版せられて、從來の諸本の脫落が層一層補はれる事が出來たのは誠に喜ばしい。

一、さて玆に、「日本古典全集」に「吾妻鏡」を收めるに就て、我我は前述の「寛永本」を底本とし、之に前

述の「東鑑脫漏」、「吾妻鏡纂」を加へ、「吉川本」と對照して其異同を明かにし、脫落を補ひ、且つ「續國史大系本」をも參考して稿本を作つた。左に讀者の便宜の爲め、此「日本古典全集本」の「吾妻鏡」の編纂に就て二三の注意を述べよう。

一、底本に無くて「吉川本」に有るものは〔　〕此印(シルシ)を用ひて本文中に補入した。但し此補入文には一切返り點を附けぬ事にした。若し返り點を附けるなら、底本の訓點を改めねばならぬ場合が生ずるからである。

一、「吉川本」から補入しては置くが、其補入したる字句の正否までは研究したので無い。我我は決して「吾妻鏡」の定本を作るので無く、唯だ「吉川本」に有つて底本に無いものは、誤脫と衍字とを問はずして總べて補入して置いたのである。取捨は讀者と學者の研究に一任する。

一、次に底本と「吉川本」とを對照し、脫落で無くて單に文字の異つてゐるものは右方へ「吉川本」の文字を書き添へて置いた。また底本に有つて「吉川本」に脫落してゐる所には左方へ。此印(シルシ)を附けて置いた。但し「吉川本」の方に餘り長文の脫落が有る所は、印(シルシ)を略して其由を附記した。

一、次にまた「續國史大系本」が「吉川本」と同じくして、底本が二本と異(チガ)つてゐる所には「[イ]同」と注し、「續國史大系本」のみが底本と異(チガ)つてゐる所には[イ]の印(シルシ)のみを加へた。但し「[イ]同」と云ふ印(シルシ)の分は遺憾ながら全部を注する事が出來なかつた。狹い紙幅と細小の活字を用ひるとの故に製版が混雜するからである。

一、傍訓は古訓と思はれるもの、讀み癖の參考となるもの、讀みにくい人名地名の或ものゝ以外は一切省略した。之も製版の混雜と遲延とを恐れたからである。唯だ「續國史大系本」は古寫「北條本」に由つて古訓を存してゐるから、必要と認めたものだけは底本以外の傍訓を少し採錄した。元來此底本とした「寛永本」は「北條本」即ち「續國史大系本」と同系の本であるから、異類が混合すると云ふ嫌ひも無いからである。

一、猶傍訓の假字遣は、特に前代の讀み癖を知るに必要なものを保存する以外は、現行の假字遣に改めた。古典と云つても、一切の書は未來の國民の文化に資すべきものである。我我の「日本古典全集」の如く、力めて一般の國民に廣く讀まれる事の目的の爲めに刊行する普及本は、特に學問上より原形を保存する事の必要あるもの以外は、學問の暗黒時代に止む無く陷つた前人の誤謬を存置する事に由つて、生生無限なる未來の多數國民を誤るべきで無い。我我の「日本古典全集」は「學者本」としての用意をも出來るだけ細心に考慮するが、其れ以上、一切の古典を學者の書庫のみに藏せず、國民全體の所有として活きたる一般の「讀み本」たるに適せしめたいと祈願する心が深い。我我は訓詁の學をも十分に敬重する。併し總べての學問と著述とは、其れが少數者の私有たるに止まり、現代に、或は遠き未來へかけて、國民全體の精神文化の資料たるに適せざるに於ては、我我は其れに微力を致すの必要を見ない。此「吾妻鏡」もまた此意味に於て廣く一般の「讀み本」と成る事を望むと共に、啻に「吾妻鏡」のみならず、「日本古典全集」が概して「學者本」にのみ傾き難き理由の御諒察を、學界の讀者達に乞うて置く。

一、次にまた、底本に有る割注は、（　）此印の中に入れて一行に書き下だした。是れは此「日本古典全集本」の慣例である。本文が細小の活字である爲めに、其下に二行の注を植字し難いからである。

一、また往往編者の私案を加へて讀者の便を計つた所には、（○）此印を加へて區別を明かにして置いた。また職官名などの下、例へば「前内府」と有る所に（○宗盛）と言ふ如き注を加へたが、之は必ずしも私案で無く、「續國史大系本」に據つたのである。

一、また底本にも他の諸本にも、日別に行を改めてあるが、此「日本古典全集本」では、紙數の節約の爲めに、○此印を加へて書き續けた事を寛容せられたい。

一、「吉川本」は校訂の爲めに參照した諸本及び參考とした諸書に略符を用ひてゐるが、此「日本古典全集」も其れを其儘引用した所が有るから、讀者の參考の爲めに、其必要なる物のみを次に擧げて置かう。

宮内省圖書寮本	宮	京都府圖書館本	京
黑川眞道本	黑	嶋津公爵家本	嶋
前田侯爵家本	前	玉葉	玉
明月記	明	石清水八幡宮記錄	石

一、また文字は大概底本の原形に據る事とした。古寫「北條本」には古體の文字が多いと見えて、「續國史大系本」は大分其れを保存してゐる。昔の用字例を知る爲めには結構な事であるが、今は版を作るにも讀む

にも煩はしい事であるから、此「日本古典全集本」では大抵普通現行の文字を用ひた。

一、扉に用ひた「東鑑」と云ふ文字は、底本の標題を寫眞凸版としたのである。

一、林道春の「東鑑考」を卷頭に添へた。其文の中で道春が脱落してゐると書いた「政子死去」及び「頼經元服」の條などは、「吉川本」が出て今日既に補はれてゐる。但し「頼朝卒去」の記事は脱落で無く、著者が何故かわざと書かずに置いたらしい。即ち第十六卷に有る「建久十年己未」（四月改元、正治元年）の記載の初めに、「二月」から筆を著けて、頼朝の歿した「一月」の記事が無い。さうして其二月の記事の中に新將軍頼家の事を叙して「羽林殿下。去月廿日。轉二左中將一給。同廿六日宣下云。續前征夷將軍源朝臣遺跡。云云」と有る。若し「一月」の記事を著者が書いたものなら、他の例に由つて、頼家の任官を其「一月」の條に書いて置く筈である。此推測が許されるなら、今日猶脱落とする所の中にも、著者が何等かの理由で、（後に善く調べて書き足す意圖などが有つて）わざと書かずに置いたものが有りはせぬか。

一、最後に云ふ。「吾妻鏡」の校訂の如きは、意義ある學界の大事業である。我我は後の篤學者の努力を期待する。

東鑑考

東鑑一部五十有卷、自治承四年至文永三年、合八十有七年、此中壽永二年、建久七年、八年、九年、嘉祿元年、二年、安貞元年、正元元年無之。此間廣常伏誅、賴朝卒去、政子死去。賴經元服等事、蓋脫落。

東鑑未詳誰撰、蓋北條家之左右、執文筆者記之歟。此中北條殿請文、下知書狀等、皆書平姓而不書諱。又廣元、邦通、俊兼等之筆記、亦當混雜而在歟。三十、四十卷以後者、其文多略、且有重複誤出者焉。

禪僧義堂在鎌倉時、町野氏來令義堂見吾妻鏡。此事在空華日工集。然則吾妻鏡者町野家之所諳習也。御成敗式目亦町野之所傳授云。

吾妻鏡名者、指東國云吾妻。日本紀日本武尊東征時、悲橘姬死而向東曰吾嬬。吾嬬與吾妻相同。又以鏡名書者、我邦有水鏡、大鏡、增鏡等。今此書爲關東之鑑戒故號焉。蓋是相似溫公之通鑑、范氏

之唐鑑、張氏之帝鑑等之名歟。

我邦自神武至光孝、有書紀實錄。然宇多醍醐以後無書記、纔有假名草子及倭歌書、而國家之治亂、君臣之興廢、不知十之一二。中間雖扶桑略記出、然多涉浮屠氏之妄說、不足觀之。獨東鑑文章、雖減古之書記實錄、然其事爲有實乎。校之源平盛衰記、平家物語、而彼此眞僞亦可見矣。

黑田筑州刺史、令佐谷五郎太夫來就予讀東鑑、不日而終合部。及其將歸、求予贈言。於是不獲已書其少槩以與之。

元和三年秋九月上澣　林　羅山

吾妻鏡目録

一卷　治承四年（庚子）

○安德天皇。（高倉第一）基通。（近衛殿）賴朝。（正二位大納言右大將。治廿年。自治承四至正治元）

時政。（北條四郎大夫時家一男。號北條四郎。治代自治承四至于元久元）

二卷　治承五年（辛丑）七月十四日爲養和元年。壽永元年（壬寅）。

三卷　壽永三年（甲辰）四月十六日爲元曆元年。私云壽永二（癸卯）無之。

○後鳥羽院（高倉第四）

四卷　元曆二年（乙巳）自正月至八月云云。十四日爲文治元年。

五卷　文治元年自九月至十二月。

六卷　文治二年（丙午）自正月至十二月。

七卷　文治三年（丁未）同

八卷　文治四年（戊申）同

九卷　文治五年（己酉）同

十卷　文治六年（庚戌）四月十一日爲建久元年。

十一巻　建久二年（辛亥）

十二巻　建久三年（壬子）

十三巻　建久四年（癸丑）

十四巻　建久五年（甲寅）

十五巻　建久六年（乙卯）　私云。建久七、八、九、三箇年無之。

十六巻　建久十年（己未）　四月廿七日。改正治元年。正月十三日頼朝薨。

〇土御門院（後鳥羽第一）頼家（頼朝一男。字十萬。治五年。正治元正廿六以來。自正治元。至建仁三。）時政（正治二四一任遠江守。于時六十三。）

十七巻　正治三年（辛酉）　二月十三日爲建仁元年。同二年。同三年。

十八巻　建仁三年（癸亥）　十七巻末在之。同四年（甲子）爲元久元年。同二年。同三年。爲建永元年。建永二年（丁卯）　爲承元元年。（頼家。建仁三七廿受病。八廿七讓跡於長子一萬。六歲九七出家。元久元七十八於修禪寺被誅。

實朝（頼朝次男。字錢幡公。治十七年。自建仁三。至承久元。）時政（元久二閏七廿出家六十八。）義時（時政次男。治廿年）。

十九巻　承元二年。同三年。同四年。建暦元年。

○順德院（後鳥羽第三）

二十卷　建暦二年（壬申）　十二月六日爲建保元年。

廿一卷　建暦三年（癸酉）

廿二卷　自建保二年（甲戌）。至于同四年（丙子）。

廿三卷　自建保五年（丁丑）。至于同六年（戊寅）。

廿四卷　建保七年（己卯）　四月十二日爲承久元。同二年（庚辰）。

廿五卷　承久三年（辛巳）

○後堀河院（高倉第二守貞親王御子）實朝（承久元正廿七戌時。於八幡宮被誅。廿八。賴家息字善哉。別當公曉所行。以上三代將軍。合四十箇年。

廿六卷　承久四年（壬午）　貞應元。同三年（甲申）　元仁元年賴經（道家公息。五歲下向二歲）平政子（時政女。治八年。自承久元。至于嘉祿二。）義時（元仁元。六十三死去。六十歲。武藏守泰時。義時男時房。時政男。右京權大夫。）

廿七卷　安貞二年（戊子）　同三年（己丑）　爲寬喜元年。寬喜二年（庚寅）　賴經（自安貞元。至寬元二。治十八年。）

廿八卷　自寬喜三年（辛卯）至于同四年（壬辰）爲貞永元年。

廿九卷　貞永二年（癸巳）　四月十五日爲㆓天福元年㆒。同二年（甲午）。十一月五日爲㆓文暦元年㆒。

〇四條院（後堀河院御子）

三十卷　文暦二年（乙未）　八月十九日爲㆓嘉禎元年㆒。

卅一卷　嘉禎二年（丙申）　同三年（丁酉）。

卅二卷　嘉禎四年（戊戌）　十一月廿三日爲㆓暦仁元年㆒。

卅三卷　暦仁二年（己亥）　二月七日爲㆓延應元年㆒。同二年七月十六日爲㆓仁治元年㆒。

卅四卷　仁治二年（辛丑）　經時（左近將監武藏守）代五年。自㆓仁治三㆒。至㆓寛元四㆒。

卅五卷　仁治四年（癸卯）　二月二十六日爲㆓寛元元年㆒。

〇後嵯峨院（土御門第二御子）

卅六卷　寛元二年（甲辰）　同三年（乙巳）

賴嗣（賴經次男。治九年）自㆓寛元二㆒。至㆓建長四㆒。

卅七卷　寛元四年（丙午）　時賴（時氏次男。代十一年）自㆓寛元四㆒。至㆓康元元年㆒。

卅八卷　寛元五年（丁未）　二月二十八日爲㆓寶治元年㆒。

〇後深草院（後嵯峨第二御子。時賴。重時。義時息。合判。）自㆓寶治元㆒至㆓康元元年㆒。

卅九卷　寶治二年（戊申）　同三年三月十八日爲二建長元年一。

四十卷　建長二年（庚戌）

四十一卷　建長三年（辛亥）　同四年。自二正月一。至二二月一。

四十二卷　建長四年（壬子）

（後嵯峨院王子）宗尊親王。

四十三卷　建長五年（癸丑）　建長寺供養在レ之。

四十四卷　建長六年（甲寅）

四十五卷　建長七年（乙卯）　（此一卷本自闕略）

四十六卷　建長八年（丙辰）　八月十五日爲二康元元年一。自二康元元一。至二文永元一。

（右京權大夫）政村（義時四男。代十八年。自二康元元年一。至二文永十年一。）

（武藏守）長時（重時次男。代九年。自二康元元年一。至二文永元一。）

四十七卷　康元二年（丁巳）　三月十四日爲二正嘉元年一。

四十八卷　正嘉二年（戊午）

四十九卷　正元二年（庚申）　四月十四日爲二文應元年一。

○龜山院（後嵯峨第三御子）

惟康親王。治廿四年。自文永三。至正應二年。

已上自治承四年。迄于文永三年。八十七年也。

○關東將軍次第

賴朝（治二十年。自治承四年。至于正治元年。正月十三日薨。五十三歲）

賴家（治五年。自正治元年。至建仁三年。二十三歲。）

實朝（治十七年。自建仁三年。至承久元年。二十八歲。）

以上三代將軍。合四十箇年。

平政子（賴朝卿後室。號二位禪尼。六十九歲。治八年。自承久元年。至嘉祿二年。）

賴經（治十八年。自安貞元年。至寛元二年。三十九歲。）

賴嗣（治八年。自寛元二年。至建長四年。十八歲。）

宗尊親王（治十五年。自建長四年。至文永三年。三十三歲。）

惟康親王（治廿四年。自文永三年。至正應二年。二十六歲。）

久明親王（治二十年。自正應二年。至延慶元年。廿四歲。）

守邦親王（治廿五年。自延慶二年。至元弘三年。三十二歲。）

以上自治承四年（庚子）。至元弘三年（癸酉）。百五十四年。

○關東執權次第

時政（治二十六年。自治承四年至元久二年。七十八歲。）

義時（治二十年。自元久二年至元仁元年。六十二歲。）

泰時（治十九年。自元仁元年至仁治三年。六十歲。）

時房（治十七年。自元仁元年至仁治元年。六十六歲。）

泰時（前武藏守）

經時（治五年。自仁治三年至寬元四年。二十三歲。）

時賴（正五位下相摸守。時氏二男。建長八年十一月廿三日落髮。年三十歲。號最明寺。法名道崇。又號覺了房。弘安三年十一月廿二日卒。年三十七歲。）

時賴（治十一年。自寬元四年至康元元年。）

重時（治九年。自寶治元年至康元元年。建長八年三月十一日落髮。法名觀覺。六十四歲。）

政時〔〇村カ〕（治十八年。自康元元年至文永元年。六十九歲。）

長時（治九年。自康元元年至文永十年。三十五歲。）

時宗（治廿一年。自文永元年至弘安七年。三十四歲。）

政村（右京權大夫。）
時宗
義政（治五年。自二文永十年一。至二建治三年一。）
時宗（相摸守。號二寶光寺殿一。）
時宗
業時（治五年。自二弘安六年一。至二同十年一。）
業時
貞時（治十八年。自二弘安七年一。至二正安三年一。）
貞時（相摸守。號二最勝園寺殿一。）
貞時
宣時（治十五年。自二弘安十年一。至二正安三年一。）
師時（治十一年。自二正安三年一。至二應長元年一。）
時村（治五年。自二正安三年一。至二嘉元三年一。四月廿三夜被レ誅。）
師時（相摸守）
宗宣（陸奥守。治八年。自二嘉元三年一。至二正和元年一。）

宗宣

熙時（治五年。自應長元年。至正和四年。）

熙時（正和元年六月宗宣卒。依之。）

基時（正和四年七月十一日御後見事被仰下。同十九日任相摸守。）

貞顯（嘉曆元年。同四年四月十六日出家。號金澤殿。）

高時（治十一年。自正和五。至嘉曆元年。）

貞顯

高時（相摸守

守時（治八年。自嘉曆元。至元弘三年。）

維時（治二年。自嘉曆元年。至同二年。）

守時（相摸守。武藏守。號赤橋殿。）

守時

茂時（治四年。自元德二年。至元弘三年。）

東鑑

第一

吾妻鏡目次

吾妻鏡　卷第一

安德天皇（諱言仁）高倉院第一皇子。御母建禮門院。（太政大臣淸盛公〔御〕女）

治承四年二月廿一日受禪。同四月二十二日即位。（春秋三歲）

壽永二年八月二十日。新帝踐祚。

文治元年三月二十四日。於長門國門司浦關。沒入海水。（八歲）

攝政內大臣（基通〔公〕）六條攝政一男。（母從三位藤原忠隆卿女）

治承三年十一月十六日任內大臣。（元二位中將）爲關白氏長者。十七日。叙二位。勅授牛車隨身。同日可列左大臣上之由被宣下。四年二月廿一日改關白爲攝政。勅授兵仗如故之由宣下。四月廿一日叙從一位。（御即位次）壽永元年四月廿四日賜內舍人二人爲隨身。六月廿七日上表內大臣。勅許。四年八月廿日更爲攝政。（法皇詔）十一月二十一日停攝政。

後鳥羽院（諱尊成）同第四皇子。御母七條〔女〕院。（贈左大臣修理大夫信隆女）

壽永二年八月廿日踐祚。(春秋四歲) 元曆元年七月二十八日即位。(五) 文治六年正月三日御元服。(十一) 建久九年正月十一日御脫屣[履イ]。承久三年七月日遷御鳥羽院[殿]。同八日落御飾。(御法名) 同十三日。遷御隱岐國。延應元年二月廿二日崩御。(六十) 五月廿九日追號顯德(ケントク)院。仁治三年七月八日改顯德院。爲後鳥羽院。

攝政內大臣(師家。菩提院禪閤三男。母前太政大臣忠雅公女)

壽永二年十一月廿一日任內大臣。(元大納言) 爲攝政幷氏長者。十二月一日。勅授帶劍。八日敘從一位。聽牛車。賜兵仗。元曆元年正月六日敘正二位。廿二日。停攝政內大臣。貞永元年九月六日出家。嘉禎(カテイ)四年四月四日薨。

攝政前內大臣(基通[公]第二度)

元曆元年正月廿二日還著。文治二年三月十二日。停攝政。三年三月一日給隨身兵仗。

攝政右[左]大臣(兼實[公]。法性寺關白三男。母家女房加賀。大宮大進仲光女)

文治元年十二月廿八日被下內覽宣下[旨]。二年三月十二日爲攝政幷氏長者。十六日列左大臣上。賜隨身。

聽牛車。十月十七日上表右〔左〕大臣。五年十二月十四日任太政大臣。二年十一月十七日。改攝政爲關白。准〔準〕攝政。七年十一月廿五日停關白。建仁二年正月廿八日出家。（法名圓證）承元元年四月五日薨。（年五十九）

關白前内大臣（基通〔公〕第三度）

建久七年十一月廿五日。更爲關白。九年〔正〕月〔十一〕日改關白爲攝政。

土御門院（諱爲仁）後鳥羽院第一皇子。御母承明門院。（内大臣通親公女。實法印能圓女）

元久二年正月三日御元服（十一）。承元四年十一月廿五日。御讓位。〔遷イ〕承久三年七月十三日。遷御阿波國。十一月一日遷御土佐國。後日遷御阿波國云云。寛喜三年月日。落餝。（御法名）同十月十一日崩御。（三十七）

攝政前内大臣（基通）〔第四度〕

建仁二年十一月廿七日停攝政。建永元年三月九日賜兵仗隨身。承元二年十一月五日出家。（法名行理）天福元年五月二十九日薨。（年七十四）

以上當將軍一代。（自二治承四年一至二正治元年一）帝王攝〔政〕關〔白〕奉レ載二一處一也。

治承四年。庚子。（〇吉本此行ヲ四月小ノ前行トス）

征夷大將軍正二位源朝臣。（賴朝）于レ時前右兵衞佐。從四位下行左馬頭兼播磨守義朝三男。母散位藤原季範（熱田大宮司）女。

四月小

九日。辛卯。入道源三位賴政卿。可レ討二滅平相國禪門一（淸盛）由。日者有二用意事一。然而以二私計略一。太依レ難レ遂二宿意一。今日入レ夜。相二具子息伊豆守仲綱等一。潜參二于一院第二宮之三條高倉御所一。催二前右兵衞佐賴朝（已）以下源氏等一。（討）誅二彼氏族一。可下令レ執二天下一給上之由申二行之一。仍仰二散位宗信一。被レ下二令旨一。而陸奥十郎義盛。（廷尉爲義末子）折節在京之間。帶二此令旨一。向二東國一。先相二觸前兵衞佐一之後。可レ傳二其外源氏等一之趣。所レ被二仰含一也。義盛補二八條院藏人一（名字改二行家一）〇廿七日。（〇己酉ノ誤カ）壬申。高倉宮令旨。今日到二著于前武衞將軍伊豆國北條館一。八條院藏人行家所二持來一也。武衞裝二〔束〕水干一。先奉レ遙二拜男山方一〔之後〕。謹令レ披二閱之一給。侍中者。爲レ相二觸甲斐信濃〔兩國〕源氏等一。則下二向彼國一。（首途云云）武衞爲二前右（左）衞門督信賴緣坐一。去永曆元年三月十

一日。配當國之後。數而送二十年春秋。愁而積四八餘星霜也。而頃年之間。平相國禪閤。恣管領天下。刑罰近臣。剰奉遷仙洞於鳥羽之離宮。上皇御憤。頻催叡慮御。當于此時。令旨到來。仍欲擧義兵。寔惟天與取。時至行謂歟。爰上野介平直方朝臣五代孫。北條四郎時政主者當國豪傑也。以武衞爲聟君。專顯無二忠節。因茲。最前招彼主。令披令旨給。

下　東海東山北陸三道諸國源氏幷群兵等所。

應早追討清盛法師幷從類叛逆輩事

右前伊豆守正五位下源朝臣仲綱宣。奉

最勝王勅偁。清盛法師。幷宗盛等。以威勢起凶徒。亡國家。惱亂百官萬民。虜掠五畿七道。幽閉皇院。流罪公臣。斷命流身。沈淵込樓。盜財領國。奪官授職。無功許賞。非罪配過。或召釣於諸寺之高僧。禁獄於修學僧徒。或給下於叡岳絹米。相具謀叛粮米。斷百王之跡。切一人之頭。違逆帝皇。破滅佛法。絕古代者也。于時天地悉悲。臣民皆愁。仍吾爲一院第二皇子。尋天武皇子舊儀。追討王位推取之輩。訪上宮太子古跡。打亡佛法破滅之類矣。唯非憑人力之搆。偏所仰天道之扶也。因

之姫有二帝王三寶神明之冥感一。何忽無二四岳合力之志一。然則源家之人。藤氏之人。兼三道諸國之間。堪二勇士一者。同令レ與二力追討一。若於レ不二同心一者。准二清盛法師從類一。可レ行二死流追禁之罪過一。若於レ有二勝功一者。先預二國之使一。兼御即位之後。必隨レ思可レ賜二勸賞一也。諸國宜二承知一。依宣行之。

治承四年四月九日　　前伊豆守正五位下源朝臣仲綱

五月大

十日。辛酉。下河邊庄司行平。進二使於武衞一。告申入道三品（〇頼政）用意事一云云　〇十五日。丙寅。陰。可レ被レ配流〔高倉宮〕茂仁（〇以仁）王於土左國一之旨。被二宣下一。上卿三條大納言。（實房）職事藏人右少辨行隆云云。是被レ下二平家追討令旨一事。依レ令二露顯一也。仍今日戌剋。撿非違使。兼綱。光長等。相二率隨兵一。參二彼三條高倉御所一。先レ之。得二入道三品之告一。逃出御。廷尉等雖レ追捕御所中一。遂不レ令レ見給一。此間長兵衞尉信連。取二太刀一相戰。光長郎等五六輩。爲レ之被レ疵。其後光長搦取信連。及家司一兩。女房三人一歸去云云　〇十六日。丁卯。晴。今朝。廷尉等猶闖二宮御所一。破二天井一。放二板敷一。雖レ奉レ求不二見給一。而宮御息若宮。（八條院女房三位局〔女〕盛章女腹）御二坐八條院一之間。池中納言（頼盛）爲二入道相國使一。率二精兵一。參二八條御所一。奉レ取二

若宮一。歸二六波羅一。此間洛中騷動。城外狼藉。不レ可二勝計一云云 ○十九日。庚午。雨降。高倉宮。去十五日密密入二御三井寺一。衆徒於二法輪院一。搆二御所一之由。風二聞京都一。仍源三位入道。近衞河原亭自放レ火。相二率子姪家人等一。參二向宮御方一云云 ○廿三日。甲戌。雨降。三井寺衆徒等。搆レ城深レ溝。可レ追二討平氏一之由。僉二議之一云云 ○廿四日。乙亥。入道三品中山堂幷山庄等燒亡。○廿六日。丁丑。快霽。卯尅。宮令レ赴二南都一御。三井寺無勢之間。依レ令レ恃二奈良一御上也。三位入道一族。幷寺衆徒等。候二御共一。仍左衞門督知盛朝臣。權亮少將維盛朝臣已下。入道相國子孫。率二二萬騎官兵一。追二競於宇治邊一合戰。三位入道。同子息（仲綱。兼綱。仲宗）及足利判官代義房等。梟首。（三品禪門首。非二彼面一由。謳歌云云）宮又於二光明山鳥居前一。有二御事一（御年三十云云）○廿七日。戊寅。官兵等燒二拂宇治御室戶一。是三井寺衆徒依レ搆二城郭一也。同日國源氏。幷興福。園城。兩寺衆徒中應二仲綱令旨一之輩。悉以可レ被二攻擊一之旨。於二仙洞一有二其沙汰一云云。

六月小

十九日。庚子。散位康信使者參二著于北條一也。武衞於二閑所一對面給。使者申云。去月廿六日。高倉宮有二御事一之後。請二彼令旨一之源氏等。皆以可レ被二追討一之旨。有二其沙汰一。君者正統也。殊可レ有二御用心一歟。早可レ

遁奥州方給之由所存也〔者〕。此康信母者武衞乳母妹也。依彼好。其志偏有源家。凌山川。每月進三箇度（一旬各一度）使者。申洛中子細。而今可被追討源氏由事。依爲殊重事相語康淸（稱所勞。止出仕）所差進也云云　○廿二日（三）。癸卯。康淸歸洛。武衞遣委細御書。被感仰康信之功。大和判官代邦道右筆。被加御筆幷御判云云　○廿四日。乙巳。入道源三位敗北之後。可被追討國國源氏〔之〕條。康信申狀。不可被處浮言之間。遮欲廻平氏追罸籌策。仍遣御書被招累代御家人等。藤九郎盛長爲御使。又被相副小中太光家云云　○廿七日。戊申。三浦次郎義澄（義明二男）千葉六郎大夫胤賴（常胤六男）等參向北條。日來祗候京都。去月中旬之比。欲下向之刻。依宇治懸合戰等事。爲官兵被抑留之間。于今遲引。爲散數月恐鬱。參入之由申之。日來依番役所在京也。武衞對面件兩人給。御閑談移刻。他人不聞之。

七月大

五日。乙卯。天霽風靜。昨日遣御書。被召走湯山住侶文陽房覺淵。今日參向北條御亭。武衞被談仰于件龍象而云。吾有挿心底。而法華經之讀誦。終一千部之功後。宜顯其中丹之由。雖有兼日素願。

繹已火急之間。殆難レ延ニ及後日一。仍轉讀分八百部。故欲レ啓ニ白佛陀一如何者。覺淵申云。雖レ不レ滿ニ一千部一。被レ啓ニ白一條。不レ可レ背ニ冥慮一者。則供ニ香花於佛前一。啓ニ白其旨趣一。先唱ニ表白一云。

君者。忝八幡大菩薩氏人。法華八軸持者也。禀ニ八幡太郎遺跡一。如レ舊相ニ從東八箇國勇士一。令レ對ニ治八逆凶徒八條入道相國一族一給之條。在ニ掌裏一。(裡)是併可レ依ニ此經八百部讀誦之加被一云云。武衞殊感嘆欽仰給。事訖賜ニ施物一。判官邦通取レ之。及レ晩。導師退出。至ニ門外一之程。更召ニ返之一。(云)世上無爲之時。於ニ蛭島一者。爲レ今日布施一之由。仰ニ覺淵一。頻有ニ喜悦之氣一。退去(出)云云。○十日。庚申。藤九郎盛長申云。從ニ嚴命之趣一。先相摸國內。進奉之輩多レ之。而波多野右馬允義常。山內首藤瀧口三郎經俊等者。曾以不レ應ニ恩喚一。剩吐ニ條條過言一云云。(社)○廿三日。癸酉。有ニ佐伯昌助者一。是筑前國住吉社神官也。去年五月三日配ニ流伊豆國一。先レ是。同祠官昌守。治承二年正月三日。配ニ當國一云云。而彼昌助弟住吉小大夫昌長。初參ニ武衞一。又永江藏人大中臣賴隆。同初參。是大神宮祠官後胤也。近年在ニ波多野右馬允義常之許一。近會(日)有下向ニ背主人一事上(之)。參上云云。此兩人奉ニ爲源家一。兼日顯ニ陰德一之上。各募ニ神職一之間。爲レ被レ仰ニ御祈禱事一。令レ聽ニ門下祗候一給云云。

八月小

二日。壬午。相模國住人大庭三郎景親以下。依去五月合戰事。令在京之東士等。多以下著云云〇四日。甲申。散位平兼隆（前廷尉。號山木判官。）者。伊豆國流人也。依父和泉守信兼之訴。配于當國山木郷。漸歷年序之後。假平相國禪閤之權。輝威於郡郷。是本自。依爲平家一流氏族也。然間且爲國敵。且令挿私意趣給之故。先試可被誅兼隆也。而件居所。爲要害之地。前途後路。共以可令煩人馬之間。令圖繪彼地形。爲得其意。兼日密密被遣邦通。邦通者。洛陽放遊客也。有因緣。盛長依擧申。候武衞。而求事之次。向兼隆之舘。酒宴郢曲之際。兼隆入興。數日逗留之間。如思至山川村里。悉以令圖繪說。今日歸參。武衞招北條殿於閑所。覽彼繪圖於中。軍士之可競赴之道路。可有進退用意之所所。皆以令指南給。凡見其圖之體。正如莅其境云云〇六日。丙戌。召邦道昌長等。於御前有卜筮。又以來十七日寅卯刻。點可被誅兼隆之日時訖。其後工藤介茂光。土肥次郎實平。岡崎四郎義實。宇佐美三郎助茂。天野藤内遠景。佐佐木三郎盛綱。加藤次景廉。以下。當時經廻士之内。以殊重御旨。輕身命之勇士等。各一人。次第召拔閑所。令議合戰間事給。雖未口外。偏依恃汝。被仰合之由。毎

人被ㇾ竭二歷御詞一之間。皆喜二一身拔群之御芳志一。面面欲ㇾ勵二勇敢一。是於ㇾ人雖ㇾ被ㇾ禁二獨歩之思一。至二家門草創之期一。令ㇾ求二諸人之一族一給御計也。然而於二眞實密事一者。北條殿之外。無二知ㇾ之人一云云 ○九日。己丑。有二近江國住人佐佐木源三秀義者一。平治逆亂時。候二左典廐御方一於二戰塲一竭二兵略一。而武衞坐ㇾ事之後。不ㇾ奉ㇾ忘二舊好一兮。不ㇾ諛二平家權勢一之故。得二譜相傳地佐佐木庄一之間。相二率子息等一。恃二秀衡一。（秀義嫡母夫也）赴二奥州一。至二相模國一刻。澁谷庄司重國。感二秀義勇敢一之餘。令二之留置一之間。住二當國一。既送二二十年一畢。此間。於二子息定綱盛綱等一者。所ㇾ候二子武衞之門下一也。而今日。大庭三郎景親。招二秀義一談云。景親在京之時。對二面上總介忠淸一（平家侍）之間。忠淸披二一封書狀一。令ㇾ讀二聽于景親一。是長田入道狀也。其詞云。北條四郎。比企掃部允等。爲二前武衞於大將軍一。欲ㇾ顯二叛逆之志一者。讀終。忠淸云。斯事絶二常篇一。高倉宮御事之後。諸國源氏安否。可ㇾ糺二行之由。沙汰最中。此狀到著。定有二子細一歟。早可ㇾ覽二相國禪閤一之狀也云云。景親答云。北條者已爲二彼緣者一之間。不ㇾ知二其意一。掃部允者。早世者也者。景親聞ㇾ之以降。意潛周章。與二貴客一。有二年來芳約一故也。仍今又漏二脫之一。賢息佐佐木太郎等。被ㇾ候二子武衞御方一歟。尤可ㇾ有二用意一事也云云。秀義。心中驚騷之外無ㇾ他。不ㇾ能二委細談話一。歸畢云云 ○十日。庚寅。秀義以二嫡男佐佐木太郎定綱一（近年

在二宇津宮一。此間來二澁谷一〕昨日景親所レ談之趣。申二送武衞一云云　○十一日。辛卯。定綱爲二父秀義使一。參二着北條一。景親申狀具以上啓之處。仰云。斯事四月以來。丹府動レ中者也。仍近日欲レ表二素意一之間。可レ遣レ召之處參上。尤可レ有二優賞一。兼亦。秀義最前告申。太以神妙云云　○十二日。壬辰。可レ被レ征二兼隆一事。以二來十七日一。被レ定二其期一。而殊被レ恃二思食一岡崎四郎義實。同與一義忠一之間。十七日以前。相二伴土肥次郎實平一。可二參向一之由。今日被レ仰二遣義實之許一云云　○十三日。癸巳。定綱申下明曉可二歸畢一之由上。武衞雖レ令レ留レ之給一。相二具甲胄等一。稱レ可二參上一。仍賜二身暇一。仰曰。令レ誅二兼隆一。欲レ備二義兵之始一。來十六日。必可二歸參一者。又付二定綱一。被レ遣二御書於澁谷庄司重國一。是則被二恃思食一之趣也　○十六日。丙申。自二昨日一雨降。終日不二休止一。爲二明日合戰無爲一。被レ始二行御祈禱一。住吉小大夫昌長。奉二仕天胄地府祭一。武衞自取二御鏡一。授二昌長一給云云。永江藏人賴隆勤二一千度御祓一云云。佐佐木兄弟今日可二參著一之由。被二仰含一之處。不レ參兮。暮畢。彌無二人數一之間。明曉可レ被レ誅二兼隆一事。聊有二御猶豫一。十八日者。自二御幼稚之當初一。奉レ安二置正觀音像一。被レ專二放生一事。歷二多年一也。今更難レ犯レ之。十九日者。露顯不レ可レ有二其疑一。而澁谷庄司重國。當時爲レ恩二仕平家一。佐佐木與二澁谷一。亦同意〔者〕也。感二一旦之志一。無二左右一。被レ仰二合密事於彼輩一條。依二今日不參一。頻後悔。

令レ勞二御心中一給云云　○十七日。丁酉。快晴。三島社神事也。藤九郎盛長。爲二奉幣御使一社參。無レ程歸參。(神事以前也)未刻。佐佐木太郎定綱。同次郎經高。同三郎盛綱。同四郎高綱。兄弟四人參著。定綱。經高。駕二疲馬一。盛綱高綱步行也。武衞召二覽其體一。御感淚頻浮二顏面一給。依二汝等遲參一。不レ遂二今曉合戰一。遺恨萬端之由被レ仰。洪水之間不レ意遲留之旨。定綱等謝二申之一云云。戌剋。藤九郎盛長僮僕。於二釜殿一。生二虜兼隆雜色男一。但被レ仰也。此男日來嫁二殿內下女一之間。夜夜參入。而今夜勇士等群二集殿中一之儀。不レ相二似先先形勢一。定加二推量一歟之由。依レ有二御思慮一如レ此云云。然間。非レ可レ期二明日一。各早向二山木一。可レ決二雌雄一。以二今度合戰一。可レ量二生涯之吉凶一之由。被レ仰。亦合戰之際。先可二放火一。故欲レ覽二其煙一云云。士卒已競起。北條殿被レ申云。今日三島神事也。群參之輩。下向之間。定滿レ衢歟。仍廻二牛鍬大路一者。爲二往反者一。可レ被レ咎之間。可レ行二蛭島通一者歟。武衞。被二報仰一曰。所レ思然也。但爲二事之草創一。難レ用二閑路一。將又於二蛭島通一者。騎馬之儀。不レ可レ叶。只可レ爲二大道一者。又被レ副二住吉小大夫昌長(著二腹卷一)於軍士一。是依レ致二御祈禱一也。盛綱。景廉者。承下可レ候二宿直一之由上。留二御座右一。然後蕀木北行。到二子肥田原一。北條殿。招レ駕對二定綱一云。兼隆後見。堤權守信遠。在二山木北方一。勝勇士也。與二兼隆一同時不二誅戮一者。可レ有二事煩一歟。各兄弟者。

可レ襲二信遠一。可レ令レ付二案內者一云云。定綱等申二領狀一云云。子尅。牛鍬東行。定綱兄弟。留二于信遠宅前田頭一訖。定綱。高綱者。相二具案內者一。（北條殿雜色。字源藤太）廻二信遠宅後一。經高者。進二於前庭一。先發レ矢。是源家征二平氏一。最前一箭也。于レ時明月及レ午。殆不レ異二白晝一。信遠郎從等。見二經高之競到一射レ之。信遠亦取二太刀一。向二坤方〔立〕一逢レ之。經高弃レ弓。取二太刀一向レ艮。相戰之間。兩方武勇揭焉也。經高中レ矢。其刻定綱。高綱。自二後面一來加。討二彼信遠一畢。北條殿以下。進二於兼隆舘前天滿坂之邊一。發二矢石一。而兼隆郎從。多以爲レ拜二三島社神事一參詣。其後至二留黃瀨川宿一。逍遙。然而所二殘留一之壯士等。爭レ死挑戰。此間定綱兄弟討二信遠一之後。馳二加之一。爰武衞發二軍兵一之後。出二御緣一。令レ想二合戰事一給。又爲レ令レ見二放火之煙一。以二御廐舍人江太新平次一。雖レ令レ昇二于樹之上一。良久不レ能レ見二煙之間。召下爲二宿直一所レ被二留置一之加藤次景廉。佐佐木三郎盛綱。堀藤次親家等上。被レ仰云。速赴二山木一。可レ遂二合戰一云云。手自取二長刀一。（被イ）賜二景廉一。討二兼隆之首一。可二持參一之旨。被二仰含一云云。仍各奔二向於蛭島通之堤一。三輩皆不レ及二騎馬一。盛綱景廉任二嚴命一。入二彼舘一。獲二兼隆首一。郎從等同不レ免二誅戮一。放二火於室屋一。悉以燒亡。既曉天歸參。士卒等群二居庭上一。武衞於レ緣覽二兼隆主從之頸一云云○十八日。戊戌。武衞年來之間不レ論二諍一。不レ〔淨〕有二毎日御勤行等怠一。而自今以後。令レ交二戰

場ニ給之程。定可レ有ニ不レ意御怠慢一之由。被ニ歎仰一。爰伊豆山有下號ニ法音一之尼上。是御臺所御經師。爲ニ一生不犯之者一云云。仍可レ被レ仰ニ付日日御所作於件禪尼一之旨。御臺所令レ申レ之給。即被レ遣ニ目錄一。尼申ニ領狀一云云。

心經十九卷。

八幡。若宮。熱田。八劔。大宮根。能善。駒形。走湯權現。雷電。三島。(第三第二) 熊野權現。若王子。

住吉。富士大菩薩。祇園。天道北斗。觀音。(各一卷。可ニ法樂一云云)

觀音經一卷。壽命經一卷。毘沙門經三卷。藥師呪廿一反。尊勝陀羅尼七反。毘沙門呪。一百八反。(已上。返(○吉川本、反ヲ返ニ作ル、以下同ジ)

爲ニ御所願成就御子孫繁昌一也) 阿彌陀佛名千百反。(一千反者。奉レ爲ニ父祖頓證菩提一。[也]百反者。左兵衞尉藤原正清得道也)

○十九日。己亥。兼隆親戚。史大夫知親。在ニ當國蒲屋御厨一。日者張ニ行非法一。令レ惱ニ亂土民一之間。可レ停ニ止其儀一之趣。武衞令レ加ニ下知一給。邦道爲ニ奉行一。是關東事施行之始也。其狀云。

下　蒲屋御厨住民等所。

可ニ早停ニ止史大夫知親奉行一事

右至二于東國一者。諸國一同。庄公皆可レ爲二御沙汰一之旨。親王宣旨狀。明鏡也者。住民等存二其旨一。可二安堵一者也。仍所レ仰故以下。

治承四年八月十九日

又此間。自二土肥邊一。參二北條一之勇士等。以二走湯山一爲二往還路一。仍多見二狼藉(アラハス)一之由。彼山衆徒等參訴之間。武衞今日被レ遣二御自筆御書一。被レ宥二仰之一。世上屬二無爲一之後。伊豆一所。相摸一所。可レ被レ奉二〔寄〕庄園於當山一。凡於二關東一。可レ奉レ輝(耀)二權現御威光一之趣。被レ載レ之。因レ茲。衆徒等忽〔以〕慰レ憤〔者〕也。及レ晩御臺所。渡二御于走湯山文陽房覺淵之坊一。邦(通)道。昌長等。候二御共一。世上落居之程。〔潛〕可レ令レ寄二宿此所一給云云

○廿日。庚子。三浦介義明一族已下。兼日雖レ有二重奉(進)翟一。于レ今遲參。是或隔二海路一今凌二風波一。或避二遠路一令レ泥二艱難一之故也。仍武衞先相二率伊豆相摸兩國御家人許(バカリ)一。出二伊豆國一。令レ赴二于相摸國土肥郷一給也。扈從輩。

北條四郎。　子息三郎。　同四郎。　平六時定。
藤九郎盛長。　工藤介茂光。　子息五郎親光。　宇佐美三郎助茂。
土肥次郎實平。　同彌太郎遠平。　土屋三郎宗遠。　次郎義淸。

同瀬次郎忠光。　岡崎四郎義實。　同余一義忠。　佐佐木太郎定綱。
同次郎經高。　同三郎盛綱。　同四郎高綱。　天野藤内遠景。
同六郎政景。　宇佐美平太政光。　同平次實政。　大庭平太景義。
豐田五郎景俊。　新田四郎忠常。　加藤五郎景員。　同藤太光員。
同藤次郎景廉。　堀藤次親家。　同平四郎助政。　天野平内光家。
中村太郎景平。　同次郎盛平。　鮫島四郎宗家。　七郎武者宣親。
大見平二家秀。　近藤七國平。　平佐古太郎爲重。　那古谷橘次頼時。
澤六郎宗家。　義勝房成尋。　中四郎惟重。　中八惟平。
新藤次俊長。　小中太光家。

是皆將之所ㇾ侍也。各受ㇾ命忘ㇾ家。忘ㇾ親云云。○廿二日。壬寅。三浦次郎義澄。同十郎義連。大多和三郎義久。子息義成。和田太郎義盛。同次郎義茂。同三郎義實。多多良三郎重春。同四郎明宗。筑井二郎義行以下。相二率數輩精兵一。出二三浦一參向云云。○廿三日。癸卯。陰。入ㇾ夜甚雨如ㇾ沃。今日寅刻。武衞相二率

北條殿父子。盛長。茂光。實平以下三百騎。陣二于相摸國石橋山一給。此間以二件令旨一。被レ付二御旗横上一。中四郎惟重持レ之。父賴隆。付二白幣於上箭一。候二御後一。爰同國住人。大庭三郎景親。俣野五郎景久。河村三郎義秀。澁谷庄司重國。糟屋權守盛久。海老名源三季貞。曾我太郎助信。瀧口三郎經俊。毛利太郎景行。長尾新五爲宗。同新六定景。原宗三郎景房。同四郎義行。并熊谷二郎直實以下。平家被官之輩。率二三千餘騎精兵一。同在二石橋山邊一。兩陣之際。隔二一谷一也。景親士卒之中。飯田五郎家義。依レ奉レ通二志於武衞一。雖レ擬二馳參一。景親從軍。列二道路一之間。不レ意在二彼陣一。亦伊東二郎祐親法師。率二三百餘騎一。宿二于武衞陣之後山一兮。欲レ奉レ襲レ之。三浦輩者。依レ及二曉天一。宿二丸子河邊一。遣二郎從等一。燒二失景親之黨類家屋一。其煙聳二半天一。景親等遙見レ之。知二三浦輩所爲之由一訖。相議云。今日已雖レ臨二黄昏一。可レ遂二合戰一。期二明日一者。三浦衆馳加。定難二喪敗一歟之由。群議事訖。數千强兵。襲二攻武衞之陣一。而計二源家從兵一〔雖〕雖レ比二彼大軍一。皆依レ重二舊好一。只輕レ命効レ死。然間佐那田余一義忠。并武藤三郎。及郎從豐三家康等殞レ命。景親彌乘レ勝。至二曉天一。武衞令レ逃二于椙山之中一給。于レ時疾風惱レ心。暴雨勞レ身。景親奉レ追レ之。發二矢石一之處。家義乍レ相二交景親陣中一。爲レ奉レ遁二武衞一。引二分我衆六騎一。戰二于景親一。以二此隙一。

令入椙山給云云 ○廿四日。甲辰。武衞陣于椙山內堀口邊給。大庭三郎景親。相率三千餘騎重競走。武衞令逃後峯給。此間。加藤次景廉。大見（○宇佐美カ下同）平次實政。留于將之御後防禦景親。而景廉父。加藤五景員。實政兄。大見平太政光。各依思子憐弟。不進前路。（重）扣駕發矢。此外加藤太光員。佐佐木四郎高綱。天野藤內遠景。同平內光家。堀藤次親家。同〔平〕四郎助政。同并轡攻戰。景員以下乘馬多中矢斃〔死〕。武衞又廻駕。振百發百中之藝。被相戰及度度。其矢莫必不飮羽。所射殺〔之〕者多之以。箭既窮之間。景廉取御駕之轡。奉引深山之處。景親群兵近來于四五段際。仍高綱。遠景。景廉等。數反還合發矢。北條殿父子三人。亦與景親等依令攻戰給。筋力漸疲兮。不能登峰嶺之間。不奉從武衞。爰景員。光員。景廉。祐茂。親家。實政等。申可候御共之由。北條殿。敢以不可然。早可奉尋武衞〔之〕旨。被命〔之〕間。各〔奔〕走攀登數町險阻之處。武衞者令立臥木之上給。實平候其傍。武衞。令待悅此輩之參著給。實平云。各無爲參上。雖可喜之。令率人數給者。御隱居于此山。定難遂歟。於御一身者。縱雖涉旬月。實平加計略。可奉隱（陰）云云。而此輩頻（皆）申可候御共之由。又有御許容之氣。實平重申云。今別離者。後大幸也。公私全命。廻計於外者。盍雪會稽之耻。

哉云云。依之皆分散。悲淚遮眼。行步失道云云。其後。家義奉尋御跡參上。所持參武衛御念珠也。是今曉合戰之時。令落于路頭給。日來持經之間。於狩倉邊。相摸國之輩多以奉見之御念珠也。仍周章給之處。家義求出之。御感及再三。而家義申可候御共之由。實平。如先諫申之間。泣退去訖。又北條殿。同四郎主等者。經筥根湯坂。欲赴甲斐國。同三郎者。自土肥山降桑原。經平井鄉之處。於早河邊。被圍于祐親法師軍兵。爲小草井名主紀六久重。被射取訖。茂光者。依行步不進退自殺云云。將之陣與彼等之戰場。隔山谷之間。無據于吃疵。哀慟千萬云云。景親追武衛之跡。搜求嶺溪。于時有梶原平三景時者。慥雖知御在所。存有情之慮。此山稱無人跡。曳景親之手。登傍峰。此間。武衛取御髻中正觀音像。被奉安于或巖窟。實平奉問其御意。仰云。傳首於景親等之日。見此本尊。非源氏大將軍所爲之由。人定可貽誹云云。件尊像者。武衛三歲之昔。乳母令參籠淸水寺。祈嬰兒之將來。懇篤歷二七箇日。蒙靈夢之告。忽然而得二寸銀正觀音像。所奉歸敬也云云。及晚北條殿參著于椙山陣給。爰筥根山別當行實。差遣弟僧永實。令持御駄餉。奉尋武衛。而先奉遇北條殿。問武衛御事。北條殿曰。將者不遁景親之圍給者。永實云。客者若爲試永(羊(イ))僧短慮給歟。將令亡給者。客者不

可レ存之人也者。于レ時北條殿頗咲而相ニ具之一。參二將之御前一給。永實獻二伴駄餉一。公私臨レ餓之時也。直巳千金云云。實平云。世上屬二無爲一者。永實宜レ被レ撰ニ補筥根山別當職一者。武衞亦諾レ之給。其後以二永實一。爲二仕承一。密密到二筥根山一給。行實之宿坊者。參詣緇素群集之間。隱密事。稱レ無二其便一。率レ入二永實之宅一。謂此行實者。父良尋之時。於二六條廷尉禪室（○爲義）幷左典廐（○義朝）等一。聊有二其好一。因レ茲。行實於二京都一得二父之讓一。念レ補二當山別當職一。下向之刻。廷尉禪室賜二下文於行實一。東國輩。行實若相催者可レ從者。左典廐御下文云。駿河伊豆家人等。行實令二相催一者可レ從者。然間。武衞自レ御ニ坐于北條一之比。致二御祈禱一。專存二忠貞一云云。各聞二石橋合戰敗北之由一。獨〔含〕愁歎云云。弟等。雖レ〔有〕數。守二武藝之器一。差ニ進永實一云云。三浦輩出レ城來二于丸子河邊一。自二去夜一相ニ待曉天一。欲二參向一之處。合戰已敗北之間。慮外馳歸。於二其路次由井濱一。與二畠山次郎重忠一。數尅挑戰。多多良三郎重春。幷郎從石井五郎〔等〕殞レ命。又重忠郎從五十餘〔騎〕輩。梟首之間。重忠退去。義澄以下。同之又〔歸〕三浦。此間。上總權介廣常。弟金田小大夫賴次。率二七千餘騎一。加二義澄一云云 ○廿五日。乙巳。大庭三郎景親爲レ防二武衞前途一。分二軍兵一。關ニ固方方之衞一。俣野五郎景久。相ニ具駿河國目代橘遠茂軍勢一。爲レ襲二武田一條等源氏一。赴二甲斐國一。而昨日。及二昏黑一之間。宿二

富士北麓一之處。景久幷郎從所レ帶百餘張弓弦。爲レ鼠被二食切一畢。仍失二思慮一之刻。安田三郎義定。工藤庄司景光。同子息小次郎(三)行光。市川別當行房。聞下於二石橋一被レ遂二合戰一事上。自二甲州一發向之間。於二彼志太山(波〔イ〕同)一。相二逢景久等一。各廻レ轡飛レ矢。攻二責景久一。挑戰〔移〕刻。景久等依レ絕二弓弦一。雖レ取二太刀一。不レ能レ禦二矢石一。多以中レ之。安田已下之家人等。又不レ免二劍刄一。然而景久令二雌伏一逐電云云。武衞御二坐筥根山一之際。行實之弟。智藏房良暹(チザウバウリヤウセン)。以二〔故〕前廷尉兼隆之祈禱師一。背二〔兄弟〕(行實、永實)等一。忽聚二惡徒一。欲レ奉レ襲二武衞一。永實聞二此事一。告二申武衞與二兄行實一之間。行實計申云。於二良暹之武勇一者。強雖レ非レ可レ怖。及二奉レ謀之儀一者。景親等定傳二聞之一。競馳合力歟。早可レ令レ遁給一。〔者〕仍召二具山案內者一。實平幷永實等。經二筥根通(往)一。赴二土肥鄕一給。北條殿者爲レ達二事由於源氏等一。被レ向二甲斐國一。行實差二同宿南光房一奉レ送レ之。相二伴僧一。經二山臥之巡路一。赴二甲州一給。而不レ見二定武衞到著之所一者。雖レ欲レ催二具源氏等一。彼以不二許容一歟。然者猶追二御後一。令二參上一。自二御居所一。更爲二御使一。可二顧(額)向一之由。心中令二思案一之。立還又尋二土肥方一給。南光者。赴二本山一云云〇廿六日。丙午。武藏國畠山次郎重忠。且爲レ報二平氏重恩一。且爲レ雪二由井浦會稽一。欲レ襲二三浦之輩一。仍相二具當國黨黨一。可二來會一由。觸二遣河越太郎重賴一。是重賴於二秩父家一。雖レ爲二次男流(緣)一。相二繼家督一。依レ

從二彼黨等一。及二此儀一云云。江戶太郎重長。同與レ之。今日卯剋。此事風二聞于三浦一之間。一族悉以引二籠于當所衣笠城一。各張レ陣。東木戶口。(大手)次郎義澄。十郎義連。西木戶。和田太郎義盛。金田大夫賴次。中陣。長江太郎義景。太多和三郎義久等也。及二辰剋一。河越太郎重賴。中山次郎重實。江戶太郎重長。金子。村山輩已下。數千騎攻來。義澄等雖二相戰一。昨(由比戰)今兩日合戰。力疲矢盡。臨二半更一。捨レ城逃去。欲レ相二具義明一。義明云。吾爲二源家累代家人一。幸逢二于其貴種再興之代一也。盍レ喜レ之哉。所レ保已八旬有余也。計二餘算一。不レ幾。今投二老命於武衞一。欲レ募二子孫之勳功一。汝等急退去兮。可レ奉レ尋二彼存亡一。吾獨殘二留于城郭一。摸二多軍之勢一。令レ見二重賴一云云。義澄以下涕泣雖レ失レ度。任レ命慭以離〔散者〕訖。又景親行二向澁谷庄司重國許一云。佐佐木太郎定綱。兄弟四人。屬二武衞一。奉レ射二平家一畢。其科不レ足レ宥。然者尋二出彼身一之程。於二妻子等一者。可レ爲二囚人一者。重國答云。件輩者。依レ有二年來芳約一。加二扶持一訖。而今重二舊好一。而參二源家一事。無レ據三于加二制禁一歟。重國就二貴殿之催一。相二具外孫佐佐木五郎義淸一。向二石橋一之處。不レ思二其功一。可レ召二禁定綱已下妻子一之由蒙レ命。今更所レ非二本懷一也者。景親伏レ理。歸去之後。入レ夜定綱。盛綱。高綱等。出二宮根深山一之處。行二逢醍醐禪師全成一。相二伴之一到二于重國澁谷之舘一。重國乍レ喜。憚二世上之聽一。招二于庫倉之內一。

密密羞レ膳勸レ酒（肴膳勸酒）（次）。此間二郎經高者。被三討取一敵之由。重國問レ之。定綱等云。令三誘引一之處。稱レ有二存念一。不二伴來一者。重國云。存二子息之儀一。已年久。去比參二武衛一之間。重國一旦雖レ加二制一。不レ叙二用之一。遂令レ參畢。合戰敗績之今。恥二重國心中一。不レ來與者。則遣二郎從等於方方一。令二相尋一云云。重國有レ情。聞者莫レ不レ感云云

○廿七日。丁未。朝間小雨。申剋已後。風雨殊甚。辰剋三浦介義明。（年八十九）爲二河越太郎重頼。江戸太郎重長等一。被二討取一。齡八旬餘。依レ無二人于扶持一（之）也。義澄等者。赴二安房國一。北條殿。同四郎主。岡崎四郎義實。近藤七國平等。自二土肥鄕岩浦一。令レ乘レ船。又指二房州一解レ纜。而於二海上一。並二舟船一。相二逢于三浦之輩一。互述二心事伊欝一云云。此間景親率二數千騎一。雖レ攻二來于三浦一。義澄等渡海之後也。仍歸去云云。加藤五景員。幷子息光員。景廉等。去廿四日以後。三箇日之間。在二筥根深山一。各粮絕魂疲。心神惱（惱）然。就レ中景員衰老之間。行步進退谷（苦）也。于レ時訓二兩息一云（云不同）。吾齡老矣。縱雖レ開二愁眉一。不レ可レ有二延命（壽）之計一。汝等以二壯年之身一。徒莫レ殞レ命。弃二置吾於此山一。可レ奉レ尋二源家一者。然間。光員等周章雖レ斷レ腸。送二老父於走湯山一。（於二此山一。景員遂二出家一云云）兄弟赴二甲斐國一。今夜亥刻。〔到〕著二于伊豆國府被レ土（被出）一之處。土人等怪レ之。追奔之間。光員。景廉。共以分散。互不レ知二行方一云云

○廿八日。戊申。光員。景廉兄弟於二駿河國大岡牧一。各相逢。悲

洟更濕襟。然後引龍富士山麓云云。武衞自土肥眞名（イ無）鶴崎乘船。赴（趣）安房國方給。實平。仰土肥住人貞恒。糚（粧）小舟云云。自此所。以土肥彌太郎遠平。爲御使。被進御臺所御方。被申別離以後愁緒云云〇廿九日。己酉。武衞相具實平。掉（棹）扁舟。令著于安房國平北郡獵島（カリノシマ）給。北條殿以下人人。拜迎之。數日蓄念一時散開云云。

九月大

一日。庚戌。武衞可有渡御于上總介廣常許之由。被仰合。北條殿以下。各申可然之由。爰安房國住人。安西（アンザイ）三郎景益者。御幼稚之當初。殊奉昵近者也。仍最前被遣御書。其旨（イ無）趣。令旨嚴密之上者。相催在廳等。可令參上。又於當國中京下輩者。悉以可搦進之由也。〇二日。辛亥。御臺所自伊豆山還秋戶鄉給。不奉知武衞安否。獨漂悲淚給之處。今日申剋。土肥彌太郎遠平爲御使。自眞名鶴崎參著。雖申日來子細。不被知食御乘船後事。悲喜計會云云〇三日。壬子。景親。乍爲源家譜代御家人。今度於所所。奉射之次第。一旦匪守平氏命。造意企。已似有別儀。但令一味彼凶徒之輩者。武藏相摸住人計也。其內。猶（於）三浦中（仲）村者。今在御共。然者景親謀計。有何事［之］哉之由。有其

沙汰。仍被遣御書於小山四郞朝政。下河邊庄司行平。豐島權守淸元。葛西三郞淸重等。是各相語有志之輩。可參向之由也。就中淸重於源家抽貞節者也。而其居所。在江戶河越等中間。進退難治定歟。早經海路。可參會之旨。有慇懃之仰云云。又可調進綿衣之由。被仰豐島右馬允朝經之妻女云云。朝經在京留守之間也。今日。自平北郡赴廣常居所給。漸臨昏黑之間。止宿于路次民屋給之處。當國住人長狹六郞常伴。其志依在平家。今夜擬襲此御旅館。而三浦二郞義澄爲國郡案內者。竊聞彼用意。遮襲之。暫雖相戰。常伴。遂敗北云云○四日。癸丑。安西三郞景益。依給御書。相具一族幷在廳兩三輩。參上于御旅亭。景益申云。無左右有入御于廣常之許條不可然。如長狹六郞之謀者。猶滿衢歟。先遣御使。爲御迎可參上之由。可被仰云云。仍自路次。更被迴御駕。渡御于景益之宅。被遣和田〔小〕太郞義盛於廣常之許。以藤九郞盛長。遣千葉介常胤之許。各可參上之趣也〔云云〕○五日。甲寅。有御參洲崎明神。寶前凝丹祈給。所遣召之健士。悉令歸往者。可奉寄功田。貢神威由。被奉御願書云云。○六日。乙卯。及晚。義盛。〔歸イ〕參申〔談〕云。談千葉介常胤之後。可參上之由。廣常申之云云。○七日。丙辰。源氏木曾冠者義仲主者。帶刀先生義賢二男也。義賢者。久壽二年八月。於

武藏國大倉館一。爲二鎌倉惡源太義平主一。被レ討亡一。于レ時義仲。爲二三歳嬰兒一也。乳母夫中三權守兼遠懷レ之遁二〔下〕于信濃國一。〔木曾〕令レ養二育之一。成人之今。武略稟性。征二平氏一。可レ興レ家之由有二存念一。而前武衞於二石橋一。已被レ始二合戰一之由達二遠聞一。忽相加欲レ顯二素意一。爰平家方人（カタフト）。有二笠原平五頼直者一。今日相二具軍士一。擬レ襲二木曾一。木曾方人。村山七郎義直。并栗田寺別當大法師範覺等。聞二此事一。相二逢于當國市原一。決二勝負一。兩方合戰半。日已暮。然義直。箭窮頗雌伏。遣二飛脚於木曾之陣一。告二事由一。仍木曾率二〔來〕大軍一。競到之處。頼直怖二其威勢一逃亡。爲二〔加〕城四郎長茂一赴二越後國一云云 ○八日。丁巳。北條殿爲二使節一。進二發甲斐國一給。相二伴彼國源氏等一。到二信濃國一。於二歸伏之輩一者。早相二具之一。至（到）二驕奢之族一者。可レ加二誅戮一之旨。依レ含二嚴命一也 ○九日。戊午。盛長自二千葉一歸參申云。至二常胤之門前一。案内處。不レ經二幾程一。招二請于客亭一。常胤。兼以在二彼坐一。子息胤正。胤頼等在二座傍一。常胤具雖レ聞二盛長之所一レ述。暫不レ發レ言。只如レ眠。而件兩息同音云。武衞興二虎牙跡一。鎭二狼唳一給。縡（綺）最初。有二其召一。服應何及二〔猶〕豫儀一哉。早可レ被レ獻二領狀之奉書一。常胤之心中。領狀更無二異儀一。令レ興二源家中絕跡一給之條。感涙遮レ眼。非二言語之所一レ覃也者。其後。有二盃酒一次。當時御居所。非二指（サセル）要害地一。又非二御曩跡一。速可下令レ出二相摸國鎌倉一給上。常胤相二率門客等一。爲二御

迎可參向之由申也。〇十日。己未。甲斐國源氏武田太郎信義。一條次郎忠頼已下。聞石橋合戰事。奉尋武衞。欲參向于駿河國。而平氏方人等。在信濃國云云。仍先發向彼國。去夜止宿于諏方上宮庵澤之邊。及深更。靑女一人來于一條次郎忠頼之陣。稱有可申事。忠頼乍恠。招于火爐頭謁之。女云。吾者當宮大祝篤光妻也。爲夫之使參來。篤光申。源家御祈禱。爲抽丹誠參籠社頭。既三箇日。不出里亭。爰只今夢想。著梶葉文直垂。駕葦毛馬之勇士。一騎〔稱源氏方人指〕西揚鞭畢。是偏大明神之所示給也。何無其恃哉。覺之後。雖可令參啓。侍社頭之間。令著(差)進云云。忠頼殊信仰。自求(取)出野劍一腰。腹卷一領。與彼妻。依此告。則出陣襲到〔于〕平氏方人管(營イ同)冠者伊那郡大田切鄕之城。冠者聞之。未戰放火於舘。自殺之間。各陣于根上河原。相議云。去夜有祝夢想。今忠管(營イ同)冠者滅亡。預明神之罰歟。然者奉寄附田園於兩社。追可申事由於前武衞歟者。皆不及異儀。召執筆令書寄進狀。上宮分。當國平出。宮所。兩鄕也。下宮分。龍市一鄕也。而筆者誤書加岡仁谷鄕。此名字。衆人未覺悟。稱不可然由。再三雖令書改。每度載兩鄕名字之間。任其旨訖。相尋古老之處。號岡仁谷之所。在之者。信義忠頼等拊(握)掌。上下宮不可有勝劣之神慮已据(炳)焉。彌催强盛信。歸敬禮拜。其後於平家有志之由。

風聞之輩者。多以糺斷云々　○十一日。庚申。武衞巡見安房國丸御厨給。丸五郎信俊。爲案內者候御供。當所者。御曩祖豫州禪門。（○賴義）平東夷給之昔。最初朝恩也。左典廐。（○義朝）令請延尉禪門（○爲義）御讓給時。又最初之地也。而爲被祈申武衞御昇進事。以御數通。去平治元年六月一日。奉寄伊勢大神宮給。果而同廿八日。補藏人給。而今懷舊之餘。令莅其所給之處。廿餘年往事。更催數行哀淚云々。爲御厨之所。必尊神之及惠光給歟。仍無障礙于宿望者。當國中立新御厨。重以可寄附彼神之由。有御願書。所被染御自筆也　○十二日。辛酉。令奉寄神田於洲崎宮給御寄進狀。今日被遂進社頭云々　○十三日。壬戌。於安房國。令赴上總國給。所從之精兵及三百餘騎。而廣常聚軍士等之間。猶遲參云々。今日。千葉介常胤相具子息親類。欲參于源家。爰東六郎大夫胤賴談父云。當國目代者。平家方人也。吾等一族。悉出境參源家。定可挿兇害。先可誅之歟云々。常胤早行向。可追討之旨。加下知。仍胤賴。幷甥小太郎成頴。（○誤）相具郎從等競襲彼所。目代元自有勢者也。令下數千許輩。防戰。于時北風頻扇之間。成胤。廻僕從等於舘後。令放火。家屋燒亡。目代。爲遁火難。已忘防戰。此間。賴胤。（○誤）獲其首。○十四日。癸亥。下總國千田庄領家判官代親政者。刑部卿忠盛朝

臣輩也。平相國禪閤通其志之間。聞日代被誅之由。率軍兵。欲襲常胤。依之常胤孫子小太郎成胤相戰。遂生虜親政訖 ○十五日。甲子。武田太郎信義。一條次郎忠頼已下。討得信濃國中凶徒。去夜歸甲斐國。宿于逸見山。而今日北條殿到著其所給。被示仰趣於客等云云 ○十七日。丙寅。不待廣常參入。令向下總國給。千葉介常胤相具子息太郎胤正。次郎師常。(號相馬。)三郎胤成。(武石)四郎胤信。(大須賀)五郎胤道。(國分)六郎大夫胤頼。東。嫡孫小太郎成胤等。參會于下總國府。從軍及三百餘騎也。常胤先召覽囚人千田判官代親政。次獻駄餉。武衞令招常胤於座右給。須以司馬。爲父之由被仰云云。常胤相伴一弱冠。進御前云。以之可被用今日御贈物云云。是陸奥六郎義隆男。號毛利冠者頼隆也。著紺村濃鎧直垂。加小具足。跪常胤之傍。見其氣色給。尤可謂源氏之胤子。仍感之。忽請常胤之座上給。父義隆者。去平治元年十二月。於天台山龍華越。奉爲故左典廐弃命。于時頼隆産生之後。僅五十餘日也。而被處件縁坐。永暦元年二月。仰常胤。配下總國云云 ○十九日。戊辰。上總權介廣常。催具當國。周東。周西。伊南。伊北。廳南。廳北輩等。率二萬騎。參上隅田河邊。武衞。頗瞋彼遲參。敢以無許容之氣。廣常潛以爲。當時者。率土皆無非平相國禪閤之管領。爰武衞爲流人。輙

被レ擧二義兵一之間。其形勢無二高喚〔峻〕相一者。直討二取之一。可レ獻二平家一者。仍內雖レ挿二二圖之存念一。外備二歸伏之儀一參。然者得二此數萬合力一。可レ被二感悅一歟之由。思儲之處。有下被レ咎二遲參一之氣色上。〔是〕殆叶二人主之體一也。依レ之。忽變二害心一。奉二和順一云云。陸奧鎭守府前將軍從五位下平朝臣良將男。將門。虜二領東國一。企二叛逆一之昔。藤原秀鄕僞稱下可レ列二門客一之由上。〔而〕入二彼陣一之處。將門喜悅之餘不レ肆二所レ梳之髮一。即引二入烏帽子一謁レ之。秀鄕見二其輕骨一存下可二誅罰一也〔之〕。（〇誤カ）趣上退出。如二本意一。獲二其首一云云 〇廿日。己巳。土屋三郎宗遠。爲二御使一向二甲斐國一。安房。上總。下總以上三箇國軍士〔兵イ〕共悉以參向。仍又相二具上野下野武藏等國國精兵一。至二駿河國一。可レ相二待平氏之發向一。早以二北條殿一爲二先達一。可レ被レ來二向黃瀨河一之旨。可レ相二觸武田太郎信義以下源氏一之由云云 〇廿二日。辛未。左近少將惟盛朝臣。爲レ襲二源家一。欲レ進二發東國一之間。攝政家被レ遣二御馬一。御厩案主兵衞志淸方爲二御使一。羽林。出二逢御使一。請二取御馬一云云。去嘉承二年十二月十九日。彼高祖正盛朝臣（于レ時因幡守）奉二宣旨一。爲レ追二討對馬守源義親一發向之日。參二殿下一申レ暇。退出之後。被レ遣二御馬於彼家一。御使御厩案主。兵衞志爲貞也。依二佇古例一。今及二此儀一歟 〇廿四日。癸酉。北條殿。幷甲斐國源氏等。去二逸見山一。來二宿于石樂〔禾〕御厨一之處。今日子剋。宗遠馳著。傳二仰之旨一。仍武田太郎信儀〔義イ同〕。一

條二郎忠頼已下群集。可參會于駿河國由各凝評議云云〇廿八日。丁丑。遣御使。被召江戸太郎重長。依景親之催。遂石橋合戰。雖有其謂。守令旨。可奉相從。重能。有重。折節在京。於武藏國。當時汝已爲棟梁。專被恃思食之上者。催具便宜勇士等。可豫參之由云云〇廿九日。戊寅。所奉從之軍兵。當參已一萬七千餘騎也。甲斐國源氏。幷常陸下野上野等國軍參加者。假令可及五萬騎云云。而江戸太郎重長。依令與景親。于今不參之間。試昨日雖被遣御書。猶追討可宜之趣有沙汰。被遣中四郎惟重於葛西三郎清重之許。可見太井要害之由。僞而令誘引重長。可討進之旨。所被仰也。江戸。葛西。雖爲一族。清重。依不存貳。如此云云。又被遣專使於佐那田餘一義忠母之許。是義忠石橋合戰時。忽奉命於將殞亡。殊令感給之故也。彼幼息等在遺跡。而景親已下。相摸伊豆兩國凶徒輩。成阿黨於源家之餘。定挿害心歟之由。賢慮思食疑之間。爲令安全。早可送進于當時御在所（下總國）之由被仰遣云云。今日小松少將進發關東。薩摩守忠度。參河守知度等從之云云。是石橋合戰事。景親八月廿八日飛脚。九月二日入洛之間。日來有沙汰。首途云云〇卅日。己卯。新田大炊助源義重入道。（法名上西）臨東國未一揆之時。以故陸奥守（〇義家）嫡孫。挿自立志之間。武衞雖遣御書。不能返報。引籠

上野國寺尾城一。聚二軍兵一。又足利太郎俊綱。爲二平家方人一。燒二拂同國府中民居一。是屬二源家一輩令二居住一之故也。

十月小

一日。庚辰。甲斐國源氏等。相二具精兵一。競來之由。風二聞于駿河國一。仍當國目代。橘遠茂。催二遠江駿河兩國之軍士一。儲二于興津之邊一云云。於二石橋合戰之時一。令二分散一之輩。今日多以參二向于武衞鷺沼御旅舘一。又醍醐禪師全成。同有二光儀一。被レ下二令旨一之由。於二京都一。傳二聞之一。潜出二於本寺一。以二修行之體一。下向之由。被レ申レ之。武衞泣令レ感二其志一給云云 ○二日。辛巳。武衞相二乘于常胤廣常等之舟檝一。濟二太〔大イ同〕井隅田兩河一。精兵及二三萬餘騎一。赴二武藏國一。豐島權守淸光〔元〕。葛西三郎淸重等。最前參上。又足立右馬允遠元。兼日依レ受レ命。爲二御迎〔使〕一參向云云。今日。武衞御乳母〔子〕。故八田武者宗綱息女。(小山下野大掾政光〔元〕妻。號二寒河尼一。) 相二具鍾愛末子一。參二向隅田宿一。則召二御前一。令レ談二往事一給。以二彼子息一。可レ令レ致二昵近奉公一之由望申。仍召二出之一。自加二首服一給。取二御烏帽子一授レ之給。號二小山七郎宗朝一。(後改二朝光一。)今年十四歲也云云 ○三日。壬午。千葉介常胤含二嚴命一。遣二子息郞從等於上總國一。追二討伊北庄司常仲一。(伊西新介常景男) 伴類悉獲レ之。千葉小太郎胤正。專竭二勳功一。彼常仲。依レ爲二長佐六郎外甥一。所レ被レ誅也〔之〕云云。○四日。癸未。畠山次郎重忠。參二會長井渡一。

河越太郎重賴。江戸太郎重長。又參上。此輩(類)討二三浦介義明一者也。而義澄以下子息門葉。多以候二御供一勵二武功一。重長等者。雖レ奉レ射二源家一。不レ被レ抽二賞有勢之輩一者。綷(縡)難レ成歟。存二忠直一者。更不レ可レ貽レ憤之旨。衆以被レ仰二含于三浦一黨一。彼等申下無二異心一之趣上。仍各相互合レ眼列座者也 ○五日。甲申。武藏國諸雜事等。仰下在廳官人幷諸郡司等上。可レ令レ致二沙汰一之間(旨)。所レ被レ仰二付江戸太郎重長一也 ○六日。乙酉。著二御于相摸國一。畠山次郎重忠。爲二先陣一。千葉介常胤候二御後一。凡扈從軍士。不レ知二幾千萬一。楚忽之間。未レ及二營作沙汰一。以二民屋一被レ定二御宿館一云云 ○七日。丙戌。先奉レ遙二拜鶴岡八幡宮一給。次監(覽)二臨故左典廐之龜谷(カメガヤツ)御舊跡一給。即點二當所一。可レ被レ建二御亭一之由。雖レ有二其沙汰一。地形非レ廣。又岡崎平四郎義實。爲レ奉レ訪二彼沒後一。建二一梵宇一。仍被レ停二其儀一云云 ○八日。丁亥。足立右馬允遠元。日者有レ勞之上。應二最前召一參上之間。領二掌郡(邦)鄕一事。不レ可レ有二違失一之旨被レ仰云云 ○九日。戊子。爲二大庭平太景義奉行一。被レ始二御亭作事一。但依レ難レ致二合期沙汰一。暫點二知家事(兼道)山内宅一。被レ移二建之(立之)一。比(此)屋。正曆年中建立之後。未レ遇二回祿之災一。晴明(ハレアキラ)朝臣。押二鎭宅府(荷〔イ〕同)一之故也 ○十一日。庚寅。卯尅御臺所入二御鎌倉一。景義奉レ迎。〔之〕去月(夜〔イ〕同)自二伊豆國阿岐戸鄕一。雖下令二到著一給上。依二日次(ヒナミ)不一レ宜。止二宿稻瀨河邊民居一給云云。又走湯山住侶專光坊良暹。依二兼日御契約一參著。是武衞

年來御師檀也　○十二日。辛卯。快晴。寅剋。爲レ崇二祖宗一。點二小林郷之北山一。搆二宮廟一。被レ奉レ遷二鶴岳宮於此所一。以二專光坊一。暫爲二別當職一。令三景義執二行宮寺事一。武衞此間潔齋給。當宮御在所。本新兩所用捨。賢慮猶危給之間。任二神鑒一。於二寶前一自令レ取レ探給。治二定當砌一訖。然而未レ及二花搆之飾一。先作二茅茨之營一。本社者。後冷泉院御宇。伊豫守源朝臣頼義。奉二勅定一。征二伐安倍貞任一之時。有二丹祈之旨一。康平六年秋八月。潜勸請石清水一。建二瑞籬於當國由比郷一。（今號二之下若宮一）永保元年二月。陸奥守同朝臣義家。加二修復一。今又奉レ遷二小林郷一。致二蘋蘩禮奠一云云　○十三日。壬辰。木曾冠者義仲。尋二亡父義賢主之芳躅一。出二信濃國一。入二上野國一。仍住人等漸和順之間。爲二俊綱一。（足利太郎也）雖レ煩二民間一。不レ可レ成二恐怖思一之由。加二下知一云云。又甲斐國源氏。幷北條殿父子。赴二駿河國一。今日暮令レ止二宿大石驛一云云　戌剋。駿河目代。以二長田入道之計一。廻二富士野一襲來之由。有二其告一。先之仍相二逢途中一。可レ遂二合戰一之旨群議。武田太郎信義。次郎忠頼。三郎兼頼。兵衞尉有義。安田三郎義定。逸見冠者光長。河内五郎義長。伊澤五郎信光等越二富士北麓若彦路一。爰加藤太光員。同藤次景廉。石橋合戰以後。逃二去于甲斐國方一。而今相二具此人人一。到二駿州一云云　○十四日。癸巳。午剋。武田安田人人。經二神野幷春田路一。到二鉢田邊一。駿河目代率二多勢一。赴二甲州一之處。不レ意相二逢于此所一。境連レ山

峯一。道時二磐石一之間。不レ得レ進二於前一。不レ得レ退二於後一。而信光主相二具景廉等一。進二先登一。兵法闘レ力攻戰。遠茂暫時雖レ廻二防禦之構一。遂長田入道子息二人梟首。遠茂爲二囚人一。從軍失(舍イ矢)レ壽被レ疵者。不レ知二其員一。列レ後之輩。不レ能レ發レ矢。悉以逃亡。酉剋梟二彼頸於富士野傍伊堤之邊一云云　○十五日。甲午。武衛始入二御鎌倉御亭一。此間爲二景義奉行一。所レ令二修理一也　○十六日。乙未。爲二武衛御願一。於二鶴岳若宮一。被レ始二長日勤行一。所レ謂法華。仁王。最勝王等。鎭二護國家一三部妙典。其外大般若經。觀世音經。藥師經。壽命經等也。供僧奉二仕之一。以二相摸國桑原鄕一。爲二御供新所一。又今日令レ進二發駿河國一給。平氏大將軍小松少將惟盛朝臣。率二數萬騎一。去十三日。到二著于駿河國手越驛一之由。依レ有二其告一也。今夜至二于相摸國府六所宮一。於二此所一。被レ奉レ寄二當國早河庄於筥根權現一。其御下文。相二副御自筆御消息一。差二雜色鶴太郎一。被レ遣二別當行實之許一。御書之趣。存二知之忠節一之由。前前知食之間。敢無二疎簡之儀一。殊以可レ疑(凝イ同)二丹祈一之由也。御下文云。

奉レ寄　筥根權現御神領事

相摸國早河本庄

爲二於筥根別當沙汰一。早可レ被二知行一也

右件於御庄者。前兵衞佐爲源頼朝沙汰。所寄進也。全以不可有其妨。仍爲後日沙汰。注文書以申

治承四年十月十六日

○十七日。丙申。爲誅波多野右馬允義常。被遣軍士之處。義常聞此事。彼討手。下河邊庄司行平等。未到以前。於松田郷自殺。子息有常者。在景義之許。遁此殃。義常姨母者。中宮大夫進(朝長)母儀。(典膳大夫久經爲子) 仍父義通。就妹公之好。始候左典廐之處。有不和之儀。去保元三年春之比。俄辭洛陽。居住波多野郷云云 ○十八日。丁酉。大庭三郎景親。爲加平家之陣。伴件一千騎。欲發向之處。前武衞〔引〕率二十萬騎精兵。越足柄給間。景親失前途。逃亡于河村山云云。今日伊豆山專當。捧衆徒狀。馳參。路次兵革之間。軍兵等。以當山結界之地。爲往反路之間。狼藉不可斷絕歟。爲之如何云云。仍可停止諸人濫吹之旨。下御書被宥仰。其狀云。

謹請　走湯山　大衆解狀旨

早可令停止彼山狼藉等令喜悅御祈禱次第事。

右所レ致祈念法力。已以令二成就一畢。是無二他念一。偏仰二權現御利生旨一也。不レ可レ致二狼藉一事。彼山。是新皇并兵衞佐殿御祈禱所也。仍亂惡之輩。不レ可二亂入一。故所レ仰下知如レ件

治承四年十月十八日

及レ晩。著二御黃瀨(キセ)河一。以二來廿四日一。被レ定二箭合(ヤアハセ)之期一。爰甲斐信濃源氏。并北條殿。相二率二萬騎一。任(マカセ)二兼日芳約一。被レ參二會于此所一。武衞謁給。各先依二蕩光夢想及菅冠者等事一。奉レ附二其所於諏方上下社一事。面面申レ之。寄進事。尤叶二御素意一之由。殊被レ感二仰之一。次與二駿河目代一。合戰事。其伴黨生虜十八人。召二覽之一。又同時合戰問。(之際)加藤太光員。討二取目代遠茂郎等一(生虜郎等)生二虜一人一。藤次景廉討二同郎等二人一。生二虜一人一之由申レ之。工藤庄司景光。於二波[志]太山一。與二景久一攻戰。竭二忠節一之旨言上。皆被レ仰二可レ行レ賞之趣一。于レ時令レ與二景親一。奉レ射二源家一之輩。後悔銷(鎖イ同)レ魂云云。仍荻野五郎俊重。曾我太郎祐信等。束レ手參上云云。入レ夜。實平宗遠等獻二盃酒一。此間。北條殿父子已下。伊豆相摸人人。各賜二御馬御直垂等一。其後。以二實平一。爲二御使一。可レ修二理松田御亭一(故中宮大夫進舊宅)之由。被レ仰二中村庄司宗平一云云　○十九日。戊戌。伊東次郎祐親法師。爲レ屬二小松羽林一。浮二船於伊豆國鯉名(コヒナ)泊一。擬レ廻二海上一之間。天野藤內遠景。窺(竊)二得之一。令二生虜一。今日相具。

參黃瀨河御旅亭。而祐親法師聟。三浦次郎義澄。參上御前申預之。罪名落居之程。被仰召預于義澄之由。先年之比。祐親法師欲奉度武衞之時。祐親二男九郎祐泰依告申之。令遁其難給訖。優其功可有勸賞之由。召行之處。祐泰申云。父已爲御怨敵。爲囚人。其子爭蒙賞乎。早可申身暇者。爲加平氏上洛云云。世以美談之。其後。加加美次郎長淸參著。去八月上旬出京。於路次發病之間。一兩月休息美濃國神地邊。去月相扶。先下著甲斐國之處。一族皆參之由承之。則揚鞭。兄秋山太郎者。猶在京之旨申之。此間。兄弟共屬知盛卿。在京都。而八月以後。頻有關東下向之旨。仍寄事於老母病痾。雖申身暇不許。爰高橋判官盛綱。爲鷹裝束。招請之次。談話世上雜事。得其便。愁不被許下向事。盛綱聞之。向持佛堂之方。合手殆慚謝云。當家之運因斯時者歟。於源氏人人者。家禮猶可被怖畏。况亦如抑留下國事。頗似服仕家人。則稱可送短札。獻狀於彼知盛卿云。加加美。下向事。早可被仰左右歟云云。卿翻盛綱狀。裏有返事(イ無)。其詞云。加加美甲州下向事。被聞食候訖。但兵革連續之時遠向尤背御本懷。急可歸洛之由。可令相觸給之趣所候也云云　〇廿日。己亥。武衞令到駿河國賀島給。又左少將惟盛。薩摩守忠度。參河守知度等。陣于富士河〔而〕西岸。而及半更。武田

太郎信義。廻二兵略一。潜襲二件陣後面一之處。所レ集二于富士沼一之水鳥等群立。其羽音偏成二軍勢之粧一。依レ之平氏等驚騒。爰次將上總介忠淸等相談云。東國士卒。悉屬二前武衞一。吾等憖（ナマジイニ）出二洛陽一。於二中途一已難レ遁レ圍。速令二歸洛一。可レ構二謀於外一云云。羽林已下任二其詞一。不レ待二天曙一。俄以歸洛畢。于レ時飯田五郎家義。同子息太郎等。渡レ河追二奔平氏從軍一之間。伊勢國住人伊藤武者次郎。返合相戰。飯田太郎忽被二射取一。家義又討二伊藤一云云。印東次郎常義者。於二鮫島一被レ誅云云 ○廿一日。庚子。爲レ追二攻小松羽林一。被レ命下可二上洛一由於士卒等上。而常胤。義澄。廣常等諫申云。常陸國佐竹太郎義政。并同冠者秀義等。乍レ相二率數百軍兵一。未二武衞歸伏一。就レ中秀義父四郎隆義。當時從二平家一在京。其外驕者。猶多二境内一。然者先平二東夷一之後。可レ至二關西一云云。依レ之令レ還二宿黄瀨河一給。以二安田三郎義定一。爲二守護一遠江國被二差遣一。以二武田太郎信義一。所レ被レ置二駿河國一也。今日弱冠一人。御旅館之砌。稱下可レ奉レ謁二鎌倉殿一之由上。實平。宗遠。義實等恠レ之不レ能二執啓一。移レ剋之處。武衞自令レ聞二此事一給。思二年齡之程一。奥州九郎歟。早可レ有二御對面一者。仍實平請二彼人一果而義經主也。即參二進御前一。互談二往事一。催二懷舊之涙一。就レ中。白河院御宇永保三年九月。曾祖陸奥守源朝臣義家。於二奥州一。與二將軍三郎武衡者。同四郎家衡等一。遂二合戰一。于レ時左兵衞尉義光。候二京都一。傳二聞此事一。辭二朝

廷警衛之當官一。解二置弦袋於殿上一。落下二向奧州一加二于兄軍陣一之後。忽被レ亡レ歟訖。今來臨尤協二彼佳例一之由。被二感仰一云云。此主者去平治二年正月。於二襁褓之內一。逢二父喪一之後。依二繼父一條大藏卿(長成)之扶持一。爲二出家一登山。(鞍馬)至二成人之時一。頻催二會稽之思一。手自加二首服一。恃二秀衡之猛勢一。下二向于奧州一。歷二多年一也。而今傳二聞武衛被レ遂二宿望一之由上。欲二進發一處。秀衡强抑留之間。密密遁二出彼舘一首途。秀衡失二恪惜之術一。追而奉レ付二繼信忠信兄弟之勇士一。云云。秉レ燭之程。御湯殿。令レ詣二三島社一給。御祈願已成就。偏依二明神冥助一之由。御信仰之餘。點二當國內一。奉レ寄二神領一給。則於二寶前一。令レ書二御寄進狀一給。其詞云。

伊豆國御園。河原谷。長崎。

可三早奉レ免二敷地一三島大明神一

右件鄉園者。爲二御祈禱安堵公平一。所二寄進一如レ件

治承四年十月廿一日

源朝臣

○廿二日。辛丑。飯田五郎家能持二參平氏家人伊藤武者次郎首一。申二合戰次第。幷子息太郎討死由一。昨日依二御

神拜事。故不參之由云云。武衞被感仰家能云。本朝無雙勇士也。於石橋。乍相伴景親。戰景親奉遁說。今又竭此勳功。末代不可有如此類者。諸人無異心云云　○廿三日。壬寅。著于相摸國府給。始被行勳功賞。北條殿及信義。義定。常胤。義澄。廣常。義盛。實平。盛長。宗遠。義實。親光。定綱。經高。盛綱。高綱。景光。遠景。景義。祐茂。行房。景員入道。實政。家秀。家義。以下或安堵本領。或令浴新恩。亦義澄爲三浦介。行平。如元可爲下河邊庄司之由。被仰云云。大庭三郎景親。遂以爲降人。參此所。卽被召預上總權介廣常。長尾新五爲宗。召預岡崎四郎義實。同新六定景。被召預義澄。河村三郎義秀。被收公河村鄕。被預景義。又瀧口三郎經俊。召放山內庄。被召預實平。此外石橋合戰餘黨。雖有數輩。及刑法。之僅十之一歟云云　○廿五日。甲辰。入御松田御亭。此所。中村庄司奉仰。日來所加修理也。侍廿五箇間萱葺屋也云云　○廿六日。乙巳。大庭平太景義囚人河村三郎義秀。可行斬罪由被仰含云云。今日於固瀨河邊。景親梟首。弟五郎景久者。志猶在平家之間。潛上洛云云　○廿七日。丙午。進發常陸國給。是爲追討佐竹冠者秀義也。今日爲御衰日之由。人人雖傾申。去四月廿七日。令旨到著。仍領掌東國給之間。不可及日次沙汰。於如此事者。可被用廿七日云云。

十一月大

二日。庚戌。今日小松少將惟盛朝臣以下平將。無功入洛云云 ○四日。壬子。武衞著常陸國府給。佐竹者。權威及境外。郎從滿國中。然者莫楚忽之儀。熟有計策。可被加誅罰之由。常胤。廣常。義澄。實平。已下宿老之類。凝群儀。先爲度彼輩之存案。以緣者。遣上總權介廣常。被案內之處。太郎義政者申即可參之由。冠者秀義者。其從兵輕於義政。亦父四郎隆義。在平家方。傍在思慮無左右。稱不可參上。引籠于常國金砂城。然而義政者。依廣常誘引。參于大矢橋邊之間。武衞退件家人等於外。招其主一人於橋中央。令廣常誅之〔令〕太速也。從軍或傾首歸伏。或戰之逃是。其後爲攻擊秀義被遣軍兵。所謂下河邊庄司行平。同四郎政義。土肥次郎實平。和田太郎義盛。土屋三郎宗遠。佐佐木太郎定綱。同三郎盛綱。熊谷次郎直實。平山武者所季重。以下輩也。相率數千强兵競望。佐竹冠者。於金砂築城壁。固要害。兼以備防戰之儀。敢不搖心。動干戈。發矢石。彼城郭者。構高山頂也。御方軍兵者。進於麓溪谷。故兩方在所。已如天地。然間。自城飛來矢〔石〕。多以中御方壯士。自御方所射之矢者。太難署于山岳之上。又巖石塞路。人馬共失行步。因茲軍士徒費心府。迷兵法。雖然不能退去。怒以

挾レ箭相鏑之間。日既入レ西。月又出レ東云々〇五日。癸丑。寅尅。實平宗遠等。進二使者於武衞一申云。佐竹所レ搆之塞。非二人力之敗一。其內所レ籠之兵者。又莫レ不下以レ一當上レ千。能可レ被レ廻二賢慮一者。依レ之及レ被レ召二老軍等之意見一。廣常申云。秀義叔父有二佐竹藏人一。藏人者。智謀勝レ人。欲心越レ世也。可レ被レ行二恩賞一之旨〔有〕限約者。定加二秀義滅亡之計一者歟。依レ令レ許二容其儀一給〔然〕上。則被レ遣二廣常於侍中之許一。侍中喜二廣常之來臨一。倒レ衣相二逢之一。廣常云。近日東國之親疎。莫レ不レ奉レ歸二往于武衞一。而秀義主。獨爲二仇敵一。太無レ所レ據事也。雖二骨肉一。客何令レ與二彼不義一哉。早參二武衞一。討二取秀義一。可レ令レ領二掌件遺跡一者。侍中忽和順。本自爲二案內者一之間。相二具廣常一。廻二金砂城之後一。作二時音一。其聲殆響二城郭一。是所レ不レ圖也。〔仍〕秀義及郎從等。忘二防禦之術一。周章横行。廣常彌得レ力攻戰之間。逃亡云々。秀義晦レ跡云々〇六日。甲寅。丑尅。廣常入二秀義逃亡之跡一。燒二拂城壁一。其後分二遣軍兵等於方方道路一。搜二求秀義主一之處。入二深山一赴二奧州花園城一之由。風聞云々〇七日。乙卯。廣常以下士卒。歸二參御旅舘一。申二合戰次第及秀義逐電。城郭放火等事一。軍兵之中。熊谷次郎直實。平山武者所季重。殊有二勳功一。於二所所一。進二先登一。先登更不レ顧二身命一。多獲二凶徒首一。仍其賞可レ抽二傍輩一之旨。直被二仰下一云々。又佐竹藏人參上。可レ候二門下一之由望申。即令二許容一給。有レ功之故也。今

日志太三郎先生義廣。十郎藏人行家等。參二國府一。謁申云云○八日。丙辰。被レ收二公秀義領所常陸國奥七郡。
幷太田。糟田。酒出等所所一。被レ充二行軍士之勳功賞一云云。又所二逃亡一之佐竹家人十許輩出來之由。風聞之
間。令二廣常。義盛生虜一。皆被レ召二出庭中一。若可レ挿二害心一之族。在二其中一否。覽二其顏色一令レ度給之處。著二
紺直垂上下一之男。頻垂レ面落涙之間。令レ問二由緒一給。依レ思二故佐竹事一。繼レ頸無レ所レ據之由申レ之「云云」。
仰曰。有レ所レ存者。彼誅伏之刻。何不レ弃レ命者乎。答申云。彼時者。家人等。不レ參二其橋之上一。只主人一身
被二召出一。梟首之間。存二後日事一遂電。而今參上。雖レ非二精兵之本意一。相構伺二拜謁之次一。有二可レ申事一故也
云云。重尋二其旨一給。申云。閣二平家追討之計一。被レ亡二御一族一之條太不可也。於二國敵一者。天下勇士。可レ
奉レ合二一揆之力一。而被レ誅二無レ誤一門一。者御身之上讎敵。仰二誰人一。可レ被二對治一哉。將又御子孫守護。可レ爲二
何人一哉。此事能可レ被レ廻二御案一。如二當時一者。諸人只成二怖畏一。不レ可レ有二眞實歸往之志一。定亦可レ被レ貽二誹
於後代一者歟云云。無二被レ仰之旨一。令レ入給。廣常申云。件男存二謀反一之條。無二其疑一。早可レ被レ誅之由云云。
被レ仰「宥」二不レ可レ然之旨一。被レ宥レ之。剩列二御家人一號二岩瀨與一太郎一是也云云。今日武衞赴二鎌倉一給。以二
便路一。入二御小栗十郎重成。小栗御厨八田舘一云云○十日。戊午。以二武藏國丸子庄一。賜二葛西三郎淸重一。今夜

御止宿彼宅。清重令妻女備御膳。但不申其實。爲御結構。自他所招青女之由言上云云〇十二日。庚申。到武藏國。荻野五郎俊重。被斬罪。日者候御共。雖似有其功。石橋合戰之時。令同意景親。殊現無道之間。今不被糺先非者。依難懲後輩。如此云云〇十四日。壬戌。土肥次郎實平。向武藏國內寺社。是諸人亂入淸淨地。致狼藉之由。依有訴。可令停止之旨。加下知之故也。〇十五日。癸亥。武藏國威光寺者。依爲源家數代御祈禱所。院主僧僧圓相承之。僧坊寺領。如元被奉免之云云〇十七日。乙丑。令還著鎌倉給。今日曾我太郎祐信蒙厚免。又和田小太郎義盛。補侍所別當。是去八月石橋合戰之後。令赴安房國給之時。御安否未定之處。義盛望申此職之間。有御許諾。仍今閣上首。被仰云云〇十九日。丁卯。武藏國長尾寺者。武衞被奉避舍弟禪師全成。仍今日令安堵本坊。任例可抽祈禱忠之由。爲被仰付。召出住侶等。所謂。慈敎坊僧圓。慈音坊觀海。法乘坊辨朗等也〇廿日。戊辰。大庭平太景義。相具右馬允義常之子息參上。望厚免。是景義之外甥也。仍暫被仰可預置之由。義常遺領之內。松田鄕。景義拜領云云〇廿六日。甲戌。山內瀧口三郎經俊可被處斬罪之由。內內有其沙汰。彼老母（武衞御乳母）聞之。爲救愛息之命。泣參上申云。資通入道仕八幡殿。爲廷尉禪室御乳母以降。

代代間。竭微忠於源家。不可勝計。就中俊通。臨平治戰場。曝骸於六條河原訖。而經俊令與景親
之條。其科責而雖有餘。是一旦所憚平家之後聞也。凡張軍陣於石橋邊之者。多預恩赦畢。經俊亦
[イ]盍被優曩時之功者哉。武衛無殊御旨。可進所預置鎧之由。被仰實平。實平持參之。開唐櫃
蓋。取出之。置于山內尼前。是石橋合戰之日。經俊箭。所立于此御鎧袖也。件箭口卷之上。注瀧口三
郎藤原經俊。自此字之際。切篦作立御鎧袖。于今被置之。大以掲焉也。仍直令讀聞給。尼不能
重申子細。拭雙淚退出。兼依鑒後事給。被殘此箭云云。於經俊罪科者。雖難遁刑法。優老
母之悲歎。慕先祖之勞効。忽被宥梟罪云云。

十二月小

一日。己卯。左兵衞督平知盛卿率數千官兵。下向近江國。與源氏山本前兵衞尉義經。同弟柏木冠者義兼
等合戰。義經已下弃身忘命雖挑戰。知盛卿以多勢之計。放火燒廻彼等館幷郎從宅之間。義經義兼矢
度逃亡。是去八月於東國。源家擧義兵之由傳聞之以降。雖卜居於近國。偏存關東一味之儀。頻忽緒
平相國禪閤威之故今及此攻云云〇二日。庚辰。今日藏人頭重衡朝臣。淡路守淸房肥後守貞能等。指東國

參向。是爲レ襲二源家一也。但自二路次一歸洛云云○四日。壬午。阿闍梨定兼。依レ召。自二上總國一。參二上鎌倉一。是去安元元年四月廿六日。當國流人也。而有二知法之聞一。當時鎌倉中。無下可二然碩德一之間。仰二廣常一。所レ被二召出一也。今日則被レ補二鶴岳供僧職一云云○十日。戊子。山本兵衛尉義經參二著鎌倉一。以二土肥二郎一啓二案内一云。日來運二志於關東一之由。達二平家之聽一。觸レ事成二阿黨一。剩去一日。遂被レ攻二落城郭一之間。任二素意一參上。被レ追二討彼凶徒一之日。必可レ奉二一方先登一者。最前參向尤神妙。於レ今者。可レ被二關東祗候一之旨。被レ仰云云。此義經者。自二刑部丞義光一以降。相二繼五代之跡一。弓馬之兩藝。人之所レ聽也。而依二平家之讒一。去安元二年十二月卅日。配二流佐渡國一。去年適預二于勅免一之處。今又依二彼攻一牢籠。結二宿意一之條。更無二御疑一云云○十一日。己丑。平相國禪閤遣二重衡朝臣於園城寺一。與二寺院衆徒一遂二合戰一。是當寺僧侶。去五月之比。候二三條宮一。(○似仁王)故也。南都同可レ被二滅亡一云云。凡此事日來無二沙汰一之處。前武衞依二彼令旨一。於二關東一被レ遂二合戰一之間。衆徒定奉レ與歟之由。禪閤廻二思慮一。及二此儀一云云○十二日。庚寅。天晴風靜。亥尅。前武衞將軍。(○衍カ)新造御亭。有二御移徙之儀一。爲二景義奉行一。去十月有二事始一。營二作于大倉鄕一也。時尅。自二上總權介廣常之宅一。入二御新亭一。御水干。御騎馬(石禾栗毛)和田小太郎義盛候二最前一。加加美次郎長淸候二

御駕左方。毛呂冠者季光在同右。北條殿。同四郎主。足利冠者義兼。山名冠者義範。千葉介常胤。同太郎胤正。同六郎大夫胤頼。藤九郎盛長。土肥次郎實平。岡崎四郎義實。工藤庄司景光。宇佐美三郎助茂。土屋三郎宗遠。佐佐木太郎定綱。同三郎盛綱以下供奉。畠山次郎重忠。候最末。入御于寢殿之後。御共輩參侍所。(十八箇間)行對座。義盛候其中央。著到云云。凡出仕之者。三百十一人云云。又御家人等。同構宿館。自爾以降。東國皆見其有道。推而爲鎌倉主。所素邊鄙。而海人野叟之外。〔素〕卜居之類少之。正當于此時間。閭巷直路。村里授號。加之家屋並甍。門扉輾軒云云。今日園城寺爲平家燒失。金堂以下堂舍塔廟幷大小乘經卷。顯密聖教。大略以化灰燼云云 ○十四日。壬辰。武藏國住人。多以本知行地主職。如本可執行之由。蒙下知。北條殿幷土肥次郎實平爲奉行。邦通書下之云云 ○十六日。甲午。鶴丘若宮被立鳥居。亦被始行長日最勝王經講讀。武衛令詣給。裝水干。駕龍蹄給云云。○十九日。丁酉。右馬允橘公長。參著鎌倉。相具子息(橘次公忠。)橘次公成。是左兵衛督知盛卿家人也。去二日藏人頭重衡朝臣。爲譴東國。進發之間。爲前右大將(宗盛)之計。被相副之。爲弓馬達者之上。臨戰場。廻智謀。勝人之故。而公長倩見平家之爲體。佳運已欲傾。又先年於粟田口邊與長井齋藤別當。片切小八郎大夫(于

時各六條廷尉御家人）等ニ。喧嘩之時。六條廷尉禪室。定被レ及ニ奏聞ー歟之由。成ニ怖畏ー之處。匪下啻止ニ其憤ー被レ宥レ之。還被レ誡ニ齋藤片切等ー之間。不レ忘ニ彼恩化ー。志偏在ニ源家ー。依レ之。厭ニ却大將軍之久郎ー。（〇即カ）尋ニ緣者ー。先下ニ向遠江國ー。次參ニ著鎌倉ー。以ニ一所傍輩之好ー。屬ニ加加美次郎長淸ー。啓ニ子細ー之處。可レ爲ニ御家人ー之旨。有ニ御許容ーニ云々〇廿日。戊戌。於ニ新造御亭ー三浦介義澄。獻ニ垸飯ー。其後有ニ御弓始ー。〔此〕事急雖レ無ニ其沙汰ー。公長兩息。爲ニ殊達者ー之由。被ニ聞食ー之間。令レ試ニ件藝ー給。以ニ酒宴次ー。於ニ當座ー被レ仰云々。

射手

一番

下河邊庄司行平　愛甲三郞季隆

二番

橘太公忠　橘次公成

三番

和田太郞義盛　工藤小二郞行光

今日御行始之儀。入御藤九郎盛長甘縄之家。盛長。奉御馬一疋。佐佐木三郎盛綱。引之云云○廿二日。庚子。新田大炊助入道上西。依召參上。而無左右不可入鎌倉中之旨。被仰遣之間。逗留山之内邊。是招聚軍士等引籠上野國寺尾館之由風聞。仰藤九郎盛長。被召之詑。上西陳申云。心中更雖不存異儀。國土有鬪戰之時。輙難出城之由。家人等依加諫。猶豫之處。今已預此命。大恐思云云。盛長殊執申之。仍被聞食開云云。又上西孫子里見太郎義成。自京都參上。日來雖屬平家。傳聞源家御繁榮參之由申之。其志異祖父。早可奉昵近之旨。被免之。義成語申云。石橋合戰後。平家頻廻計議於源氏一類者。悉以可誅亡之由。内内有用意之間。向關東可襲武衞之趣。義成僞申[之]處。平家喜之。令免許之間參向。於駿河國千本松原。長井齊藤別當實盛。瀨下四郎廣親等。相逢之。東國勇士者。皆奉從武衞畢。仍武衞相引數萬騎。令到鎌倉給。而吾等二人者。先日依有蒙平家約諾事。上洛之由語申之。義成聞此事。彌揚鞭云云○廿四日。壬寅。木曾冠者義仲。避上野國。赴信濃國。是有自立志之上。彼國多胡庄者。爲亡父遺跡之間。雖令入部。武衞權威已輝東國之間。成歸往之思如此云云○廿五日。癸卯。石橋合戰之刻。所被納于巖窟之小像正觀音。專光房弟子僧。奉安閼伽棚之

中一。捧二持之一。今日參二著鎌倉一。去月所レ被レ仰付一也。數日搜二山中一。遇二彼巖(岩)窟一。希有而奉二尋出一之由申レ之。武衞合レ手直奉二請取一給。御信心彌強盛云云。今日重衡朝臣。爲二平相國禪閤使一。相二率數千官軍一。爲レ攻二南都衆徒一首途云云　○廿六日。甲辰。佐佐木五郎義淸爲二囚人一。被レ召二預于兄盛綱一。是早河合戰之時。屬二澁谷庄司一。殊奉レ射之故也　○廿八日。丙午。出雲時澤。可レ爲二雜色長一之旨被レ仰。朝夕祗候雜色等雖レ有レ數。征伐之際。時澤之功異レ他。故被レ補二彼職一云云。今日重衡朝臣燒二拂南都一云云。東大興福兩寺郭內。堂塔一宇而不レ免二其災一。佛像經論同以回祿。可レ悲(イモ無)云云。(可悲二字異本無レ之、未レ知二孰是一矣)

吾妻鏡　卷第二

治承五年辛丑。七月十四日。爲二養和元年一。

正月大

一日。戊申。卯剋。前武衞參二鶴岳若宮一給。不レ及二日次沙汰一。朔旦被レ定二當宮奉幣之日一云云。三浦介義澄。畠山次郎重忠。大庭平太景義等。率二郎從一。去半更以後。警二固辻辻一。御出〔儀〕御騎馬也。著二御于禮殿一。專光房良暹豫候二此所一。先神馬一疋引二立寶前一。宇佐美三郎祐茂。新田四郎忠常等引レ之。次法華經供養。御聽聞。事終還御之後。千葉介常胤獻二垸飯一。相二具三尺鯉魚一。又上林下若。不レ知二其員一云云 ○五日。壬子。關東健士等廻二南海一。可レ入二花洛一之由風聞。仍平家分二置家人等所所海浦一。其內。差二遣伊豆江四郎一。警二固志摩國一。而今日熊野山衆徒等。競二集于件國菜切島一。襲二攻江四郎一之間。郎從多以被レ疵敗走。江四郎經二太神宮御領坐神道山一。遁二隱宇治岡一之處。波多野小次郎忠綱(義通二男)同三郎義定(義通孫)等。主從八騎。折節相二逢于其所一。爲レ抽二忠於源家一。遂二合戰一誅二江四郎之子息二人一云云。忠綱。義定者。相二傳故波多野次郎

義通遺跡。住于當國。右馬允義經。有不義。於相摸國雖蒙誅罰。於此兩人者。依思舊好。所屬勳功也 ○六日。癸丑。工藤庄司景光。生取平井紀六。是去年八月。早河合戰之時。害北條三郎主之者也。而武衞入御鎌倉之後。紀六逐電。不知行方之間。仰駿河伊豆相摸等之輩。被搜求之處。於相摸國蓑毛邊。景光獲之。先相具參北條殿。即被申事由於武衞。仍被召預〔義盛之〕訖。但無左右。不可梟首之旨。被仰付之。糺問之處。於所犯者。令承伏云云 ○十一日。戊午。梶原平三景時。依仰初參御前。去年窮冬之比。實平相具所參也。雖不携文筆。巧言語之士也。專相叶賢慮云云 ○十八日。乙丑。去年十二月廿八日。南都東大寺興福寺已下。堂塔坊舍。悉以爲平家燒失。僅勅封倉〔寺封倉〕等。免此災。火焰及大佛殿之間。不堪其周章。投身燒死者三人。兩寺之間。不意燒死者。百餘人之由。今日聞于關東。是相摸國毛利庄住人。印景之說也。印景爲學道。此兩三年在南都。依彼滅亡。歸國云云 ○廿一日。戊辰。能野山惡僧等。去五日以後亂入伊勢志摩兩國。合戰及度度。至于十九日。浦七箇所皆悉追捕民屋。平家家人。爲彼或捨要害之地逃亡。或伐誅又被疵之間。彌乘勝。今日燒拂二見浦人家。攻到于固（四イ）瀨河邊之處。平氏一族關出羽守信兼。相具蛭伊藤次已下軍兵。相逢于船江邊防戰。惡僧張本。戒光。

(字大頭八郎房。)中二信忠之箭一。仍衆徒引ヲ退于二見浦一。搦ヲ取下女。(齡三四十者)并少童(十四五者)等以上三十餘人一。令二同船一。指二能野浦一解レ纜云云。尋二此濫觴一。南海道者。當時平相國禪門虜掠之地也。而彼山依レ奉レ祈二關東繁榮一。爲レ亡二平氏方人一。有二此企一云云。平相國禪門。驕奢之餘。蔑ヲ如朝政一。忽二緒神威一。破ヲ滅佛法一。惱二亂人庶一。近則放二入使者於(伊勢國)神三郡一。(大神宮御鎭坐)充ヲ課兵粮米一。追ヲ捕民烟一。天照太神鎭坐以降千百餘歲。未レ有二如レ此例一云云。凡此兩三年。彼禪門及子葉孫枝。可二敗北一之由。都鄙貴賤之間。皆蒙二夢想一。其旨趣雖二區分一。其料簡之所レ覃。只件氏族事也。○廿三日。庚午。於二武藏國長尾寺并求明寺等一者。以二僧長榮一。可レ致二沙汰一之旨。被二定(宣)下一。是源家累代祈願所也。

二月小

一日。戊寅。足利三郎義兼。嫁二于北條殿息女一。又加加美次郎長淸。爲二上總權介廣常之聟一。兩人共存二隱密一便一。擇二忠貞一。御氣色快然之餘。依二別仰一。今及二此儀一云云○九日。丙戌。去年冬。於二河内國一。爲二平家一所レ被二殺害一源氏前武藏權守義基之首。今日渡二大路一。懸二獄門之樹一。先撿非違使左衞門少尉中原章貞。源仲賴。右衞門小尉中原基廣。安倍資成。右衞門志中原明基。左衞門府生大江經廣。右衞門府生紀兼康等。行ヲ向七

條河原一。平氏家渡二被頸一。又義基弟。石河判官代義資。紺戸先生義廣。被二生虜一之間。相二具兄之首一。被レ遣二左獄舍一云云　〇十日。丁亥。於二安房國洲崎神領一。在廳等成レ煩由。有二神主等之訴一。仍可レ停二止之由。今日所レ令二下知一給上也。

下　須宮神官等

可下早令中安房國須宮免中除萬雜公事上事

右件宮。萬雜公事者。先日御奉免畢。重神官等訴申。事實者尤不敵也。早可レ令二免除一之狀如レ件。仍在廳等宜二承知一。勿二違失一。

治承五年二月日

〇十二日。己丑。左兵衞督知盛卿。左少將淸經朝臣。左馬頭行盛等。自二近江國一上洛。是爲レ追二討源武衞從軍等一。發向之處。左武衞依二虜勞一如レ此云云。於二美濃國一所レ被二討取一之源氏。并相從之勇士等頸。今日入洛。知盛卿相二具之一歟。所謂小河兵衞尉重淸。義浦冠者義明。(兵衞尉義經男)上田太郎重康。冷泉冠者賴典。葦敷三郎重義。伊達冠者家忠。同彥三郎重親。越後次郎重家(越後平氏)。同五郎重信(同レ上)。神地六郎康信。(上

田太郎家子）等也。○十八日。乙未。大河戸太郎廣行。同弟次郎秀行（號二清久一）同三郎行元。（號二高柳一）四郎行平。（號二葛濱一）以上四人。日來蒙二御氣色一。今日有二免許一。廣行者。爲二三浦介義明之聟一。就二其好一。義澄預二守護一之間。具二參之一。武衛於二簾中一覽畢。見二其面一。皆備二勇士之相一之間。及二御感一云云。彼等父下總權守重行者。依下屬二平家一之咎上。去年配二流伊豆國蛭嶋一。適有二厚免一。被二召還一之處。於二路次一俄病發動。遂亡卒。〔云云〕○廿七日。甲辰。安田三郎義定飛脚。自二遠江國一參二上于鎌倉一。申云。平氏大將軍中宮亮通盛朝臣。左少將惟盛朝臣。薩摩守忠度朝臣等。相二率數千騎一下向。已至二尾張國一。重差二軍士一。可レ被レ構二防戰儀一歟云云○廿八日。乙巳。志太三郎先生義廣。濫惡掠二領常陸國鹿嶋社領一之由。依レ聞二食之一。一向可レ爲二御物忌沙汰一之由。被二仰下一。散位久經奉行云云。今日和田小太郎義盛。岡部次郎忠綱。狩野五郎親光。宇佐美三郎祐茂。土屋次郎義淸等。差二遣遠江國一。平氏等發向之由。依レ有二其告一也 ○廿九日。丙午。於二鎭西一。有二兵革一。是肥前國住人。菊池九郎隆直。豐後國住人緒方三郎惟能等。反二平家一之故也。同二意隆直一之輩。木原次郎盛實法師。南郷大宮司惟安。相二具惟能一者。大野六郎家基。高田次郎隆澄等也。此外。長野太郎。山崎六郎。同次郎。野中次郎。合志太郎。并太郎資泰已下。率二六百餘騎精兵一。固レ關止二海陸往還一。仍平家方人原田大夫種直。

相催九州軍士二千騎。遂合戰。隆直等郎從。多以被疵云云。

閏二月大

四日。庚戌。戌剋。入道平相國薨。（九條河原口。盛國家）自去月廿五日病惱云云。遺言云。三箇日以後可有葬之儀。於遺骨者。納播磨國山田法華[花]堂。每七日可修如形佛事。每日不可修之。亦於京都不可成追善。子孫偏可營東國歸往之計者。○七日。癸丑。武衛御誕生之初。被召于御乳付之青女。（今日者尼。號摩摩）住國相摸早河庄。依召[有]〔○思脫カ〕于御憐愍。故。彼屋敷田畠不可有相違之由。被仰含惣領地頭云云。○十日。丙辰。前大將（宗盛卿）家人大夫判官景高以下千餘騎。爲襲前武衛發向東國云云○十二日。戊午。伊豫國住人河野四郎。越智通淸反平家。率[卒]軍兵。押領當國之由。有其聞云云○十五日。辛酉。被下院廳御下文於東海道之諸國。藏人頭重衡朝臣帶之。率[卒]千餘騎精兵。發向東國。是爲追討前武衛也。○十七日。癸亥。安田三郎義定。相率[卒]義盛。忠綱。親光。祐茂。義淸。幷遠江國住人横地太郎長重。勝（○一本在間一字）田平三成長等。到于當國濱松庄橋本邊。是依前武衞仰也。此所爲要害之間。可相待平氏襲來之故也　○十九日。乙丑。中宮大夫屬康信狀。到著鎌倉。

進二一通記一。所レ載二洛中巨細一也。又去四日平相國禪門薨。爲レ送二遺骨一。下二向播磨國一已畢。世上聊令二落居一者。可二參向一之由云云。○廿日。丙寅。武衞伯父志田三郎先生義廣。忘二骨肉之好一。〔忽〕率二數萬騎逆黨一。欲レ度二鎌倉一。縡已發覺。出二常陸國一。到二于下野國一云云。平家軍兵襲來之由。日來風聞之間。勇士多以被レ遣二駿河國以〔西〕要害等一畢。彼此計會。殊思食煩。爰下河邊庄司行平。在二下總國一。小山小四郎朝政。在二下野國一。彼兩人者。雖レ不レ被二仰遣一。定勵二勳功一歟之由。令レ恃二其武勇一給。依レ之朝政之弟五郎宗政。并同從父兄弟關次郎政平等。爲レ成二合力一。各今日發二向下野國一。而政平。參二御前一申二身暇一。起レ座訖。武衞覽レ之。政平者。有二貳心一之由被レ仰。果而自レ道不レ相二伴于宗政一。經二閑路一。馳二加義廣之陣一云云。○廿一日。丁卯。今日以後七箇日。可レ有二鶴岡若宮參詣一之由。立願給。是東西逆徒蜂起事。爲二靜謐一也。未明參給。被レ行二御神樂一云云。○廿三日。己巳。義廣率二三萬餘騎軍士一。赴二鎌倉方一。先相二語足利又太郎忠綱一。忠綱本自背二源家一之間。成二約諾一。亦小山與二足利一。雖レ有二一流之好一依レ爲二一國之兩虎一。爭二權威一之處。去年夏之比。可レ誅二滅平相國一族一之旨。高倉宮被レ下二令旨於諸國一畢。小山則承引（○諸本別）語二忠綱一。非二其列一太含二欝憤一。加二平氏一。渡二宇治河一。敗二入道三品賴政卿之軍陣一。所レ奉レ射レ宮也。異心未レ散。且以レ次爲レ亡二小山一。有二

此企云云。次義廣。相觸可與之由於小山小四郎朝政。朝政父政光者。爲皇居警衞。未在京。郎從悉以相從之。仍雖爲無勢。中心之所之在武衞。可誅取義廣之由群議。老軍等云。早可令與同之趣。僞而先令領狀之後。可度之也者。則示云遣其旨。義廣。成喜悦之思。來臨于朝政舘之邊。先之。朝政出本宅。令引籠于野木宮。義廣。到于彼宮前之時朝政廻計義。而令人昇于登々呂木澤地獄谷等林之梢。令造時之聲。其音響谷爲多勢之粧。義廣周章迷惑之處。朝政郎從太田菅五（冠者）。水（イ同）永代六次〔郎〕。和田次郎。池上（イ）池二郎。蔭澤次郎。并七郎朝光郎等。保志（秦イ同）黑三郎等攻戰。朝政著火威甲。駕鹿毛馬。時年廿五。勇力太（威）盛。而懸四方。多亡凶徒也。義廣所發之矢。中于朝政。雖令落馬。不〔及〕死悶。爰件馬。離主嘶于登登呂木澤。而五郎宗政（年廿）自鎌倉向小山之處。見此馬。合戰已敗北。存令朝政夭亡之由。馳駕向于義廣陣方。義廣乳母子多和山七太揚鞭。隔于其中。宗政逢于弓手。射取七太訖。宗政小舍人童取七太之首。其後義廣聊引退。張陣於野木宮之坤方。朝政宗政自東方襲攻。于時暴風起於巽。揚焼野之塵。人馬共失眼路。横行分散。多曝骸於地獄谷登登呂木澤。又下河邊庄司行平。同弟四郎政義。固古我高野等渡。討止餘兵之遁走云云。足利七郎有綱。同嫡男佐野太郎基綱。四男阿曾沼四郎廣綱。五男木

村五郎信綱。及大田(太イ同)小權守行朝等。合(取)陣于小手差原小堤等之所處〔處〕合戰。此外八田武者所知家。下妻四
郎淸氏。小野寺太郎道綱。小栗十郎重成。宇都宮所信房。鎌田七郎爲成。湊河庄司太郎景澄等。加朝政。
蒲冠者範頼同所被馳來也。彼朝政者曩祖秀郷朝臣。天慶年中追討朝敵。(平將門)兼任兩國守。令敍從
下四位(イ同)四位下以降。傳勳功之跡。久護當國。爲門葉棟梁也。今聞義廣之計謀。思忠輕命之故。臨戰場得
乘勝矣　○廿五日。辛未。足利又太郎忠綱。雖令同意于義廣。野木宮合戰敗北之後。悔先非。耻後勘。
潜籠于上野國山上郷龍奥。招郎從。桐生六郎許數日蟄居。遂隨桐生之諫。經山陰道。赴西海方云云。
是末代無雙勇士也。三事越人也。所謂一其力對百人也。二其聲響十里也。〔三〕其齒一寸也云云。○廿
七日。癸酉。武衞奉幣若宮給。今日所滿七箇日也。而跪寶前。三郎先生蜂起如何之由。獨被仰出。于(之)
時小山七郎朝光持御劍。候御共。承此御旨云。先生已爲朝政被攻落訖歟云云。武衞顧面曰。少冠
口狀者。偏非心之所發也。尤可用(爲)神託。若如思於令屬無爲者。可被行優賞者。朝光今年十五
歲也。御奉幣事終。還向給之處。行平朝政使參著。義廣逃亡之由申之。及晚朝政使又(人イ)參上。相具先生伴黨
頸之由言上。仍仰三浦介義澄。比企四郎能員等被遣彼首於腰越被梟之云云。○廿八日。甲戌。宗政

爲朝政名代。(朝政依被痛不參)相率一族及今度合力之輩參上于鎌倉。武衞有御對面。被感仰勳功。宗政行平以下一族。列居西方。知家。重成以下。亦列東方。所生虜之義廣從軍廿九人。或梟首。或被召預行平有綱等云云。次。常陸下野上野之間。同意三郎先生之輩所領等。悉以被收公之。朝政朝光等預恩賞云云。

三月小

一日。丁丑。今日。武衞依爲御母儀御忌日。於土屋次郎義淸龜谷堂。被修佛事。導師箱根山別當行實請僧五人。專光房良暹。大夫公承榮。河內公良齋。專性房全淵。淨如房本月等也。武衞令聽聞給。御布施。導師馬一疋。帖絹二疋。請僧口別白布二端也〇六日。壬午。大中臣能親。自伊勢國。通書狀於中八維平之許。是去正月十九日。號熊野山濫增之從類。濫入伊雜宮。鑿破御殿。犯用神寶之間。爲一禰宜成長神主沙汰。奉遷御體於內宮之處。同廿六日。件輩亦襲來山田宇治兩鄉。燒失人屋。奪取資財訖。天照太神鎭坐以降千百餘歲。皇御孫尊垂跡之後六百餘年。未有如此例。當時源家再興之世也。尤可有謹愼之儀者。維平。覽此狀。濫增侯御方。有此企。殊驚聞食。爲敬神。可有御立願之旨。被報仰云云。

○七日。癸未。大夫屬入道送狀中云。去月七日。於院殿上有議定。仰武田太郎信義。可被下武衛追討廳御下文之由被定。又諸國源氏。平均可被追伐之條。無其實。所限武衛計也。風聞之趣如此者。依之。於武田非無御隔心。被尋子細於信義之處。自駿河國今日參著。於身全不奉追討使事。縱雖被仰下。不可進奉。本自不存異心之條。以去年度度功。定思食知歟之由。陳謝及再三之上。至子子孫孫對御子孫。不可引弓之趣。書起請文。令獻覽之間。有御對面。此間。猶依有御用心。召義澄行平定綱盛綱景時。令候于御座左右云云。武田自取腰刀。與行平。入御之後退出。返取之云云。

○十日。丙戌。十郎藏人行家。(武衛叔父)子息藏人太郎光家。同次郎。僧義圓(號卿公。)泉太郎重光。相具尾張參河兩國勇士。陣于墨俣河邊。平氏大將軍頭亮重衡朝臣。左少將維盛朝臣。越前守通盛朝臣。薩摩守忠度朝臣。參河守知度。讃岐守左衛門尉盛綱。(號高田。)左兵衛尉盛久等。又在同河西岸。及晚侍中廻計。竊密欲襲平家之處。重衡朝臣舍人金石丸。爲洗馬。至墨俣之間。見東士之形勢。奔歸告其由。仍侍中未出陣之以前。頭亮隨兵。襲攻源氏。綷起楚忽。侍中從軍等。頗失度。雖相戰無利。義圓禪師。爲盛綱被討取。藏人次郎。爲忠度被生虜。泉太郎。同弟次郎。被討取于盛久。此外軍兵。或入河

溺死。或被レ傷殞（損）レ命。凡六百九十餘人也。○十二日。戊子。諸國未二靜謐一。武衛非レ無二御怖畏一。仍諸社有二御立願一。今日。先以二常陸國鹽濱。大窪。世谷等所所一。被レ奉レ寄二鹿嶋社一。其上御敬神之餘。於二宮中一爲レ不レ令レ現二狼藉一。以二鹿嶋三郎政幹一。被レ定二補當社惣追捕（○捕カ）使一云云。○十三日。己丑。安田三郎使者武藤五。自二遠江國一參二著鎌倉一。申云。爲二御代官一。令レ守二護當國一。相二待平氏襲來一。就レ中請レ命向二橋本一。欲レ搆二要害一之間。召二人夫一之處。淺羽庄司宗信。相良三郎等。於レ事成二蔑如一。不レ致二合力一。剩義定。居二地下一之時。件兩人。乍レ乘レ馬。打二通其前一訖。是已存二野心一者也。隨而彼等一族。當時多屬二平家一。速可レ被レ加二刑罰一歟云云。○十四日。庚寅。淺羽庄司。相良三郎等事。就二一方欝陶一。難レ被レ處二罪科一之由。被レ仰二含于武藤五一之處。武藤申云。（若）爲レ訴二彼等奇恠一。被レ進（遣）二使者一之由。披二露國中一畢。而不レ蒙二裁許一。而空令二歸國一者。其威勢如レ無歟。後日若聞二食虛訴之旨一者。可レ被レ行二使於斬罪一者。依レ之。於二彼領一者。義定主。可二領掌一之旨。有二御消息一。但宗信等。後日陳謝。若有二其謂一者。還可レ被レ處二訴人於罪科一之趣。被レ載レ之云云。○十九日。乙未。尾張國住人大屋中三安資。馳二參鎌倉一申云。去十日。侍中。於二墨俣河一。與二平氏一合戰。侍中從軍。悉以滅亡。平家乘レ勝之間。去二其所一。被レ籠二熱田社一訖。一陣敗之上者。重衡朝臣以下。定近來歟。當國在廳等。多

以從平氏之處。安資抽忠直。尤神妙之旨被仰含云云。○廿七日。癸卯。片岡次郎常春。依有謀叛之聞。遣雜色於彼領所下總國。被召之處。稱亂入領內。乃外[傷]御使面縛云云。仍罪科重疊之間。被召放所帶等之上。早可進件雜色之由。今日被仰下云云。

四月大

一日。丙午。前武衛參鶴岳給。而廟庭有荊棘。瑞籬。藏草露。仍被掃除。大庭平太景能參上。終日有此沙汰云云。○七日。壬子。御家人等中。撰殊達弓箭之者。亦無御隔心之輩。每夜可候于御寢所之近邊之由被定。

江間四郎　下河邊庄司行平　結城七郎朝光

和田次郎義茂　梶原源太景季　宇佐美平次實政

榛谷四郎重朝　葛西三郎淸重　三浦十郎義連

千葉太郎胤正　八田太郎知重

○十九日。甲子。於腰越濱邊。梟首囚人平井紀六。是討北條三郎主。罪科不輕之間。日來殊所被禁置

也。○廿日。乙丑。小山田三郞重成。聊背二御意一之間。成二怖畏一籠居。是以二武藏國多磨(西イ同)郡內吉富。幷一宮蓮光寺等一。注二加所領之內一。去年東國御家人。安二堵本領一之時。同賜二御下文一訖。而爲二平太弘貞領所一之旨。捧二申狀一之間。糺明之處。無二相違一。仍所レ被レ付二弘貞一也。○卅日。乙亥。遠江國淺羽庄司宗信依二安田三郞義定之訴一。雖レ被レ收二公所領一。謝申之旨。不二等閑一之間。安田。亦(所)執二申之一。仍且返二給彼庄內柴村幷田所職一畢。是子息郞從。有レ數。尤可レ爲二御要人一之故云云。

五月大

八日。癸未。園城寺律靜房日胤弟子僧日慧(號二帥公一)參二著于鎌倉一。彼日胤者千葉介常胤子息。前武衞御祈禱師也。仍去年五月。自二伊豆國一。遂被レ付二御願書一。日胤給レ之。一千日令レ參二籠石淸水宮寺一。無言而令レ見二讀大般若經一。六百〔个〕卷之夜。(日イ同)眠之內。自二寶殿一賜二金甲一之由。感二靈夢一。潛成二所願成就思一之處。翌朝聞下高倉宮入二御于三井寺一之由上。誂二武衞御願書於日慧一。奔二參宮御方一。遂同月廿六日於二光明山鳥居一。爲二平氏一被二討取一訖。而日慧。相二承先師之行業一。果二千日所願一。守二遺命一。欲二參向一之處。都鄙不レ靜之間。于レ今延(遲)引之由申レ之云云。○十三(二)日。戊子。爲二鶴岳若宮營作一。材木事有二其沙汰一。土肥次郞實平。大庭平太景能等。

爲二奉行一。當宮。去年假雖レ有二建立之號一。(〇兮カ) 楚忽之間。先所レ被レ用二松柱萱軒一也。仍感二花搆之儀一。專可レ被レ賞二神感一云云。〇十六日。辛卯。村山七郎源頼直本知行所。今更不レ可レ有二相違一之由被レ仰。其書様。村山米用。件所如レ本。可レ爲二村山殿御沙汰一云云。是武衞安否未レ定之時。運二懇志一。以下戰二于城四郎等一之功一。於レ事被二優恕一云云。〇廿三日。戊戌。御亭之傍。可レ被レ建二姫君御方幷御厩一且土用以前。爲レ被レ始二作事一。不レ論二庄公別納之地一。今明日內。可レ召進工匠一之旨。被レ仰遣安房國在廳等之中一云云。昌寛奉行之一〇廿四日。己亥。被レ曳二小御所御厩等之地一。景能景時昌寛等。奉行之一。御家人等。面面召進疋夫一 〇廿八日。癸卯。去夜。安房國大工參上。仍今日件屋屋立レ柱上レ棟云云。

六月小

十三日。戊午。新所御移徙也。千葉介常胤獻二垸飯以下一云云。〇十九日。甲子。武衞爲二納涼逍遙一。渡御三浦一。彼司馬一族等。兼日有二結搆之儀一。殊申二案內一云云。陸奧冠者以下候二御共一。上總權介廣常者。依二兼日仰一。參會于佐賀岡濱一。郎從五十餘人悉下レ馬。各平伏沙上一。廣常安レ轡而敬屈。于レ時三浦十郎義連。令レ候二御駕之前一。示下可二下馬一之由上。廣常云。公私共三代之間。未レ成二其禮一者。爾後。令レ到二于故義明舊跡一

給。義澄。擣二盃酒垸（埦）飯一。殊盡レ美。酒宴之際。上下沈醉。催二其興一之處。岡崎四郎義實。所レ望二武衛御水干一。則賜レ之。依レ仰乍レ候レ座著二用之一。廣常頻嫉レ之。申云。此美服者。如二廣常一。可二拜領一者也。被レ賞二義實樣老者一之條。存外云云。義實嗔云。廣常雖レ思下有レ功之由上。難レ比二義實最初之忠一。更不レ可レ有二對揚之（令）存念一云云。其間互及二過言一。忽欲レ企二鬪諍一。武衛敢不レ被レ發二御詞一。無二左右一難レ〔被〕宥二南方一之故歟。爰義連奔來。叱二義實一云。依二入御一。義澄。關二經營一。此時寧可レ好二濫吹一乎。若老狂之所レ致歟。廣常之體。又不レ叶二物儀一。有二所存一者。可レ期二後日一。今妨二御前遊宴一。太無レ所レ據之由。再往加二制止一。仍各絶レ言無爲也。義連相二叶御意一。併由二斯事一云云。〇廿一日。乙丑。令レ還二鎌倉一給。義澄。獻二甲以下一。又進二馬一疋一。號二髮不レ捺（撲）。度度合職鵞レ之。無二降伏之例一云云。〇廿五日。庚午。戌尅。客星見二艮方一。鎭星色靑赤有二芒角一。是寛弘三年出見之後。無レ例云云。〇廿七日。壬申。鶴岳若宮材木。柱十三本。虹梁二支。今朝且著二由比浦一之由。申レ之。

七月大

三日。丁丑。若宮營作事。有二其沙汰一。而於二鎌倉中一。無二可レ然之工匠一。仍可レ召二進武藏國淺草大工字鄕司一之旨。被レ下二御書於彼所沙汰人等中一。昌寛奉二行之一。〇五日。己卯。長尾新六定景。蒙二厚免一。是去年石橋合戰時。

討佐奈田余一義忠之間。武衛殊被寄恠。賜于義忠父岡崎四郎義實。義實元自專慈悲者也。仍不能梟首。只爲囚人。逕日之處。定景令持法華經。每日轉讀敢不怠。而義實。稱去夜有夢告。申武衛云。定景爲怨息敵之間。不加誅戮者。雖難散鬱陶。爲法華持者。每聞讀誦之聲。怨念漸散。若被誅之者。還可爲義忠之冥途障歟。欲申宥之者。仰云。爲休義實之欝。下賜畢。奉優法華經之條。尤同心也。早可依請者。則免許云云。○八日。壬午。淺草大工參上之間。被始若宮營作。先奉遷御體於假殿。武衛參給。相摸國大庭御厨庤一古娘依召參上。奉行遷宮事。亦輔通景能等沙汰之。來月十五日。可有遷宮于正殿。其以前可造畢之由云云。○十四日。戊子。改元〔改〕治承五年。爲養和元年。○廿日。甲午。鶴岳若宮寶殿上棟。社頭東方搆假屋。武衛著御。御家人等候其南北。工匠賜御馬。而可引大工馬之旨。被仰源九郎主之處。折節無可引下手者之由。被申之。重仰云。畠山次郎。次佐貫四郎等候之上者。何被申無其仁之由哉。是併存所役卑下之由。寄事於左右。被難澁歟者。九郎主頗恐怖。則起座引兩疋。初下手畠山次郎重忠。後佐貫四郎廣綱也。此外。土肥次郎實平。工藤庄司景光。仁田四郎忠常。佐野太郎忠家。宇佐美平次實政等引之。申刻事終。武衛令退出給。爰未見〔今見〕之男一人。相

交供奉人一。頻進二行于御後一。其長七尺餘。頗非二直也者一。武衛覽レ之。聊御思慮。令二立留一給。未レ被レ出二御詞一之前。下河邊庄司行平。虜二件男一訖。還御之後。召二出庭中一。曳二抒直垂之下一。著二腹卷一。髻付レ札。安房國故長佐六郎郎等左中太常澄之由注レ之。事之體可レ謂二奇特一。被レ推二問事由一之處。不レ能二是非一陳謝。只稱レ可レ被二斬罪一矣。行平云。可レ被レ梟二首之條。勿論也。但不レ知二食其意趣一者。爲レ汝無レ據。早可レ申レ之者。于レ時常澄云。去年冬於二安房國一。主人蒙二誅罰一之間。從類悉以牢籠。寤寐難レ休二其欝胸一之間。爲レ果二宿意一。此程佇二立御亭邊一。又縢二死骸一之時。爲レ令レ知二姓字［於］人一。髻付レ簡云云。仰云。不レ及二子細一。早可レ誅。但今日宮上棟也。可レ爲二明日一者。被レ召二預梶原平三景時一畢。次召二行平一仰云。今日儀尤神妙。募二此賞一。所望一事。直可レ令レ達者。行平申云。雖レ非レ指二所望一。毎年貢馬事。土民極愁申事也云云。仰云。行二勳功賞一時。可二庶幾一者。官祿之兩途也。今申狀雖レ爲二比興一。早可レ依レ請者。仍於二御前一。成二給御下文一。成尋奉行［之］。下二下總國御厩別當所一。可下早免二除貢馬一事。行平所知貢馬。右件行平所知貢馬者。令二免除一畢。仍御厩別當。宜二承知一。勿二違失一。故下 ○廿一日。乙未。和田太郎義盛。梶原平三景時等。奉レ仰相二具昨日被二召取一之左中太［向］固瀨河一。而追二遣遠藤武者於稻瀨河邊一。被レ仰曰〈云〉。景時者。若宮造營之奉行也。早可レ令二歸參一。天野平內光

家。爲二彼替一。義盛相共。可レ致二沙汰一者。仍光家相二具之一。中太云。是程事。兼不レ被二思定一。輕擧歟（殿）哉云云。遂到二彼河邊一梟二首之一。雜色濱四郎時澤。爲二別（副）御使一。實二撿之一。今夜武衛御夢想。或僧參二御枕上一。申云。左中太者。武衛先世（之）讎敵也。而今造營之間露顯云云。覺後被レ申（仰イ同）云。謂二造營一者。奉レ崇二重大菩薩一。宮寺上棟之日。有二此事一。尤可レ信者。仍不レ改二時剋一。被レ奉二御厩御馬（號二奧駮一）於若宮一。葛西三郎爲二御使一云云。

八月小

十三日。丁巳（亥）。藤原秀衡可レ令レ追二討武衛一也。平資長（永）可レ追二討木曾次郎義仲一之由　宣下。是平氏之依二申行一也　○十五日。己未。鶴岳（岡）若宮遷宮。武衛參給云云。今日平氏但馬守經正朝臣。爲レ追二討木曾冠者一。進二發北陸道一云云　○十六日。庚申。中宮亮通盛朝臣。爲レ追二討木曾冠者一。又赴二北陸道一。伊勢守清綱。上總介忠清。館太郎貞保。發二向東國一。爲レ襲二武衛一也　○廿六日。庚午。散位康信入道。亦進二飛脚一。申云。今月一日。自二福原一歸洛。而去十六日。官軍等差二東方一發向。尤可レ被レ廻二用意一歟　○廿七日。辛未。澁谷庄司重國。次男高重。竭二無貳忠節一之上。依下令レ感二心操（ココロバセ）之隱便一給上。〔彼〕當知行澁谷下郷所濟乃貢等。所レ被二免除一也　○廿九日。癸酉。爲二御願成就一。於二若宮幷近國寺社一。可レ令レ轉二讀大般若仁王經等一之旨被二仰下一。此內可レ〔令〕

致二長日御祈禱一之所處在レ之。於二鶴岳宮一者兼日被レ定二其式一。至二伊豆箱根兩山一者。今被レ仰レ之。註文者。各一紙被レ送二遣彼山一云云。昌寛奉二行之一。

御祈禱次第事

每月朔　大般若經一部　衆三十人

每月朔　仁王講百座　衆十二人

長日　觀音品　衆百人　每五日一人宛

四季　曼荼羅供　衆四人

右御祈禱註文如レ件

治承五年八月晦日

九月大

三日。丙子。越後守資永（號二城四郎一）任二勅命一。驅二催當國軍士等一。擬レ攻二木曾冠者義仲一之處。今朝頓滅。是蒙二天譴一歟。

從五位下行越後守平朝臣資永

城九郎資國男　母將軍三郎清原武衡女

養和元六月十三日任叙

〇四日。丁丑。木曾冠者爲平家追討。〔上洛〕廻北陸道。而先陣根井太郎。至越前國水津。與通盛朝臣從軍。已始合戰云云〇七日。庚辰。從五位下藤原俊綱。(字足利太郎)者。武藏守秀鄕朝臣後胤。鎭守府將軍兼阿波守兼光六代孫。散位家綱男也。領掌數千町。爲郡內棟梁也。而去仁安年中。依或女姓之凶害。得帶下野國足利庄領主職。仍平家小松內府。賜此所於新田冠者義重之間。俊綱令上洛。愁申之時被返補。自爾以降。爲報其恩。近年令屬平家之上。嫡子又太郎忠綱。同意三郎先生義廣。依此等事。不參武衞御方。武衞亦頻咎思食之間。仰和田次郎義茂。被下俊綱追討御書。三浦十郎義連。葛西三郎清重。宇佐美平太實政等。被相副之。先義茂。今日下向。〇十三日。丙戌。和田次郎義茂飛脚。自下野國參。申云。義茂未到以前。俊綱專一者桐生六郎。爲顯隱忠。斬主人。而籠深山。搜求之處。聞御使之由。始人來陣內。但於彼首者。稱可持參。不出渡之。何樣可計沙汰哉云云。仰云。早可持參其首之旨。

可レ令二下知一者。使者則馳參云云○十六日。己丑。桐生六郎持二參俊綱之首一。先自二武藏大路一。立二使者於梶原平三之許一。申二案內一。而不レ被レ入二鎌倉中一。直經二深澤一。可レ向二腰越一之旨被レ仰レ之。次依レ可レ被レ加二實撿一。見二知俊綱面一之者有レ之歟由被二尋仰一。而只今於二祗候衆一者。不レ合二眼一之由申レ之。爰佐野七郎申云。下河邊四郎政義常資(必)二對面一云云。可レ被レ召レ之歟云云。仍召仰之間。政義逐二實撿一。令二歸參一申云。刎レ首後。經二日數一之故。其面殊〔改〕雖レ令レ變。大略無二相違一云云。○十八日。辛卯。桐生六郎。以二梶原平三一申云。依二此賞一。可レ列二御家人一云云。而誅二譜第主人一。造意之企。尤不當也。雖二一旦一。不レ足二賞翫一。早可レ誅之由被レ仰。是時則梟二俊綱首之傍一訖。次俊綱遺領等事。有二其沙汰一。於二所領一者。收公。至二妻子等一者。可レ令二本宅資財安堵一之旨。被レ定レ之。載二其趣於御下文一。被レ遣二和田次郎之許一云云。

仰(○誤カ)下　和田次郎義茂所

不レ可レ罰下雖レ爲二俊綱之子息郎從一參二向御方一輩上事。

右云二子息兄弟一。云二郞從眷屬一。始二桐生之者一。於下落二參御方一者上。不レ可レ及二殺害一。又件黨類(類黨イ同)等妻子眷屬幷私宅等。不レ可二取損亡一之旨。所レ被レ仰下知如レ件。

廿七日。庚子。民部大夫成良。爲平家使。亂入伊豫國。而河野〔四郎〕以下在廳等。依有異心。及合戰。河野頗雖伏。是無勢故歟云云。○廿八日。辛丑。和田次郎義茂。自下野國歸參云云。

十月小

三日。丙午。頭中將維盛朝臣。爲襲東國。赴城外。〔云云〕○六日。己酉。以走湯山住侶禪睿。補鶴岳供僧幷大般若經衆。給免田二町（在鶴岳西谷）御下文云云。又以玄信大法師。被加同職。於最勝講衆者可從長日役之旨被仰云云。

定補

若宮長日大般若經供僧職事。

大法師禪睿

右此人。爲大般若經供僧。長日可令勤行之狀如件。

治承五年十月六日

定補

若宮長日最勝講供僧職事。

大法師文信

右以〔同〕此人。於二最勝講衆一。長日之役。可レ令二勤仕一之狀。所レ仰如レ件。

治承五年十月六日

〇十二日。乙卯。以二常陸國橘郷一。令レ奉レ寄二鹿嶋社一。是依レ爲二武家護持之神一。殊有二御信仰一云云。

奉レ寄　鹿嶋社御領

在二常陸國一

橘郷

右爲二心願成就一。所レ奉レ寄如レ件。

治承五年十月日　　源頼朝（敬白）

廿日。癸亥。昨日。太神宮權禰宜度會光倫（ミツトモ）。（號二相鹿二郎太夫一）自二本宮一參著。是爲レ致二御祈禱一也。今日。

〔賜御願書〕武衛對面給。光倫申云。去月十九日。依平家由行。爲東國歸往新請任天慶之例。彼奉金鎧於神宮。奉納以前。祭主親隆卿嫡男神祇少副定隆。於伊勢國一志驛家頓滅。又件甲可被(致)奉納事。同月十六日。於京都有御沙汰。當于其日。本宮正殿棟木。蜂作巢。雀小蛇生子。就是等之恠。勘先蹤。輕朝憲。危國土之凶臣。當此時。可敗北之條。置而無疑者。仰曰。去永曆元年出京之時。有夢想告之後。當宮御事渇仰之思。異于他。所願成辨者。必可寄進新御厨云云。

十一月大

五日。丁丑。足利冠者義兼。九郎義經。土肥二(次)郎實平。土屋三郎宗遠。和田小太郎義盛等。爲防禦維盛朝臣。欲行向遠江國之處。佐佐木源三秀能申云。件羽林。當時在近江國。下向不知其期。且十郎藏人。張〔軍〕陣於尾張國。先可相支歟。各雖無左右忽進發。有何事哉云云。仍延引〔之〕云云 ○十一日。癸未。加賀竪者參著。是故入道源三位卿(○賴政)一族也。而彼三品禪門近親埴生彌太郎盛兼。去年宇治戰以後。蟄居于或所。潜欲參關東之處。五(九)月廿一日。前右大將(宗盛卿)遣生虜之刻。忽以自殺。號件與力衆。搦取少納言宗綱(繩)畢。依爲親昵。同被搜求之間。失度參向云云 ○廿一日。癸巳。中宮亮通

盛朝臣。左馬頭行盛。自二北國一歸洛。但馬守經正朝臣逗二留若狹國一云云　○廿九日。辛丑。早河庄所領乃貢者。一向所レ被二免除一也。依二殊御憐愍一也。

十二月小

七日。己酉。御臺所御惱。仍營中上下群集　○十一日。癸丑。師公日慧入滅。日來煩二腹中一。今夜。則葬二于山内邊一。武衞御哀傷之余。自令レ向二其茶毘所一給。是園城寺律靜房日胤門弟。顯密兼學淨侶也。去五月尋二先師舊好一。令二參向一之間。有二御歸依一云云。

養和二年壬寅。五月廿七日爲二壽永元年一。

正月大

一日。壬申。卯剋。武衞。御三參鶴岳宮一。被レ奉二神馬一疋一。佐野太郎忠家引レ之。其後。於二寶前一。令レ法三樂法華壽量品一給云云。○三日。甲戌。武衞御行始。渡三御于藤九郎盛長甘繩之家一。佐佐木四郎高綱。懸二御調度一。在二御駕之傍一。足利冠者。北條殿。畠山次郎重忠。三浦介義澄。和田小太郎義盛以下。列二御後一云云　○八日。

己卯。鶴岳若宮被レ始二行長日不動十一面等供養法一。供僧等奉二仕之一。爲二御素願成辨一也云云○廿三日。甲午。伯耆守時家。初參二武衞一。是時忠卿息也。依二繼母之結構一。被レ配二上總〔國〕一。司馬令レ賞二翫之一。爲二聟君一。而廣常。去年以來。御氣色聊不快之間。爲レ覽二其事一。擧二申之一。武衞愛二京洛客〔容〕一之間。殊憐愍云云。○廿八日。己亥。可レ被レ奉二太神宮一之神馬砂金等事。日者有二其沙汰一。今日潔齊〔齋イ同〕之輩。獻二此等〔仍〕於營中一覽レ之。直所レ令二採用一給一也。先金百兩。千葉介常胤。小山小四郎朝政等進。次神馬十疋。引二立庭上一。俊兼。候二簀子一。勘二毛付一。

一疋鴾毛（江戸太郎進）　一疋河原毛（下河邊四郎進）

一疋栗毛（武田太郎進）　一疋栗毛駮（吾妻八郎進）

一疋青黑（高場次郎進）（○吉本無此項）　一疋鴾毛駮（豐田太郎進）（○吉本無此項）

一疋鹿毛（小栗十郎進）　一疋葦毛（葛西三郎進）

一疋白栗毛（河越太郎進）　一疋黑瓦毛（中村庄司進）

已上御馬。撰定之後。被レ預二置于生倫神主宅一。各相二副飼口一云云。

二月小

一日。癸卯。高場次郎從生澤五郎。蒙御氣色。被召預小山小四郎朝政。是神馬進發之前。殊可勞飼之旨(問)。被仰含之處。此男有緩怠事之故也。但生倫神主。如此刑罰。不可叶神慮之由。頻依傾申。被厚免云云 ○八日。己酉。被奉御願書於伊勢太神宮。大夫屬入道善信。獻草案。是爲四海泰平。萬民豐樂也云云。生倫。著衣冠。參營中賜之。則進發。中四郎維重。被相副之。長江太郎義景爲神寶御行。同首途。義景先祖權五郎景政。抽(〇鄭カ)重信心。去永久五年十月廿三日。以私領相摸國大庭御廚。永奉寄神宮之間。彼三代孫尤可相叶神慮歟之由。被經御沙汰。應其撰云云。

御願書云

維當歲次治承六年(壬寅)二月八日(己酉)吉日良辰達撰定天。前右兵衛佐從五位下源朝臣頼朝。禮代御幣。砂金神馬等。令捧齎持天天照百(〇坐カ)皇太神庿(廣イ同)前仁。恐天毛申天申久。頼朝訪遠祖波。神武天皇初天。日本國豐葦原水穗爾令監臨天。五十六代仁相當禮留淸和天皇乃第三乃孫與利。携武藝天。護國家利。居衛宮(官)天。耀朝威留。自爾以來。插(挾)野心凶(凶)徒征罰須留依勲功天。惠澤身仁餘利。武勇世仁聞倍。和國無爲仁志。有截克調天星霜三百餘歲仁罷留處。保元年中與利。洛陽仁兵亂起留。時人不訪湯(陽)王乃化。不存鎭護乃誓須。犯否於押混天。

賞罰於申行布間。平治年中仁。頼朝無二咎過一天。蒙二罪科一布。含二愁憤一天。送二春秋一留處仁。前平大相國巖勇乃令二從黨一天。去去年乃秋。頼朝於擬レ誅志日。依レ有二天運一天。縣布留鏑遠令レ遁留本自利不レ誤。故仁神乃冥助奈利。而彼平大相國。還二頼朝乎謀叛乃由(疑)欲聞天驚須。即奏レ事不實奈利。挍[?]傍仁無レ便志天。只仰二蒼(穹)天一天聞多仁。華夷不レ靜須。逆浪靈蠱奈利。厥(ソノ)中仁。聖武天皇草創鎭地乃後。歷二四百餘歲一多留。蓮宮遠令二焚燒一條。蒼生誰不二悲歎一哉。凡朝務遠押行比。郡郷滅亡須留。是豈(量)仁。非二謀叛一乎。爰(ココニ)平大相國。僅早世奈留。神慮不快乃由。露顯奈利。但頼朝殊所レ恐天。如二風聞一波。熊野乃衆徒號志天。姧(奸)濫遠巧牟類等。去年正月仁。皇太神宮〔乃別宮伊雜宮〕仁濫入志天。御殿於破損志。神寶遠犯用須。因レ茲。御體遠皇太神乃御殿(所)乃砌(ミギリ)利。五十鈴乃河上乃畔仁。假奉レ遷云云。亦同月仁。彼凶賊等。二所太神宮乃御殿(所)近邊乃人宅仁亂入志。資財遠搜取利。舍宅遠燒失須留刻。祠官等成二恐怖一天。參二宮中一天令二騷動一牟。此兩條。全頼朝不レ謬。神明乃仰二照鑒一久。方今無〔爲無〕事仁。遂二參洛一天。防二朝敵一天。世務遠如レ元。一院仁奉レ任天。禹王乃慈愍遠。令レ訪。神事遠如在(ヂヨザイ)仁奉レ崇天。正法乃遺風遠令レ繼牟。縱雖二平家一毛。雖二源氏一毛。不義遠波罰志。忠臣遠波賞志賜倍。兼又。古今乃例遠訪天。二宮仁新加乃御領於申立天。伊雜(イゾウ)宮(ミヤ)遠造替志。神寶遠調進勢牟(せ)止。所二祈請(精)一奈利。抑東州御領。如レ元久。不レ可レ有二相違一乃由。任二二宮注文一。染二

丹筆天。奉免畢。此凡不訛謬須。皇（〇原作百王。今據吉本）太神。此狀遠令照納天。上美始自政王留。下[毛]迄于百司民庶天。安隱[穩]泰平仁。令施惠護天。賴朝加伴類。護萬天。夜乃守利日乃守利仁。護幸倍給倍止。恐天恐天毛申天申久。

治承六年二月八日　　前右兵衛佐從五位下源朝臣賴朝

十四日。乙卯。伊東次郎祐親法師者。去去年已後。所被召預三浦介義澄也。而御臺所御懷孕之由風聞間。義澄得便。頻窺御氣色之處。召御前。直可有恩赦之旨。被仰出。義澄傳此趣於伊東。伊東申可參上之由。義澄於營中。相待之際。郎從奔來云。禪門承今恩言。更稱恥前勘。忽以企自殺。只今僅一瞬之程也云云。義澄雖奔至。已取捨云云。〇十五日。丙辰。義澄參門前。以堀藤次親家。申祐親法師自殺之由。武衛且歎且感給。仍召伊東九郎。（祐親子）父入道其過雖惟重。猶欲有宥沙汰之處。令[今]自殺畢。後悔無益食臍。況於汝有勞哉。尤可被抽賞之旨被仰。九郎申云。父已亡。後榮似無其詮。早可給身暇云云。仍被加不意誅戮。世以莫不美談之。武衛御座豆州之時者。（〇去カ）安元元年九月之比。祐親法師。欲奉誅武衛。九郎聞此事。潛告申間。武衛逃走湯山給。不忘其功給之

處。有二孝行之志一如レ此云云。

三月大

五日。乙亥。山田太郎重澄。日來朝夕祗候。殊竭二懇勤之忠一。仍今日賜二一村地頭職一。○九日。己卯。御臺所御著帶也。千葉介常胤之妻。依二殊仰一。以二孫子小太郎胤政一爲レ使獻二御帶一。武衛奉レ令レ結レ之給。丹後局候二陪膳一。○十五日。乙酉。自二鶴岳社頭一至二由比浦一。直二曲横一而造二詣往道一。是日來雖レ爲二御素願一。自然渉レ日。而依二御臺所御懷孕御祈一故。被レ始二此儀一也。武衛手自令レ沙二汰之一給。仍北條殿已下。各被レ運二土石一云云。○廿日。庚寅。太神宮奉幣御使歸參。二宮一禰宜各領二納幣物一。可レ抽二懇祈一之由。內內申レ之。但不レ奉レ狀。是若憚二平家之後聞一歟之旨。有二御疑一云云。

四月小

五日。乙巳。武衛令レ出二腰越一。趣二江島一給。足利冠者。北條殿。仁田冠者。畠山次郎。下河邊庄司。同四郎。結城七郎。上總權介。足立右馬允。土肥次郎。宇佐美平次。佐佐木太郎。同三郎。和田小太郎。三浦十郎。佐野太郎等〔候〕御共。是高尾文學上人。爲レ祈二武衛御願一。奉レ勸二請大辨才天於此島一。始二行供養法一之間。

故以令二監臨一給。密議。此事爲レ調二伏鎭守府將軍藤原秀衡一也云云。今日即被レ立二鳥居一。其後令レ還給。於二金洗澤邊一。有二牛追物一。下河邊庄司。和田小太郎。小山田三郎。愛甲三郎等。依レ有二箭員一。各賜二色皮紺絹等一。

○十一日。辛亥。貞能爲二平家使者一。此間在二鎭西一。而申二下官使一。相二副數輩私使一。稱二兵粮一〔米〕廻二國郡一。成二水火之責一。庶民悉以爲レ之費。仍(乃)肥後國住人菊池次郎高直。〔者〕爲レ去二當時之難一。令二歸伏一之由申レ之云云。

○廿日。庚申。圓淨房依レ召自二武藏國一參上。爲レ抽二御祈丹誠一。此間候二營中一。是爲二左典廐護持僧一。武衛御胎內之昔。加二持御帶一者也。而平治逆亂以後。出(從)二洛陽一來二武藏國一。草二創一寺一。(號二蓮生寺一。)爲二住所一云云。仍且感二往年之功一。且被レ優二當時懇祈一。以二田五町桑田五丁一。限二未來際一。寄二附彼寺一給

○廿四日。甲子。鶴岳若宮邊水田(號二絃卷田一)三町余(餘)。被レ停二耕作之儀一。被レ改レ池。專光。景義等奉二行之一。

○廿六日。丙寅。文學上人。依レ請參二營中一。自二去五日一。參二籠江島一。歷二三七箇日一。昨日退出。其間斷食。而懇祈碎二肝膽一由申レ之。

五月大

十二日。辛巳。伏見冠者藤原廣綱(繩)。初參二武衛一。是右筆也。馴二京都一者。依レ有二御尋一。安田三郎。被レ擧二申

之。日來住二遠江國懸河邊一云云。○十六日。乙酉。及二日中一。老翁一人。正二束帶一把レ笏。參二入營中一候二西廊一。僮僕二人從レ之。各著二淨衣一。捧二榊枝一。人恠レ之。面面到二其座砌一。雖レ問二參入之故一。更不レ答。前少將時家。〔到問之時〕始發二言語一。直可レ申二鎌倉殿一云云。羽林。重問二名字一之處。不二名謁(ナノラ)一。即披二露此趣一。武衛自二簾中一覽レ之。其體頗可レ謂レ神。稱レ可二對面一。令レ相二逢之一給。老翁云。是豐受太神宮禰宜爲保也。而遠江國鎌田御厨者。爲二當宮領一。自二延長年中一以降。爲保數代相傳之處。安田三郎義定押二領之一。雖レ通二子細一。〔敢〕不二許容一。枉欲レ蒙二恩裁一云云。以二此次一。神宮勝事。引二古記所一レ見(シメス)。述二委(細)曲一。武衛御仰信〔之〕餘不レ能レ被レ問二安田一。直賜二御下文一。則以二新藤次俊長一。御使可レ沙二汰一置爲保使於彼御厨一之由。被二仰付一〔之〕云云。○十九日。戊子。十郎藏人行家在二參(三)河國一。爲レ追二討平家一。可レ令二上洛一之由内儀。先爲二祈請一。相二語當國目代中臣藏人以通一。密勤(勒[イ]同)二告文一。相二副幣物等一。奉二一所大神宮一。

奉レ送　御幣物

美紙拾帖　　八丈絹貳疋

右奉レ送如レ件。

治承五年五月十九日　　參河御目代大中臣以通

依藏人殿仰。所令申候也。太神宮御事。自内本心御祈念候之上。旁御夢想候歟。仍所思食御意趣之告文。御幣物送文等獻上之。以此趣。可御祈念候也。仰之旨如此。謹言。

五月十九日　　大中臣以通　奉

内外宮政所大夫殿

廿五日。甲午。相摸國金剛寺住侶等。捧解狀。群參營中。是所訴申古庄近藤太非法也。彼狀被召出御前。相鹿大夫先生。讀申之。

金剛寺住僧等解。申請　鎌倉殿御裁定事

請被特蒙慈恩。停止古庄鄕司近藤太。致非例濫行。苛法難堪子細狀。

副進所課注文一通。

右住僧等謹言上。倩案當寺爲體。大日如來變身。不動明王靈地也。仰其利生之倫。破惡魔怨敵。趣十善尊位者也。爰住僧聖譚。切拂此幽山中。安置明王尊像。招集無縁禪徒。勸晝夜勤行。朝叩鐘磬。奉祈大主尊閣。夕嘔羅衾。祈請國土安穩。而當鄕司。猥耽一旦之貪利。永忘三寶之冥助哉。依此呵責。

住僧等各閇二庵室之樞一。捨二供養之法器一畢。寺中無二耕作田畠一。唯懸二露命於林菓一許也。就レ中爲二山狩一。追二出僧家一之條。希代事也。依二如レ此之責一。住僧等已逃（逃）散。加之。聖躍（シヤクセン）於レ破二壞精舍一。雖レ企二修造之營一。誰留二安堵之陲一哉。若無二御裁許一者。誰住僧留二蹤跡一矣（者）。望請。早任二注文狀一。被二停止一者。住僧等各凝二三業（葉）一心之丹誠一。可レ奉レ祈二千秋之御寶算一矣。以解。

治承六年五月日　　金剛寺住僧等

○廿六日。乙未。金剛寺僧徒訴事。昨日擬レ有二其沙汰一之處。已及二秉燭一之上。昌寛申レ障而不レ參之間。今日被レ經二沙汰一。被レ成二下外題一云云。

如二申狀一僧徒（○僧徒申狀カ）等者有レ謂（課）山寺仁。公事幷狩山鷹養（食）召仕事。見苦事也。速可レ令二停止一狀。

仰處如レ件。

○廿七日。丙申。改元。改二養和二年一。爲二壽永元年一。○廿九日。戊戌。十郎藏人去十九日奉二告文等於伊勢太神宮一。彼禰宜等返狀。今日到二著子（三）參河國一。

今月十九日告文。幷御消息。同廿二日到來。子細披見畢。抑自二去年冬比一。關東不レ靜。殊可二祈請一之旨。

頻依レ被レ下二綸言一。各凝二丹誠一之處。不レ圖外。神主爲宜等。背二朝家一。同二意源氏一。致二彼祈請一之由。謗奏出來之間。度度下二院宣一。依レ被レ相二尋眞僞一。勤〔勅イ同〕二不レ誤之狀一。進二請文一畢。而今被レ送二告文一。輙不レ能二領狀一、云云。以二此旨一。可レ經二奏聞一也。是後日勅勘之疑。可レ有二其恐一之故也。神宮事。偏雖レ仰二神明一。又不レ寧二公家　裁定一者。不レ致二沙汰一之例也。又東國之中。太神宮御領。既有二其數一。云二神戶一。云二御厨一。皆所レ勤有レ限。嚴重無レ止。而彼所司神人等。寄二事於騷動一。又號レ有二兵粮米之責一。所當神税上分等。依レ令二難濟一。任二先例一。遣二宮使一。令レ加二催促一之處。辨濟既少。對捍甚多。因レ之。色色神役闕乏。各各神人抱二愁吟一。神慮有レ恐。人意無レ休之間。今不レ可レ致レ妨之由。被レ載レ狀。可レ存二其旨一候之狀如レ件。

治承五年五月廿九日　　太神宮政所權神主

侍中披二返狀一之後。知二神慮不快之由一。更令二周章一。又相二恃山門衆徒一。送二牒狀於延曆寺一。是忘レ謀二平家祈請一。可レ令レ力二源氏一之由也。牒。

六月小

一日。庚子。武衛以二御寵愛妾女一。（號二龜前一。）招二請于小中太光家小窪宅一給。御中通之際。依レ有二外聞一之憚一。

被レ搆二居於遠境一云云。且此所。爲二御濱出便宜地一云云。是妾。良橋太郎入道息女也。自二豆州御旅居一。奉二昵近一。匪二顏貌之濃一。心操殊柔和也。自二去春之比一御密通。追レ日御寵甚云云。〇五日。甲辰。熊谷二郎直實者。謂二朝夕恪勤之忠一。去治承四年。追二討佐竹冠者一之時。殊施二勳功一。依レ令レ感二其武勇一給上。武藏國舊領等。停二止直光之押領一。可レ領二掌之由。被二仰下一。而直實。此間在國。今日令二參上一。賜二件下文一云云。

下 武藏國大里郡熊谷次郎平直實所 定二補所領一事。

右件所。且先祖相傳也。而久下權守直光押領事停止。以二直實一爲二地頭之職一成畢。其故何者。佐竹四郎。常陸國奧郡。花園山楯籠。自二鎌倉一令レ責御〔給〕時。其日御合戰。直實勝二萬人一前懸。一陣懸壞。一人當千顯二高名一。其勸賞。件熊谷鄉之地頭職成畢。子子孫孫。永代不レ可レ有二他妨一。故下。百姓等宜二承知一。敢不レ可二違失一。

治承六年五月卅日

〇七日。丙午。武衛令レ出二由井浦一給。壯士等各施二弓馬藝一。先有二牛追物等一。下河邊庄司。(爲二御合手一。)榛谷四郎。和田太郎。同次郎。三浦十郎。愛甲三郎。爲二射手一。次以二股解沓一。差二長八尺串一。召二愛甲三郎一。令レ射

給。五度射レ之。皆莫レ不レ中。而武衛令レ打ニ彼馬跡與ニ的下一給之處。其中間爲ニ八杖一也。仍積ニ此杖數一。可レ定ニ相賀之馬場一之由被ニ仰出一。其後有ニ盃酌之儀一。與宴移レ尅。及レ晩。加藤次景廉於ニ座席一絶入。諸人騒集。佐佐木三郎盛綱。持ニ來大幕一。纒ニ景廉一。懷持退去。則歸ニ宿所一。加ニ療養一。依ニ此事一。止ニ御酒宴一。令レ歸給云云。

○八日。丁未。武衛渡ニ御景廉車大路家一。令レ訪ニ病痾一給。自ニ今曉一。心神復本之由申レ之。即令レ候ニ御共一。參ニ小中大家一云云。○廿日。己未。戌尅。鶴岳邊。有ニ光物一。指ニ前濱邊一飛行。其光及ニ數丈一。暫不レ消云云。

七月大

十二日。庚辰。御臺所依ニ御産氣一。渡ニ御比企谷殿一。被レ用ニ御輿一。是兼日。被レ點ニ其所一云云。千葉小太郎胤正。同六郎胤頼。梶原源太景季等候ニ御共一。梶原平三景時。可レ奉ニ行御産間雜事一之旨。被ニ仰付一云云。○十四日。壬午。新田冠者義重主。蒙ニ御氣色一。是彼息女者。惡源太殿（武衛舍兄）後室也。而武衛此間以ニ伏見冠者廣綱一。潛雖レ被レ通ニ御艶書一。更無ニ御許容氣一之間。直被レ仰ニ父主一之處。義重元自於レ事依レ廻ニ思慮一憚ニ御臺所御後聞一。俄以令レ嫁ニ件女子於帥六郎一（イ一一）之故也。

八月大

五日。癸卯。鶴岳供僧譚齋捧二訴狀一云。長日不退御祈禱。更無二怠慢一之處。於二恩賜田畠一准二平氏一。被レ充ニ催公事一。愁訴難レ慰云云。仍則停二止萬雜公事一之由。被二仰下一。召二譚齋於御前一。直賜二御下文一。

下

可レ令三早停二止若宮供僧譚齋在家役一。幷自作麥畠壹町地子一事。

右件人。爲二若宮供僧一。長日之御祈無二懈怠一。而在二御令〔鄉〕二住房一。准二於土民一。懸二萬雜(○公脫カ)事一。令レ煩之條。不二隱便一事也。於二自今已後一者。云二萬雜公事一。云二垣內畠一。〔早〕可レ令レ停二止其煩一之狀。所レ仰如レ件以下。

治承六年八月五日

十一日。己酉。及レ晩御臺所有二御產氣一。武衞渡御。諸人群集。又依二此御事一。在國御家人等。近日多以參上。爲二御祈禱一。被レ立二奉幣御使於伊豆筥根兩所權現。幷近國宮社一。

所謂

伊豆山。　土肥彌太郎　　筥根。　佐野太郎

相摸一山。(〇宮カ)　梶原平次　　三浦十二天。　佐原七郎
武藏六所宮。　葛西三郞　　常陸鹿島。　小栗十郞
上總一宮。　小權介良　　下總香取社。　千葉小太郞
安房東條庤。　三浦平六　　同國洲崎社。　安西三郞

十二日。庚戌。霽。酉剋。御臺所男子(〇賴家)御平產。[也] 御驗者專光房阿闍梨良暹。大法師觀修。鳴弦(メイゲンノ)役。師岳兵衛尉重經。大庭平太景義。多多良權守貞義也。上總權介廣常引目役(ヒキメノヤク)。戌剋。河越太郞重賴妻(比企尼女。)依召參入。候御乳付。〇十三日。辛亥。若公誕生之間。追代代佳例。仰御家人等。被召御護刀。所謂。宇都宮左衛門尉朝綱。畠山次郞重忠。土屋兵衛尉義淸。和田太郞義盛。梶原平三景時。同源太景季。橫山太郞時兼等獻之。亦御家人等獻御馬。及二百餘疋。以此龍蹄等。被奉于鶴岳宮。當國一宮。大庭庤(マウケ)。三浦十二天。栗濱大明神已下諸社也。兼備父母之壯士等。被撰定御使云云。〇十四日。壬子。若君三夜儀。小山四郞朝政。沙汰之。〇十五日。癸丑。鶴岳宮。被始六齋講演。〇十六日。甲寅。若公五夜儀。上總介廣常沙汰也。〇十八日。丙辰。七夜儀。千葉介常胤。沙汰之。常胤相具子息六人。

著二侍上一。父〈千葉〉白水干袴一。以二胤正母一。（秩父大夫重弘女）爲二御前陪膳一。又有二進物一。嫡男胤正次。男師常。舁二御甲一。三男胤盛。四男胤信。引二御馬一。（置レ鞍）五男胤道。持二御弓箭一。六男胤頼〔役〕御劍。各列二庭上一。兄弟皆容儀神妙壯士也。武衞殊令レ感レ之給。諸人又壯觀。○廿日。戊午。若君九夜御儀。外祖（○時政）令レ沙二汰之一給。

九月小

十五日。癸未。爲レ追二討木曾冠者義仲主一。所レ發二向北陸道一。平氏軍兵等。悉以歸二京都一。已屬二寒氣一。在國難治之由。雖レ成二披露一。眞實之趣。怖二義仲之武略一之故云云。○廿日。戊子。中納言法眼圓曉。（號二宮法眼一）自二京都一下向。是後三條院御後。輔仁親王御孫。陸奧守源朝臣（義家）御外孫也。武衞〔被〕諄二彼舊好一。所二籠中一也。則〔參〕被レ奉レ入二營中一給。且御産間御祈事。可レ被レ申處。爲レ果二宿願一。以二下向便宜一。參二籠太神宮一之間。守レ今遲遲云云。祭主親隆卿。令下二家人等一奉上レ送二遼遠之境一云云。○廿三日。辛卯。武衞相二催中納言法眼坊一。參二鶴岳一給。是宮寺別當職依レ被二申付一也。於二拜殿一。有二此芳約一云云。○廿五日。癸巳。土佐冠者希義者。武衞弟也。（母季範女）去永曆元年。依レ致二左典廐（○義朝）緣坐一。配二流于當國介良(ヒラキ)庄一處。近年武

衛。於東國。擧義兵給之間。稱有合力疑。可誅希義由。平家加下知。仍故小松內府(○重盛)家人。蓮池權守家綱。平田太郎俊遠。(各當國住人。)爲顯功擬襲希義。希義日來與夜須七郎行家。(土州住人)依有約諾之旨。辭介良城。向夜須庄。于時。家綱俊遠等。追到于吾河郡年越山。誅希義訖。行家者。又家綱等。圍希義之由聞及之。爲相扶。件一族等馳向之處。於野宮邊。希義被誅之由聞。空以歸去。而家綱〔俊遠〕等。又欲討行家之間。粧船。一族相乘之。自佛崎〔浮〕海上。逃亡。家綱等馳到于其船津。先爲度行家。遣二人使者於行家之船。有可談合事稱可來臨由。行家令察家綱等造意。斬二人使者首。棹船赴紀伊國云云。○廿六日。甲午。點鶴岳西麓。被建宮寺別當坊。今日卽立柱。棟上。大庭平太景義奉行之。武衛監臨給。○廿八日。丙申。越後國城四郎永用。於越後國小河庄赤谷。搆城郭。剩奉崇妙見大菩薩。奉呪詛源家由。有其聞。

十月大

九日。丙子。越後住人城四郎永用。相濫兄資元(當國守)跡。欲奉射源家。仍今日。木曾冠者義仲引率北陸道軍士等。於信濃國筑摩河邊。遂合戰。及晚。永用敗走云云。○十七日。甲寅。御臺所幷若公。

白二御產所一入ニ御營中一。佐佐木太郎定綱。同次郎經高。同三郎盛綱。同四郎高綱等。奉レ舁二若公御輿一。小山五郎宗政賜二御調度一。同七郎朝光持二御劍一。比企四郎能員爲二御乳母夫一。奉二御贈物一。此事。雖レ有二若干御家人一。義員嫂母（號二比企尼一。）當初爲二武衞乳母一。而永曆元年。御ニ遠二行于豆州一之時。存二忠節一餘。以二武藏國比企郡一。爲二請所一。相ニ具夫掃部允一。掃部允下向。至二治承四年秋一。廿年之間。奉レ訪二御世途一。今當二于御繁榮之期一。於レ事就レ被レ酬二彼奉公一。件尼。以二甥義員一爲二猶子一。依二擧申一。如レ此云云。

十一月小

十日。丁丑。此間。御寵女（龜前）住二于伏見冠者廣綱飯嶋家一也。而此事露顯。御臺所殊令レ憤給。是北條殿室家牧御方密密令レ申レ之給故也。仍今日。仰二牧三郎宗親一。被ニ却二廣綱之宅一。頗及二恥辱一。廣綱奉レ相ニ伴彼人一。希有而遁出。到二于大多和五郎義久鐙摺宅一云云。〇十二日。己卯。武衞寄二事於御遊興一。渡ニ御義久鐙摺家一。召ニ出牧三郎宗親一。被レ具二御共一。於二彼所一。召二廣綱一。被レ尋ニ仰一昨日勝事一。廣綱。具令レ言ニ上其次第一。仍被レ召ニ決宗親一處。陳謝巻レ舌。垂二面於泥沙一。武衞御欝念之餘。手自令レ切二宗親之髻一給。此間被二仰含一云。於レ奉レ重二御臺所事一者。尤神妙。但雖レ順二彼御命一。如レ此事者。內內盍二告申一哉。忽以與二恥辱一之條。所存企

甚以奇恠云云。宗親逃亡。武衛今夜止宿給　〇十四日。辛巳。晩景。武衛令レ還二鎌倉一給。而今晩。北條殿。俄進二發豆州一給。是依下彼〔彼〕(〇大系彼ト意改ス)欝二陶〔胸〕宗親御勘發事一也。武衛令レ聞二此事一給。太有二御氣色一。召二覩原源太一。江馬(〇義時)者有二隱便存念一。父縱挿二不義之恨一。不レ申二身暇一。雖二下國一。江間者不二相從一歟。在二鎌倉一否哉。慥可レ相二尋之一云云。片時間。景季歸參。申下江馬不二下國一之由上。仍重遣二景季一。召二江間一。江間殿參給。以二判官代邦通一。被レ仰云。宗親依レ現二奇恠一。加二勘發一之處。北條住二(〇任カ)欝念一。下國之條。殆所レ違二御本意一也。汝察二吾命一。不レ相二從于彼下向一。殊感思食者也。定可レ爲二子孫之護一歟。今賞追可レ被レ仰者。江間殿。不レ被レ申二是非一。啓下畏奉之由上。退出給云云。〇廿日。丁亥。爲レ征二土佐國住人家綱俊遠等一。被レ差二遣伊豆右〔左〕衛門有綱於彼國一。有綱〔綱〕以二夜須七郎行家〔宗〕一。爲二國中仕承一。今曉首途。件家綱〔綱〕等。依下誅二土佐冠者一科上。如レ此云云。

十二月大

一日。丁酉。生倫神主。注進申云。二宮禰宜等。奉レ同二意關東一之由。有二平家之讒奏一。去月之比。公家及二御沙汰一。遂爲二祠官濫亂一歟云云。〇二日。戊戌。就二生倫申狀一。被レ遣二御書一。於二太神宮一

禰宜達同㆓心賴朝㆒之由。平家訴申事。竭忠給者也。但神者納㆓受道理㆒。［若］君モ遂然御歟。各不㆑危。始終祈念給者。東國御領等。不㆑可㆑有㆓相違㆒之趣。可㆑被㆑觸㆓申二宮㆒也。謹言。

十二月二日

［次］二郎大夫〔殿〕（イ殿有）

七日。癸卯。夜深人定之後。武衞御㆓參鶴岳㆒。佐佐木三郎。和田次郎等之外。無㆓御共人㆒。而於㆓拜殿㆒。御念誦。宮寺承仕法師榮光〔咎〕來云。著㆓于君御座㆒。誰人哉。早可㆓退去㆒云云。武衞御感之餘。召㆓出御前㆒。賜㆓甘繩(アマナハ)邊田一町㆒。〇十日。丙午。御寵女（〇龜前）遷㆓住于小中太光［宗］家小坪(コツボ)之宅㆒。頻雖㆑被㆑恐㆓申御臺所御氣色㆒。御寵愛追㆑日興盛之間。慇以順㆑仰云云。〇十六日。壬子。伏見冠者廣綱。配㆓遠江國㆒。是依㆓御臺所御憤㆒也。〇卅日。丙辰。上總國御家人。周西(スサイ)二郎助忠以下。多以可㆑安㆓堵本宅㆒之旨。奉㆓恩裁㆒云云。

吾妻鏡　卷第三

壽永三年甲辰。　四月十六日爲二元曆元年一。

正月小

一日。辛卯。霽。鶴岡八幡宮有二御神樂（ミカグラ）一。前武衞無二御參宮一。去冬依二廣常事一。營中穢氣（エキ）之故也。藤判官代邦通。爲二奉幣御使一。著二廻廊一。別當法眼（○圓曉）參會。被レ行二法華八講一云云。○三日。癸巳。武衞有二御祈願一之間。奉レ寄二領所於豐受太神宮一給。依レ爲二年來御禱師一。被レ付二權禰宜光親神主一云云。

狀云。

奉レ寄御厨家。

合一處。

在武藏國。崎西。足立兩郡內。大河土御厨者。

右件地。元相傳家領也。而平家虜二領天下一之比。所二神領一也。而今。新爲二公私御禱一。奉レ寄二于豐受太神宮

御領一。所レ令レ勤二仕長日御幣一。每年臨時祭等一也。抑令三權神主光親一。祈二請天下泰平一之處。依レ有二感應一。爲二殊祈禱所一。可レ令二知行一也。但於二地頭等一者。不レ可レ有二相違一。仍爲二後代一。寄文如レ件。以解。

壽永三年正月日　　前右兵衛佐源朝臣

八日。戊戌。上總國一宮神主等申云。故介廣常存日之時。有二宿願一。奉レ納二甲一領於當宮寶殿一云云。武衛被二仰下一曰。定有二子細一事歟。被レ下二御使一。可レ召二覽之一云云。仍今日。被レ遣二藤判官代並一品房等一。進二御甲一領一。被奉納甲者。已爲二神寶一。無二左右一。難二給出一之故。以二兩物一。取二替一領一之條。神慮。不レ可レ有二其祟一歟之旨。被レ仰云云。○十日。庚子。伊豫守義仲兼二征夷大將軍一云云。粗勘二先規一。於二鎭守府一宣下一者。坂上中興以後。至二藤原範季一。(安元二年三月)雖レ及二七十度一。至二征夷使一者。僅爲二兩度一歟。所謂。桓武天皇御宇延曆十六年丁丑十一月五日。被レ補二按察使兼陸奧守坂上田村麻呂卿一。朱雀院御宇天慶三年庚子正月十八日。被レ補二參議右衛門督藤原忠文朝臣一等也。爾以降。皇家廿二代。歲曆二百四十五年。絕而不レ補二此職一之處。今始二例於三輩一。可レ謂二希代朝恩一歟。○十七日。丁未。藤判官代邦通。一品房並神主兼重等。相二具廣常之甲一。自二上總國一宮一。歸二參鎌倉一。卽召二御前一。覽二彼甲一。(小櫻皮威)結二付一封狀於高紐一。武衛自令

レ拔レ之給。其趣所レ奉レ祈二武衛御運一之願書也。不レ存二諛曲一之條。已以露顯之間。被レ加二誅罰一事。雖レ及二御後悔一。於レ今無レ益。須レ被レ廻二歿後之追福一。兼又。廣常之弟天羽庄司直胤。相馬九郎常清等者。依二緣坐一召二四人一也。優二亡者之忠一。可レ被二厚免一之由。被二定仰一云云。

願書云。

敬白。

上總國一宮寶前。

立申所願事。

一 三箇年中。可レ寄二進神田二十町一事。

一 三箇年中。可レ致二如レ式造營一事。

一 三箇年中。可レ射二萬度流鏑馬一事。

右志者。爲二前兵衛佐殿下心中祈願成就東國泰平一也。如レ此願望。令二一一圓滿一者。彌可レ奉レ崇二神威光一者也。仍立願如レ右。

治承六年七月日　　　　上總權介平朝臣廣常

廿日。庚戌。蒲冠者範頼。源九郎義經等。爲二武衛御使一。率二數萬騎一入洛。是爲レ追二罰(討)義仲一也。今日範頼自二勢多一參洛。義經入レ自二宇治路一。木曾。以二三郎先生義廣。今井四郎兼平已下軍士等一。於二彼兩道一。雖二防戰一。皆以敗北。蒲冠者。源九郎相二具河越太郎重頼。同小太郎重房。佐佐木四郎高綱。畠山次郎重忠。澁谷庄司重國。梶原源太景季等一。馳二參六條殿一。奉レ警二衛仙洞一。此間。一條次郎忠頼已下勇士。競二走于諸方一。遂於二近江國粟津邊一。令下二相摸國住人石田次郎一。誅中戮義仲上。其外錦織判官等者逐電云云。

征夷大將軍從四位下行伊豫守源朝臣義仲。(年三十一) 春宮帶刀長義賢男。

壽永二年八月十日。任二左馬頭一兼二越後守一。叙二從五位下一。同十六日。遷二任伊豫守一。十二月十日。辭二左馬頭一。同十三日叙二從五位上一。〔同叙正五位下〕

元暦元年正月六日。叙二從四位下一。十日。任二征夷大將軍一。撿非違使右衛門權少尉。源朝臣義廣。伊賀守義經男

壽永二年十二月廿一日。任二右衛門權少尉一。(元無官) 蒙二使宣旨一。

廿一日。辛亥。源九郎義經主。獲二義仲首一之由奏聞。今日及レ晩。九郎主。搦二進木曾專一者樋口次郎兼光一。是爲二木曾使一。爲レ征二石川判官代一。日來在二河内國一。而石河逃亡之間。空以歸レ京。於二八幡大渡邊一。雖レ問二主人滅亡事一。押以入洛之處。源九郎家人數輩馳向。相戰之後。生二虜之一云云。○廿二日。壬子。下總權守藤原爲久。依レ召自二京都一參向。是豐前守爲遠二男。無雙畫圖達者也。○廿三日。癸丑。常陸國鹿島社禰宜等。進二使者於鎌倉一申曰。去十九日。社僧夢想曰。當所神。爲レ追二罰義中並平家一。赴二京都一御云云。而同廿日戌尅。黑雲覆二寶殿一。四方悉如レ向レ暗。御殿大震動。鹿雞等多以群集。頃而彼黑雲亘二西方一。雞一羽在二其雲中一。見二人目一。是希代未聞奇瑞也者。武衞令レ聞レ之給。則御湯殿下二庭上一。遙拜二彼社方一給。彌催二御欽仰之誠一云云。件時尅。京鎌倉共以雷鳴地震云云。○廿六日。丙辰。晴。今朝。撿非違使等。於二七條河原一。請二取伊豫守義仲。並忠直。兼平。行親等首一。懸二獄門前樹一。亦囚人兼光同相二具之一。被レ渡訖。上卿藤中納言。職事頭辨雅光（○光雅カ）朝臣云云。○廿七日。丁巳。未刻。遠江守義定。蒲冠者範頼。源九郎義經。一條次郎忠頼等飛脚。參二著鎌倉一。去廿日遂二合戰一。誅二義仲並伴黨一之由申レ之。三人使者。皆依レ召參二北面石壺（イシノツボ）一。問二委細一之處。景時飛脚又參著。是所レ持二參討亡囚人等交名注文（キヤウミヤウノチウモン）一也。方方使者雖二參上一。不レ能二記錄一。

景時之思慮。猶神妙之由。御感及二再三一云云。〇廿八日。戊午。小山四郞朝政。土肥次郞實平。澁谷庄司重國已下。可レ然御家人等使者參二鎌倉一。各所三賀二申合戰無爲之由一也。〇廿九日。己未。關東兩將。爲レ征二平氏一。率二軍兵一。赴二西國一。悉今日出京云云。

二月大

一日。庚申。蒲冠者範頼主蒙二御氣色一。是去年冬。爲レ征二木曾一。上洛之時。於二尾張國墨俣渡一。依レ相二爭先陣一。與二御家人等一。鬪亂之故也。其事。今日。已聞食之間。朝敵追討以前。好二私合戰一。太不二穩便一之由。被レ仰云云。〇二日。辛酉。樋口次郞兼光梟首。澁谷庄司重國奉レ之。仰二郞從平太男一。而斬損之間。子息澁谷次郞高重斬レ之。但去月廿日合戰之時。依レ被レ疵。爲二片手打一云云。此兼光者。與二武藏國兒玉之輩一。爲二親昵一之間。彼等募二勳功之賞一。可レ賜二兼光命一之旨。申請之處。源九郞主。雖レ被レ奏二聞事由一。依二罪科不一レ輕。遂以無レ有二免許一云云。〇四日。癸亥。平家。日來相二從西海山陰兩道軍士數萬騎一。構二城郭於攝津與二播磨一之境一谷一［谷］群集。今日迎二相國禪門（閣遠忌）一廻忌景一。修二佛事一云云。〇五日。甲子。酉剋。源氏兩將到二攝津國一。以二七日卯時一。定二箭合之期一。大手大將軍者蒲冠者範頼也。相從之輩。

小山四郎朝政　武田兵衛尉有義　板垣三郎兼信
下河邊庄司行平　長沼五郎宗政　千葉介常胤
佐貫四郎廣綱（成）　畠山次郎重忠　稻毛三郎重成
同四郎重朝　同五郎行重　梶原平三景時
同源太景季　同平次景高　相馬次郎師常
國分五郎胤道　東六郎胤頼　中條藤次家長
海老名太郎　小野寺太郎通綱　曾我太郎祐信
庄司三郎忠家　同五郎廣方　鹽谷五郎惟廣
庄（シヤウ）太郎家長　秩父武者四郎行綱　安保（アブ）次郎實光
中村（山）小三郎時經　河原太郎高直　同次郎忠家
小代八郎行平　久下（クゲ）次郎重光

已下五萬六千餘騎也。搦手大將軍源九郎義經也。相從之輩。

遠江守義定　大內右衞門尉惟義　山名三郎義範
齋院次官親能　田代冠者信綱　大河戶太郎廣行
土肥次郎實平　三浦十郎義連　糟屋藤太有季
平山武者所季重　平佐古太郎爲重　熊谷次郎直實
同小次郎直家　小河小次郎祐義　山田太郎重澄
原三郎淸益　猪俣平六則綱　已上二萬餘騎也

平家聞二此事一。新三位中將資盛卿。小松少將有盛〔朝臣〕。備中守師盛。平內兵衞尉淸家。惠美次郎盛方〔已下イ同〕上七千餘騎。着二于當國三草山之西一。源氏又陣二于同山之東一。隔二三里行程一。源平在二東西一。爰九郎主。如二信綱實平一。加二評定一。不レ待二曉天一。及二夜半一。襲二三品羽林一。仍平家周章分散畢。○七日。丙寅。雪降。寅尅。源九郎先引二分殊勇士七十餘騎一。著二于一谷後山一。(號二鵯越一。)爰武藏國住人。熊谷次郎直實。平山武者所季重等。卯尅。偸廻二于一谷之前路一。自二海道邊一競二襲于舘際一。爲二源氏先陣一之由。高聲名謁間。飛驒三郎左衞門尉景綱。越中次郎兵衞尉盛次。上總五郎兵衞尉忠光。惡七兵衞尉景淸等。引二廿三騎一。開二木戶口一相二戰之一。

熊谷小次郎直家被レ疵。季重郎從夭亡。其後。蒲冠者。並足利。秩父。三浦。鎌倉之輩等競來。源平軍士互混亂。白旗赤旗。交レ色闘戰。爲レ體。響レ山動レ地。凡雖二彼樊噲張良一。輙(タヤスク)難二敗績一之勢也。加レ之城郭。石巖高聳。而駒蹄難レ通。澗谷深幽。而人跡已絶。九郎主相二具三浦十郎義連已下勇士一。自二鵯越(ヒヨドリゴエ)一(此山猪鹿兎狐之外。不レ通險阻也)被二攻戰一間。失二商量一敗走。或策レ馬出二一谷之舘一。或棹レ船赴二四國之地一矣。本三位中將。(重衡)於二明石浦一。爲二景時。家國等一。被二生虜一。越前三位。(通盛)到二湊河邊一。爲二源三俊綱一。被二誅戮一。其外。薩摩守忠度朝臣。若狹守經俊。武藏守知章。大夫敦盛。業盛。越中前司盛俊。以上七人者。範頼。義經等之軍中所二討取一也。但馬前司經正。能登守敎經。備中守師盛者。遠江守義定獲レ之。○八日。丁卯。關東兩將自二攝津國一。飛脚進二於京都一。昨日於二一谷一。遂二合戰一。大將軍九人梟首。其外誅戮及二千餘輩一之由。申レ之。○九日。戊辰。源九郎主入洛。相具之輩不レ幾。從軍追可二參洛一歟。是平家[氏]一族首。可レ被レ渡二大路一之旨。爲二奏聞一。先以揚レ鞭云云。○十一日。庚午。平氏等之首。可レ被レ渡二大路一之由。源氏兩將經二奏聞一。仍博陸三公。堀川亞相。(忠親卿)等被レ預二勅問一。彼一族。仕二朝廷一已年尙(ヒサシ)。可レ有二優恕沙汰一歟。將又範頼。義經。爲レ果二私宿意一。所二申請一。非レ無二道理一歟。兩樣之間。難レ決二叡慮一。宜二計申一之由云云。而意見雖二區

分一。兩將强申請之間。遂可レ被レ渡之由治定云云。勅使右衛門權佐定長。數度往反云云。〇十三日。壬申。平氏首聚二于源九郎主六條室町亭一。所謂通盛卿。忠度。經正。敎經。敦盛。知章。經俊。業盛。盛俊等首也。然後。皆持三向八條河原一。大夫判官仲賴已下。請三取之一。各付二于長鎗刀一。又付二赤簡一。(平某之由。各注三付之一。)向二獄門一懸レ樹。觀者成レ市云云。〇十四日。癸酉。晴。右衛門權佐定長。奉二勅定一。爲三推二問本三位中將重衡卿一。向二故中御門中納言(家成卿)八條堀川堂一。土肥次郎實平。同三車彼卿一。來三會件堂一。於二弘庇一問レ之。口狀條條注三進之一云云。今日。上總國御家人等。多以二私領本宅一。如レ元可レ令二領掌一之旨。給二武衛御下文一。彼輩去年依レ爲二廣常同科一。所レ被レ收三公所帶一也。〇十五日。甲戌。辰刻。蒲冠者範賴。源九郎義經等飛脚。自二攝津國一。參三著鎌倉一。獻二合戰記錄一。其趣。去七日於二一谷一合戰。平家多以殞レ命。前內府(〇宗盛)已下。浮二海上一赴二四國方一。本三位中將。生三虜之一。又通盛卿。忠度朝臣。經俊。(已上三人。蒲冠者。討三取之一)經正。師盛。敎經。(已上三人。遠江守義定討三取之一)敦盛。知章。業盛。盛俊。(已上四人。義經討三取之一)此外梟首者一千餘人。凡武藏相摸下野等軍士。各所レ竭二大功一也。追可二注記言上一云云。〇十六日。乙亥。今日。又定長。推三問重衡卿一。事次第同二一昨日一云云。〇十八日。丁丑。武衛被レ發二御使於京都一。是洛陽警

固以下事。所レ被レ仰也。又播磨。美作。備前。備中。備後。已上五箇國。景時。實平等。遣二專使一。可レ令二守護一之由云云。○廿日。己卯。去十五日。本三位中將(○遣カ)二前左衛門尉於四國一。告二 勅定旨於前內府一。是舊主竝三種寶物可レ奉レ歸二洛一之趣也。件返狀〔今日到來畢。京都備叡覽云云。其狀云。

去十五日御札〕今日(二十一日)到來委承候畢。藏人右佐書狀。同見給候畢。 主上國母可レ有二還御一之由。又以承候畢。去年七月。行二幸西海一之時。自二途中一可二還御一之由。 院宣到來。備中國下津井。御解纜畢之上。〔依〕二洛中不一レ穩。不レ能二不日立歸一。愁被レ遂二前途一候畢。其後云二日次之世務世理一。云二恒例之神事佛事一。皆以擲怠。其恐不レ少。其後。頗洛中令レ屬二靜謐一之由。依レ有二風聞一。去年十月。出二御鎭西一。漸還御之間。閏十月一日稱レ帶二 院宣一。源義仲於二備中國水島一。相二率千艘之軍兵一。奉レ禦二萬乘之還御一。然而爲二官兵一。皆令レ誅二伐凶賊等一畢。其後著二御于讚岐國屋島一。于レ今御經迴。去月廿六日。又解纜遷二幸攝州一。奏二聞事由一。隨二 院宣一。行二幸近境一。且去四日。相二當亡入道相國之遠忌一。爲レ修二佛事一。不レ能二下船一。經二迴輪田海邊一之間。去六日修理權大夫(○親信カ)送二書狀一云。依レ可レ有二和平之儀一。來八日出京。爲二御使一可二下向一。奉二勅答一。不二歸參一之以前。不レ可レ有二狼藉一之由。被レ仰二關東武士等一畢。又以二此旨一早可レ令レ仰二含官軍等一者。相二守此

仰二官軍等一。本自無二合戰志一之上。不レ及下存知二相待院使下向一之處上。同七日關東武士等襲二來于叡船之汀一。依二 院宣有一レ限。官軍等。不レ能二進出一。各雖二引退一。彼武士等。乘レ勝襲懸。忽以合戰。多令レ誅二戮上下官軍一畢。此條。何様候事哉。子細尤不審。若相二待 院宣一。可レ有二左右一之由。不レ被レ仰二彼武士等一歟。將又雖レ被レ下二 院宣一。武士不二承引一歟。若爲レ緩二官軍之心一。忽以被レ廻二奇謀一歟。倩思二次第一。迷惑恐歎。未レ散二蒙霧一候也。爲二自今以後一。爲二向後將來一。尤可レ承二存子細一候也。唯可下令レ垂二賢察一御上。如レ此之間。還御亦以延引。每レ赴二還路一。武士等。奉レ禦レ之。此條無レ術事候也。非レ難二遊還御之儀一。差二遣武士於西海一。依レ被レ禦。于レ今遲引。全非二公家之懈怠一候也。和平事。爲二朝家至要一。爲二公私大功一。此條須レ被二達奏一之處。遮被二仰下一之條。兩方公平。天下之攘災候也。然而于レ今斷未レ蒙二分明之院宣一。仍相二待慥御定一候也。凡夙二夜于 仙洞一之後。云二官途一。云二世路一。我君之御恩。以二何事一可レ奉二報謝一耶。雖二涓塵一。不レ存二疎略一。況不忠之疑哉。况反逆之儀哉。行二幸西國一事。全非レ驚二賊徒之入洛一。只依レ恐二 法皇御登山一也。朝家事可レ爲二誰君御進止一哉。主上女院御事。又非二 法皇御扶持一者。可レ奉レ仰二誰君一哉。雖二事旨奇異一。依レ恐二御登山〔一〕事一。周章楚忽。還二幸西國一矣。其後又稱二 院宣一。源氏等下二向西海一。度度企二合戰一。此條已依二賊〔徒〕之襲來一。爲レ存二

上下之身命一。一旦相禦候計也。全非二公家之發心一。敢無二其隱一也。云二平家一。云二源氏一。無二相互之意趣一。平治。信頼卿反逆之時。依二　院宣一。追討之間。義朝朝臣依レ爲二其縁坐一。有二自然事一。是非二私宿意一。不レ及二沙汰一事也。於二　宣旨院宣一者非二此限一。不レ然之外。凡無二相互之宿意一。然者頼朝與二平氏一。合戰之條。一切不二思寄一事也。公家仙洞。和親之儀候者。平氏源氏。又彌可レ有二何意趣一哉。只可下令レ垂二賢察一給上也。此五六年以來。洛中城外。各不二安穩一。五畿七道。皆以滅亡。偏營二弓箭甲冑事一。彌拋二農作乃貢之勤一。因レ茲。都鄙損亡。上下飢饉。一天四海。眼前湮（〇湮カ）滅。無雙之愁悶。無二［之］悲歎候也。和平儀可レ候者。天下安穩。國土靜謐。諸人快樂。上下歡娛。就レ中合戰之間。兩方相互殞レ命之者。不レ知二幾千萬一。被レ疵之輩難レ記二楚筆一。罪業之至。無レ物于取レ喩。尤可下被レ行二善政一。被上レ施二攘災一。此條。定相二叶神慮佛意一歟。還御事。每度若二猾武士一。被レ禦二行路一之間。不レ被レ遂二前途一。已及二兩年一候畢。於レ今者。早停二合戰之儀一。可レ守二攘災之誠一候也。云二和平一。云二還御一。兩條早蒙二分明之　院宣一。可二存知一候也。以二此等之趣一。可レ然之樣。可下令二披露一給上。仍以執啓如レ件。

二月廿三日

〇廿一日。庚辰。有二尾藤太知宣者一。此間。屬二義仲朝臣一。而內內任〔伺〕二御氣色一。參二向關東一。武衞今日直令レ問二子細一給。信濃國中野御牧。紀伊國田中池田兩庄。令二知行一之旨申レ之。以二何由緖一。令二傳領一哉之由被二尋下一。自二先祖秀鄕朝臣之時一。次第承繼處。平治亂逆之刻。於二左典廐御方一。牢籠之後得替。就レ愁二申之一。田中庄者。去年八月。木曾殿賜二御下文一之由申レ之。召二出彼下文一覽レ之。仍知行不レ可レ有二相違一之旨。被レ仰云云。〇廿二日。壬午。前右馬助季高。散位宗輔等。依レ同二意于義仲朝臣一。被レ召二禁之一。被レ下二使廳一云云。〇廿五日。甲申。朝務事。武衞注二御所存一。條條。被レ遣二泰經朝臣之許一云云。其詞云。

言上

條條

一　朝務等事

右守二先規一。殊可レ被レ施二德政一候。但諸國受領等。尤可レ有二計御沙汰一候歟。東國北國兩道國國。追二討謀叛一之間。如レ無二土民一。自二今春一。浪人等。歸二往舊里一。可レ令二安堵一候。然者來秋之比。被レ任二國司一。被レ行二吏務一。可レ宜候。

一　平家追討事

右畿内近國。號二源氏平氏一。携二弓箭一之輩。並住人等。任二義經之下知一。可二引率一之由。可レ被二仰下一候。海路雖レ不レ輙。殊可二急追討一之由。所レ仰二義經一也。於二勳功賞一者。其後賴朝可二計申上一候。

一　諸社事

我朝者。神國也。往古神領。無二相違一。其外。今度始又各被二新加一歟。就レ中。去比鹿嶋大明神御上洛之由。風聞出來之後。賊徒追討。神戮不レ空者歟。兼又。若有二諸社破壞顚倒事一者。隨二功程一。可レ被二召付一處。功作之後。可レ被二御裁許一候。恒例神事。守二式目一。無二懈怠一。可レ令二勤行一由。殊可レ有二尋御沙汰一候。

一　佛寺間事

諸寺諸山御領。如二舊例一之勤一。不レ可二退轉一。如二近年一者。僧家皆好二武勇一。忘二佛法一之間。行德不レ聞。無二用福一候。尤可レ被二禁制一候。兼又。於二濫行不信僧一者。不レ可レ被レ用二公請一候。於二自今以後一者。爲二賴朝之沙汰一。至二僧家武具一者。任レ法奪取。可レ與下給於追討朝敵一官兵上之由。所二存思給一也。

以前條條事。言上如レ件。

壽永三年二月日　　源賴朝

○廿七日。丙戌。近江國住人佐佐木三郎成綱參上。子息俊綱。一谷合戰之時。討ニ取越前三位一(通盛)訖。可ㇾ預ニ賞ヲ之由申ㇾ之。於ニ勳功一者。尤所ㇾ感也。但日來屬ニ平氏一。殊奉ㇾ蔑ニ如源家一之處。平氏零ニ落都一之後。始參上。頗非ニ眞實志一之由。被ㇾ仰云云。○三十日。己丑。信濃國東條庄內狩田鄕領主職。遣ニ賜式部大夫繁雅一訖。此所。被ニ沒收一之處。爲ニ繁雅本領一之由。愁申故云云。

三月小

一日。庚寅。武衞被ㇾ遣ニ御下文於鎭西九國住人等之中一。可ㇾ追ニ討平家一之趣也。凡雖ㇾ被ㇾ召ニ聚諸國軍兵(士)一。彼國國依ㇾ令ㇾ與ニ同平氏一。未ㇾ奉ニ歸往(伏)一之故也。件御下文云。

下　鎭西九國住人等

　可ㇾ早爲ニ鎌倉殿御家人一。且如ㇾ本安堵。且各引率。追ニ討平家賊徒一事。

右彼國之輩。皆悉引率。可ㇾ追ニ討朝敵一之由。奉ニ　院宣一所ㇾ仰〔下〕也。抑平家謀叛之間。去年追討使。東海道者遠江守義定朝臣。北陸道者左馬頭仲義朝臣。爲ニ鎌倉殿御代官一。兩人上洛之處也。兼又。義仲朝臣爲ニ

平家和議一。謀反之條。不實之次第也。仍　院宣之上。加二私濫黨一。令レ追二討彼義仲一畢。然而平家令レ經二廻西國之邊一。動出二浮近國之津泊一。奪二取人民之物一。狼唳不レ絕者也。於レ今者。云二陸地一。云二海上一。遣二官兵一。不日可レ令二追討一也者。鎭西九國住人等。且如レ本安堵。且皆引二率彼國官兵等一。承知。不日全二勳功之賞一矣。以下。

壽永三年三月一日

前右兵衛佐源朝臣

次四國之輩者。大略以隨レ令レ與二力平家一。土佐國者。爲レ宗者奉レ通二其志於關東一之間。爲二北條殿奉一。同遣二御書一。其詞云。

下　土佐國大名國信。國元。助光入道等所

可三早源家有レ志輩同心合力追二討平家一事。

右當國大名。並御方有レ志之武士。且企レ參。「上」且同心合力。可レ追二討平家一之旨。被二　宣下一之上。依二鎌倉殿仰一。所レ令二下知一也。就レ中。當時上洛御家人信恒。可レ令二下向一。如レ舊令二安堵一。不レ可レ有二狼藉一。大

名武士。同心合力。不レ可レ見二放之一狀知レ件。宜二承知一。敢勿二違失一。以下。

壽永三年三月一日　　平

○二日。辛卯。三位中將重衡卿。自二土肥次郎實平之許一。渡二源九郎主亭一。實平依レ可レ赴二西海一也。○五日。甲午。去月。於二攝津國一谷一。被レ征二罰平家一之日。武藏國住人藤田三郎行康。先登令二討死一訖。仍募二其勳功賞一。於二彼遺跡一。子息能國。可二傳領一之旨。今日被二仰下一。御下文云。件行康。平家合戰之時。最前進出。被レ討二取其身一訖。仍彼跡所知所領等。無二相違一。男小三郎能國。可レ令二相傳知行一之由云云。○六日。乙未。蒲冠者蒙二御氣色一事免許。日來。頗依レ愁二申之一也。○九日。戊戌。去月十八日。宣旨狀。到二著鎌倉一。是近日。武士等寄二事於朝敵追討一。於二諸國庄園一。打二止乃貢一。奪二取人物一。而彼輩募二關東威一歟。無二左右一。難レ處二罪科一之由。公家內內。有二其沙汰一云云。武衛依下令レ傳二聞之一給上。下官全不レ案下煩二庶民一之計上。其事早可レ被二糺行一之由。被レ申二請之一云云。

壽永三年二月十八日　　宣旨

近年以降。武士輩不レ憚二皇憲一。恣耀二私威一。成二自由下知一。廻二諸國七道一。或押二領神社之神稅一。或奪二取佛

寺之佛聖一。況院宮諸司。及人領哉。天譴遂露。民憂無レ空。自今以後。永被ニ停止一。敢莫ニ更然一。前事之存。後輩可レ愼。若於レ有ニ由緒一。散位源朝臣頼朝。相ニ訪子細一。觸レ官言上。不道行旨。猶令ニ違犯一者。專處ニ罪科一。不ニ曾寛宥一。

藏人頭左中辨兼皇后宮亮藤原（〇朝臣脱カ）光雅奉。

〇十日。己亥。晴。三位中將重衡卿。今日出レ京赴ニ關東一。梶原平三景時。相ニ具之一。是武衞依レ令ニ申請一給上也。今日被レ召ニ因幡國住人長田兵衞尉實經一。（後日改ニ廣經一）賜ニ一品（〇誤カ）御書一云。右人同ニ心平家一之間。雖レ可ニ罪科一。父資經（高庭介也）以ニ藤七資家一。伊豆國迄送事。至ニ子子孫孫一。更難レ忘。仍本知行所。不レ可レ有ニ相違一者。去永曆御旅行之時。累代芳契之輩。或夭亡。或以變之上。爲ニ左遷之身一。敢無レ從レ之人一。而實（〇資カ）經。奉レ副ニ親族資家一事。不レ思ニ食忘一之故也。〇十三日。壬寅。尾張國住人原大夫高春。依レ召參上。是故上總介廣常外甥也。又爲ニ薩摩守忠度外舅一。雖レ爲ニ平氏恩顧一。就ニ廣常之好一。背ニ平相國一。去治承四年。馳ニ參關東一以來。偏存レ忠之處。去年廣常誅戮之後。成ニ恐怖一。半ニ面邊土一。而今廣常無レ罪而賜レ死。潜有ニ御後悔一之間。彼親戚等多以免許。就レ中高春依レ有ニ其功一。本知行所〔領〕。如レ元令レ領ニ掌之一。可レ抽ニ奉公一之旨。被ニ仰含一云云。〇十四日。癸卯。遠江國都田御厨。如レ元從ニ神宮使一。可レ致ニ沙汰一之由。被ニ定下一

云々。○十七日。丙午。板垣三郎兼信飛脚去夜到來鎌倉。今日。判官代邦通披露。彼使者口狀。其趣雖貴命。爲追討平家。赴西海。(去八日出京云々。〔也〕)也。而適列御門葉。奉一方追討使。可爲本懷之處。實平乍相具此手。稱蒙各別仰。於事不加所談。剩云西海雜務。云軍士手分。不交兼信口入。獨可相計之由。頻結構。始終爲如此者。頗可失勇心。居住西國之間。諸事兼信可爲上司之旨。賜御一行。〔欲〕當于眉目云々。此事曾無許容。不可依門葉。不可依家人。凡實平貞心者。雖混傍輩之上。守眼代器。示付西國巨細訖。如兼信者。只向戰場。可棄命一段也。其猶以不可定。今申狀。可謂過分者。使者空走歸云々。○十八日。丁未。武衛進發伊豆國給。是爲覽野出鹿也。下河邊庄司行平。同四郎政義。仁田四郎忠常。愛甲三郎季隆。戶崎右馬允國延等。可爲御前之射手之由。被定云々。○廿日。己酉。去夜著御北條。今日。大內冠者惟義可爲伊賀國守護之由。被仰付之云々。○廿二日。辛亥。大井兵衛次郎實春預向伊勢國。是平家家人爲宗者。潛籠當國之旨。依有其聞。行向可征之由。令下知給之故也。○廿五日。甲寅。土肥次郎實平。爲御使。於備中國行務。仍在廳散位藤原資親已下數輩。還補本職。是爲平家失度者也。○廿七日。丙辰。三品羽林著伊豆國府境

詔。武衞令坐北條給之間。景時以專使伺子細。早相具可參當所之由被仰。仍伴參。但明旦可遂面謁之由。被仰羽林云云。○廿八日。丁巳。被請本三位中將（藍摺直垂。引立烏帽子）於廊。令謁給。仰云。且爲奉慰君御憤。且爲雪父尸骸之恥。試企石橋合戰以降。令對治平氏之逆亂。如指掌。仍及面拜。不屑眉目也。此上者。謁槐門之事。亦無疑歟者。羽林答申曰。源平爲天下警衞之處。頃年之間。當家獨爲朝廷之計。昇進者八十許輩。思其繁榮者二十餘年也。而今運命之依縮。爲囚人參入上者。不能左右。携弓馬之者。爲敵被虜。強非恥辱。早可被處斬罪云云。無纖介之憚。奉問答。聞者莫不感。其後被召預狩野介云云。今日就武家輩事。於自仙洞被仰下事者。不論是非。可成敗。至武家帶道理事者。追可奏聞之旨。被定云云。

四月小

一日。己巳。自北條。御歸著鎌倉。藤九郎盛長獻盃酒。入夜於北面屋有此儀。召行平。政義。忠常。季隆。國延等於御前。給鹿皮（各一枚）去比於伊豆國。所射取之鹿歟。○三日。辛未。尾張國住人大屋中三安資。依有其功。如元管領所帶。剩可鎮國中狼唳之由。給御下文。筑前三郎。奉行之。當國者。

悉以順二平氏一之處。安耆爲二和田小太郎義盛之聟一。獨候二源家一之間。如レ此云云。○四日。壬申。御亭庭櫻開敷艶色［其濃］也。仍［被招請申］中大宮亮能保朝臣。被レ招二請申一也。相共終日令レ翫二此花一給。前少將時家。接二其座一。又有二管絃詠歌之儀一。○六日。甲戌。池前大納言（○賴盛）並室家之領等者。載二平氏沒官領注文一自二公家一被レ下云云。而爲レ酬二故池禪尼恩德一。申二宥彼亞相勅勘一給之上。以二件家領三十四箇所一。如レ元可レ爲二彼家管領一之旨。昨日有二其沙汰一。令レ辭レ之給。此內。於二信濃國諏方社一者。被レ相二博伊賀國六箇山一云云。

走井庄（河內）　長田庄（伊賀）　野俣道庄（伊勢）
木造庄（同）　石田庄（播磨）　建田庄（同）
由良庄（淡路）　弓削庄（美作）　佐伯庄（備前）
山口庄（但馬）　矢野領（伊豫）　小嶋庄（阿波）
大岡庄（駿河）　香椎社（筑前）　安富領（筑前）
三原庄（筑後）　球磨臼間野庄（肥後）

右庄園拾七箇所。載二沒官注文一。自二於院一所二給預一也。然而如レ元爲二彼家沙汰一。爲レ有二知行一。勤狀如レ件。

壽永三年四月五日

池大納言家沙汰。

布施庄（播磨）　〔龍門庄（近江）　安摩庄（安藝）

稻木庄（尾張）

已上有由緒云云

乃邊長原庄（大和）〕　兵庫三箇庄（攝津）　石作庄（播磨）

六人部庄（丹波）　熊坂庄（加賀）　宗像社（筑前）

三箇庄（筑前）　眞清田庄（尾張）　服織庄（駿河）

國富庄（日向）

已上八條院御領。

麻生大和田領（河内）　諏訪社　（信濃。被ㇾ相㆓傳伊賀六箇山㆒了。）

已上女房御領。

右庄園給預所。注文如レ此。任二本所之沙汰一。彼家如レ元爲レ有二知行一。載レ狀如レ件。

壽永三年四月六日

八日。丙子。本三位中將。自二伊豆國一。來二著鎌倉一。仍武衞點二郭內屋一宇一。被レ招二入之一。狩野介一族郎從等。每夜十人。令二結番一。守二護之一。○十日。戊寅。源九郎使者。自二京都一參著。去月廿七日有二除目一。武衞敍二正四位下一給之由申レ之。是義仲追討賞也。持二參彼聞書一。此事。藤原秀鄕朝臣。天慶三年三月九日自二六位一昇二從下四位一也。武衞御本位者。從下五位也。被レ准二彼例一。〔云云〕亦依二忠文（宇治民部卿）之例一。可レ有二征夷將軍　宣下一歟之由。有二其沙汰一。而越階事者。彼時准據可レ然。於二〔將前〕軍事一者。賜二節刀一。被レ任二軍監軍曹一之時。被レ行二除目一歟。被レ載二今度除目一之條。似二始置二其官一。無二左右一。難レ被二　宣下一之由。依レ有二諸卿群議一。先敍位云云。○十一日。己卯。快霽。新典厩。（能保。去月廿七日任）被レ參二鶴岡八幡宮一。是被レ申レ慶之由也。次被レ參二謁御亭一。○十四日。壬午。源民部大夫光行。中宮大夫屬入道善信（俗名康信）等。自二京都一參著。光行者。豐前前司光季屬二平家一之間。爲レ申二宥之一也。善信者。本自其志在二關東一。仍連連有二恩喚一之故也。○十五日。癸未。武衞參二鶴岡一給。被レ奉二御供一之後。於二廻廊一。對二面屬入道善信一給。令レ參

住當所可轉作武家政務之由。及嚴密御約諾云云。予時光行推參彼所之間。被止言談云云。善信
者甚穩便者也。同道之仁。頗有無法氣之由。內內被仰云云。○十六日。甲申。改元。改壽永三年爲
元曆元年。○十八日。丙戌。依殊御願。仰下下總權守爲久。被奉圖繪正觀音像。爲久。著束帶役之。
絜齊（齋）已滿百日。今日奉始之。云云。武衛又御精進。讀誦觀音品給云云。○廿日。戊子。雨降。終日不
休止。本三位中將。依武衛御免。有沐浴之儀。其後及秉燭之期。稱爲慰徒然。被遣藤判官代邦通。
工藤一臈祐經。再（井）官女一人（號千手前）等於羽林之方。剩被副送竹葉上林已下。羽林殊喜悅。遊興移
尅。祐經打鼓。歌今樣。女房彈琵琶。羽林和橫笛。先吹五常樂。爲下官。以〔之節〕可爲後生樂（曲）由稱
之。次吹皇麞急。謂往生急。凡於事莫不催興。及夜半。女房欲歸。羽林暫抑留之。（與前）而盃及朗詠。
燭暗數行虞氏淚。夜深四面楚歌聲云云。其後各歸參御前。武衛令問酒宴次第給。邦通申云。羽林。云
言語。云藝能。尤以幽美也。以五常樂。謂後生樂。以皇麞急。號往生急。是皆有由歟。樂名之中。廻
忽者。元〔書〕廻骨。大國葬禮之時。調此樂云云。吾爲囚人〔待〕被誅條。存在旦暮由之故歟。又女
房欲歸之程。猶詠四面楚歌句。彼項羽過奧（吳）之事。折節思出歟之由申之。武衛殊令感嘆之體給。依憚

世上之聞。吾不臨其座。爲恨之由。被仰云云。武衞又令持宿衣一領於千手前。更被送遣。其上。以
祐經。邊鄙士女還可有其興歟。御在國之程。可被召置之由。被仰云云。祐經頻憐羽林。是往年候
小松内府之時。常見此羽林之間。于今。不忘舊好歟。○廿一日。己丑。去夜。殿中聊物忩。是志
水冠者。雖爲武衞御聟。亡父已蒙勅勘。被戮之間。爲其子。其意趣尤依難度。可被誅之由。内
内思食立。被仰含此趣於昵近壯士等。女房等伺聞此事。密密告申姬公御方。仍志水冠者廻計略。今曉遁
去給。此間。假女房之姿。姬君御方女房。圍之出〔郭内畢。(隱前)置馬於他所令乘之。(爲前)不令人聞。
以綿裹蹄云云〕而海野小太郎幸氏者。與志水同年也。日夜在座右。片時無立去。仍今相替之。入彼帳
臺。臥宿衣之下。出髻云云。日闌〔之〕後。出于志水之常居所。不改日來形勢。獨打雙六。志水。好
雙六之勝負。朝暮翫之。幸氏必爲其合手。然間。至于殿中男女。只成于今令坐給思之處。及晚縡露
顯。武衞太忿怒給。則被召禁幸氏。又分遣堀藤次親家已下軍兵於方方道路。被仰可討止之由。〔云云
前〕姬公周章。〔令前〕銷魂給。○廿二日。庚寅。民部大夫光行。又豐前前司。與平家之惡事。可蒙
免許之由。被遣御書於源九郎主云云。○廿三日。辛卯。下河邊四郎政義者。臨戰場。竭軍忠。於殿

中。積勞功。仍御氣色殊快然。就中。三郎先生義廣謀叛之時。常陸國住人等。小栗十郎重成之外。或與彼逆心。或逐電奥州。政義自最初依令候御前。以當國南郡。宛賜政義之處。此一兩年。國役連續之間。於事不諧之由。屬筑後權守俊兼愁申之。仍可隨芳志之由。被遣慇懃御書於常陸目代。

（〇吉本ニヨリ別行トス）

常陸國務之間事。三郎先生謀叛之時。當國住人。除小栗十郎重成之外。併被勸誘彼反逆。奉射御方。或迯〔逃〕入奥州。如此之間。以當國南郡。宛給下河邊四郎政義畢。此一兩年上洛。度度合戰。竭忠節畢。而南郡國役責勘之間。云地頭得分。云代官經廻。於事不合期之由。所歎申也 彼政義者。殊絲〔イト〕惜思食者也。有限所當官物。恒例課役之外。可令施芳意給候。於當官物。無懈怠。可令勤仕之旨。被仰含候畢。定令致其沙汰候歟。地頭職所當官物。無對捍儀者。雖何輩。何〔共〕其煩候哉。以此旨。可令申〔觸之〕旨。鎌倉殿所仰候也。仍執達如件。

四月廿二〔三〕日　　俊兼奉

〔謹上前〕常陸御目代殿

廿四日。壬辰。賀茂社領。四十一箇所。任院廳御下文。可止武家狼藉之由。有其沙汰。〇廿六日。

甲午。堀藤次親家郎從藤内光澄〔覺〕歸參。於二入間河原一誅二志水冠者一之由。申レ之。此事雖レ爲二密儀一。姫公已令レ漏二聞之一給。愁歎之餘。令レ斷二漿水一給。可レ謂二理運一。御臺所又依レ察二彼御心中一。御哀傷殊太。然間。殿中男女多以含二歎色一云云。○廿八日。丙申。平氏在二西國一之由風聞。仍被レ遣二軍兵一。爲二征罰無事御祈禱一。以二淡路國廣田庄一。被レ寄二附廣田社一。其御下文。付二前齋院次官親能上洛一。便宜可レ被レ遣二神祇伯仲資主〔王イ〕一云云。

寄進　廣田社神領事

在二淡路國廣田領一一所。

右。爲レ增二神威一。殊存レ致二祈禱一。寄進如レ件。

壽永三年四月廿八日　　正四位下源朝臣

○廿九日。丁酉。前齋院次官親能。爲二使節一上洛。平家追討間事。向二西海一可レ奉二行之一云云。土肥次郎實平。梶原平三景時等。同首途。調二調兵船一。來六月屬二海上和氣期一。可レ遂二合戰一之由。被二仰含一云云。

五月大

一日。戊子。故志水冠者義高伴類等。令レ隱二居甲斐信濃等國一。擬レ起二叛逆一之由。風聞之間。遣二軍兵一。可レ

被加征罰之由。有其沙汰。足利冠者義兼。小笠原次郎長清。相伴御家人等。可發向甲斐國。又小山。宇都宮。比企。河越。豐島。足立。吾妻。小林之輩。令下向信濃國。可捜求彼凶徒之由。被定云云。此外。相摸。伊豆。駿河。安房。上總御家人等。同相催之。今月十日。可進發之旨。被仰義盛。能員等云云。○二日。己丑。依志水冠者誅戮事。諸國御家人馳參。凡成群云云。○三日。庚寅。武衞被奉寄附雨村於二所大神宮。去永曆元年三月御出京之刻。感靈夢之後。當宮事。御信仰異他社。然者。平家黨類等。在伊勢國之由。依令風聞遣軍士之時者。縱雖爲凶賊之在所。不相觸事之由於祠官。無左右。不可亂入神明御鎭坐砌之旨。度度所被仰含也。謂件兩所者。內宮御分。武藏國飯倉御厨。被御付當宮一禰宜荒木田成長神主。外宮御分。安房國東條御厨。被付會賀次郎大夫生倫訖。爲二品房奉行。遣兩通御寄進狀。彼東條御厨事。先日雖被付御寄進狀。去年十一月。禰宜等捧請文云云。狀跡不相應云云。不甘心歟。此上可爲何樣哉由。御猶豫之處。御心中祈願納得。偏蒙（尊）神御冥助之旨。爾以催御信心。而折節。生倫參候之間。載御願旨趣賜御書（此寄進狀外也。）於生倫。生倫正衣冠。參御所給之。御寄進狀云。

寄進　伊勢皇太神宮。御厨壹處。

在武藏國飯倉。

右志者。奉爲　朝家安穩。爲成就私願。殊抽忠丹。寄進狀如件。

壽永三年五月三日　正四位下前右兵衛佐源朝臣

寄進　伊勢太神宮。御厨一處。

在安房國東條。

四至如舊。

右志者。奉爲　朝家安穩。爲成就私願。殊抽忠丹。寄進狀如件。

壽永三年五月三日　正四位下前右兵衛佐源朝臣

十二日。己亥。雷雨。雜色時澤。爲使節上洛。是園城寺長吏僧正房覺痢病危急之由。依有其聞。被訪申之故也。武衛日來御祈禱等事被仰付云云。○十五日。壬寅。申尅。伊勢國馳驛参著。申云。去四日波多野三郎。大井兵衛次郎實春。山内瀧口三郎。幷大内右衛門尉惟義家人等。於當國羽取山。與志太三郎先

生義廣合戰。殆及終日。爭雌雄。然而遂獲義廣之首云云。此義廣者。年來含叛逆之志。去去年率軍勢。擬參鎌倉之刻。小山四郎朝政。依相禦之。不成而逐電。令屬義仲訖。義仲滅亡之後。又逃亡。曾不辨其存亡之間。武衛御憤。未休之處。有此告。殊所令喜給也。○十九日。丙午。武衛相伴池亞相（○賴盛）（此程在鎌倉）右典厩（○能保）等。逍遙海濱給。自由比浦。御乘船。令著杜戸岸給。御家人等。面面餝舟船。海路之間。各取棹爭前途。其儀殊有興也。於杜戸松樹下。有小笠懸。是士風也。非此儀者。不可有他見物之由。武衛被仰之。客等太入興云云。○廿一日。戊申。武衛被遣御書於泰經朝臣。是池前大納言。同息男。可被還任本官事。並御一族源氏之中。範賴。廣綱。義信等。可被聽一州國司事。內內可被計奏聞之趣也。大夫屬入道書此御書。付雜色鶴太郎云云。○廿四日。辛亥。左衞門尉藤〔原前〕朝綱。拜領伊賀國壬生野鄕地頭職。是日來。雖仕平家。氏前懇志在關東之間。潜遁出都參上。募其功。宇都宮社務職。無相違之上。重被加新恩云云。

六月小

一日。戊午。武衛招請池前亞相給。是近日可有歸洛之間。爲餞別也。右典厩並前少將時家等。在御

前。先三獻。其後數巡。又相互被談世上雜事等。小山小四郎朝政。三浦介義澄。結城七郎朝光。下河邊庄司行平。畠山次郎重忠。橘右馬允公長。足立右馬允遠元。八田四郎知家。後藤新兵衛尉基清等。應召候御前實子。是皆爲京都之輩也。次有御引出物。先金作劔一腰。時家朝臣傳之。次砂金一嚢。安藝介役之。次被引鞍馬十疋。其後召客之扈從者。又賜引出物。武衛先召彌平左衛門尉宗清。(左衛門尉季宗男)平家一族也。是亞相下著最初。被尋申之處。依病遲留之由。被答申之間。定今者。令下向歟之由。令思案給之故歟。而未參著之旨。亞相被申之。太違亭主御本意云云。此宗清者。池禪尼侍也。平治有事之刻。奉懸志於武衛。仍爲報謝其事。相具可下向給之由。被仰送之間。亞相城外之日。示此趣於宗清處。宗清云。令向戰場給者。進可候先陣。而倩案關東之招引。爲被謝當初奉公歟。平家零落之今。參向之條。尤稱恥存之由。直參屋嶋前内府云云。○四日。辛酉。石河兵衛判官代義資。參著關東。可致朝夕官仕之由申之。是去養和元年。爲平家所被生虜之河内源氏隨一也。近年者。又爲義仲被虜。太失度云云。而依武衛被執申之免勅勘。去三月二日。右兵衛尉如元之由。被宣下云云。○五日。壬戌。池前大納言被歸洛。武衛令辭庄園於亞相給上。逗留之間。連日竹葉。勸宴醉。鹽梅調

鼎味。所被獻之。又金銀悉數。錦繍重色者也。○十六日。癸酉。一條次郎忠頼振威勢之餘。挿濫世志之由有其聞。武衛又令察之給。仍今日於營中。所被誅也。及晩景。武衛出于西侍給。忠頼依召參入候畢。對座。宿老御家人數輩列座。有獻盃之儀。工藤一臈祐經。取銚子。進御前。是兼被定于其討手訖。而對殊武將。忽決雌雄之條。爲重事之間。聊令思案歟。顔色頗令變。小山田別當有重。見彼形勢起座。如此御杓者。稱可爲老者之役。取祐經所持之銚子。爰子息稻毛三郎重成。同弟榛谷四郎重朝等。持盃肴物。進寄于忠頼之前。有重訓兩息云。倍膳之故實者上括也者。聞所持物。結括之時。天野藤内遠景承別仰。取太刀進於忠頼之左方。早誅戮畢。此時武衛開御後之障子。令入給云云。其後忠頼共侍新平太。并同甥武藤與一。及山村小太郎等。自地下見主人伏死。面面取太刀。奔昇于侍之上。綷起於楚忽。伺候之輩騷動。多爲件三人被疵云云。既參于寢殿近近。重成。重朝。結城七郎朝光等。相戰之。討取新平太。與一畢。山村者擬戰遠景。遠景相隔一箇間。取魚板打之。山村顛倒于縁下之間。遠景郎從。獲其首云云。○十七日。甲戌。召鮫島四郎於御前。令切右手指給。是昨夕騷動之間。有御方討罪科之故也。○十八日。乙亥。故一條次郎忠頼家人甲斐小四郎秋家。被召出。是堪

歌舞曲二之者也。仍武衛施二芳情一。可レ致二官仕一之由。被二仰出一云云。○廿日。丁丑。去五日被レ行二小除目一。其除書今日到來。武衛令レ申給任人事無二相違一。所謂權大納言〔平〕賴盛。侍從同光盛。河内守同保業。讃岐守藤能保。參河守源範賴。駿河守同廣綱。武藏守同義信云云。○廿一日。戊寅。武衛召二聚範賴。義信。廣綱等一。有二勸盃一。次被レ觸二仰除目事一。各令二喜悅一歟。就レ中。源九郎主頻雖レ望二官途吹擧一。武衛敢不レ被二許容一。先被レ擧二申蒲冠者一之間。殊悅二其厚恩一云云。○廿三日。庚辰。片切太郎爲安。自二信濃國一。被レ召二出之一。殊令二備愍一給。是父小八郎大夫者。平治逆亂之時。爲二故左典廐御共一之間。片切鄕者。爲二平氏一被二收公一。已廿餘年空レ手。仍今日如レ元可二領掌一之由。被レ仰云云。○廿七日。甲申。堀藤次親家郎從被二梟首一。是依二御臺所御憤一也。〔去〕四月之比。爲二御使一。討二志水冠者一之故也。其事已後。姬公御哀傷之餘。已沈二病床一給。追レ日憔悴。諸人莫レ不二驚騒一。依二志水誅戮事一。有二此御病一。偏起二於彼男之不儀一。縱雖レ奉レ仰。内内不レ啓二子細一於姬公御方一哉之由。御臺所强憤申給之間。武衛不レ能二遁逃一。〔イ〕啓逃　還以被レ處二斬罪一云云。

七月大

二日。戊子。成就院僧正房使者。去夜戌尅參著。是寂樂寺僧徒。令レ亂二入高野山領紀伊國阿弖河庄一。致二非

法狼藉之由。依訴申也。則進覽當山結界繪圖。並大師御手印案文等。筑後權守俊兼於御前。讀申之。凡吾朝弘法者。偏爲大師聖跡之由。武衞有御信仰之間。不日被經沙汰。可止狼藉之旨。被下御書。其狀云。

下 紀伊國阿弖河庄

可早停止旁狼藉。如舊爲高野金剛峯寺領事。

右件庄者。大師御手印官府內庄也。而今自寂樂寺。致濫妨云云。事實者。不穩便事歟。御手印內。誰可成異論哉。早停止彼妨。如舊可爲金剛峯寺領之狀如件。

元曆元年七月二日

三日。己丑。武衞爲追討前內府已下平氏等。以源九郎主。可遣西海事。被申仙洞云云。○五日。辛卯。大內冠者惟義飛脚參著。申云。去七日於伊賀國。爲平家一族等。被襲之間。所〔相〕恃之家人。多以被誅戮云云。因玆。諸人馳參。鎌倉中騷動云云。○十日。丙申。今日。井上太郎光盛。於駿河國蒲原驛被誅。是依有同意于忠賴之聞也。光盛日來在京之間。吾香船越之輩。含兼日嚴命。相待下向

之其期。討取之云云。○十六日。壬寅。澁谷次郎高重者。勇敢之器。頗不恥父祖之由。度度預御感。凡於事快然之餘。彼領掌之所。於上野國黑河郷。止國衙使入部。可爲別納之由。賜御下文。仍今日被仰含其由於國奉行藤九郎盛長云云。○十八日。甲辰。伊賀國合戰之間事。被經其沙汰。可討亡平家隱逃之郎從等之由。被仰大内冠者。並加藤五景員入道父子。及瀧口三郎經俊等云云。雜色友行。宗重。兩人。帶彼御書等進發云云。○廿日。丙午。此間。於鶴岡若宮之傍。被新造社壇。今日。所被勸請熱田大明神也。〔依前〕武衛參給。武藏守義信。駿河守廣綱已下門客等。殊刷行粧。列供奉。結城七郎朝光。持御劍。河勾三郎實政懸御調度。此實政者。去年冬上洛之時。依渡船之論。與一條次郎忠頼。合戰之間。雖蒙御氣色。武勇之譽。不恥上古之閭〔間イ同〕。不經幾旬月。有免許。剩從此役。奉昵近。觀者咸之不思議之念云云。御遷宮事終之後。爲貢税所。被奉寄相摸國内一村。筑後權守俊兼。被召寶前。書御寄附状云云。○廿五日。辛亥。故井上太郎光盛侍保科太郎。小河原雲藤三〔郎〕等。爲降人參上。仍可爲御家人之由。被仰下。藤内朝宗奉行云云。

八月大

二日。戊午。雨降。大内冠者飛脚重參著。申云。去十九日酉尅。與二平家餘黨等一合戰。逆徒敗北。討亡者九十餘人。其内張本四人。富田進士家助。前兵衛尉家能。家清入道。平田太郎家繼入道等也。前出羽守信兼子息等。幷忠清法師等者。逃二亡于山中一畢。又佐佐木源三秀能。相二具五郎義清一合戰之處。秀能爲二平家一被二打取一畢。惟義。已雪二會稽之恥一。可レ預二抽賞一歟云云。○三日。己未。雨降。召二大内冠者使一。賜二委細御書一其趣。攻二擊逆黨一事。尤神妙。但可レ被二抽賞一之由。被レ進レ申。頗背二物儀一歟。其故者。補二一國守護一之者。爲レ鎭二狼唳一也。而先日爲二賊徒一。被レ殺二害家人等一訖。是無二用意一之所レ致也。豈非二越度一哉。然者。賞罰者宜レ任二予之意一者。又被レ發二御使於京都一。今度。伊賀國兵革事。偏在二出羽守信兼子息等結構一歟。而彼輩。遁二國之中一。不レ知二行方一云云。定隱二遁京中一歟。早尋二搜之一。不レ廻レ踵可レ令二誅戮一之趣。被レ仰二遣源九郎主許一云云。安達新三郎。爲二飛脚一首途云云。○六日。壬戌。武衛招二請參河守一。足利藏人。武田兵衛尉一給。又常胤已下。爲レ宗御家人等。依レ召參入。此輩爲レ追二討平家一。可レ赴二西海一之間。爲二御餞別一也。終日有二御酒宴一。及二退散之期一。各引二賜馬一疋一。其中。參州分。秘藏御馬也。剩被レ副二甲一領一云云。○八日。甲子。晴。參河守範頼。爲二平家追討使一。赴二西海一。午尅進發。旗差(旗卷レ之)一人。弓袋一人。相二並前行一。次參

川前州。（著二紺村濃直垂一。加二小具足一。駕二栗毛馬一）次扈從輩一千餘騎。並龍蹄。所謂

北條小四郎　足利藏人義兼　武田兵衛尉有義
千葉介常胤　境平次常秀　三浦介義澄
男平六義村　八田四郎武者朝家　同男太郎朝重
葛西三郎清重　長沼五郎宗政　結城七郎朝光
藤內所朝宗　比企藤四郎能員　阿曾沼四郎廣綱
和田太郎義盛　同三郎宗實　同四郎義胤
大多和次郎義成　安西三郎景益　同太郎明景
大河戶太郎廣行　同三郎　中條藤次家長
工藤一臈祐經　同三郎祐茂　天野藤內遠景
小野寺太郎道綱　一品房昌寛　土左房昌俊

以下也。武衛搆二御棧敷於稻瀨河邊一。令三見二物之一給云云。○十三日。己巳。御二寄進于鹿島社一之地等事。

常陸國奥郡內。有叛逆之輩。依致妨。社役不全云云。仍如元可爲社領之由。今日重被仰下云云。

○十七日。癸酉。源九郎主使者參著。申云。去六日。任左衛門少尉。蒙使宣旨。是雖非所望之限。依難被默止度度勳功。爲自然朝恩之由。被仰下之間。不能固辭云云。此事。頗違武衛御氣色。範頼義信等朝臣受領事者。起自御意。被擧申也。於此主事者。內內有儀。無左右。不被聽之處。遂企所望歟之由。有御疑。凡被背御意事。不限今度歟。依之可爲平家追討使事。暫有御猶豫云云。

○十八日。甲戌。武藏國住人甘糟野次廣忠。雖非有勢者。赴西海。可追討平家之由。進而申請之。御感之餘。於被知行分者。免許萬雜事之旨。被仰下〔之前〕云云。

○十九日。乙亥。繪師下總權守爲久歸洛。賜御馬（鞍置）已下餞物云云。

○廿日。丙子。安藝介廣元受領事。掃部頭安倍季弘朝臣（木曾祈師云云）可被停廢官職事。已上兩條。被申京都云云。

○廿四日。庚辰。被新造公文所。今日立柱上棟。大夫屬入道。主計允等奉行也。

○廿六日。壬午。源廷尉飛脚參著。去十日。招信兼子息左衛門尉兼衡。次郎信衡。三郎兼時等於宿廬。誅戮之。同十一日。信兼被下解官宣旨云云。

○廿八日。甲申。新造公文所被立門。安藝介。大夫屬入道。足立右馬允。筑前三郎等參集。大庭平太景能經營。

勸二酒於此衆一。

九月小

二日。戊子。小山小四郎朝政。下二向西海一。可レ屬二參州一之由被レ仰云云。又彼官途事。所レ望二申左右兵衛尉一也。[云云]○九日。乙未。出羽前司信兼入道已（以）下。平氏家人等。京都之地。可レ爲二源廷尉沙汰一之由。武衛被レ遣二御書一。

平家沒官領内。

京家地事。

[未致其沙汰。仍]雖二一所一。不レ宛二賜人一也。

武士面面。致二其沙汰一事。

全不三下知一事也。所詮

可レ依二 院御定一也。

於二信兼領一者。義經

沙汰也

〔御判前〕

○十二日。戊戌。參河守範頼朝臣去朔日使者。今日參著。獻二書狀一。去月廿七日入洛。同廿九日。賜二追討使官符一。（符 側注：苻）今日(九月一日)發二向西海一云云。○十四日。庚子。河越太郎重賴息女上洛。爲レ相二嫁源廷尉一也。是依二武衛仰一。兼日令二約諾一云云。重賴家子二人。郎從三十餘輩從レ之首途云云。○十七日。癸卯。相摸國大山寺。免田五町。畠八町。任二先例一。可レ引二募之一由。今日下知給云云。○十九日。乙巳。平氏一族。去二月。被レ破二攝津國一谷要害一之後。至二于西海一。掠二虜彼國一云云（國イハ之一字）而爲レ被レ攻二〔之〕覽之一。被レ發二遣軍兵一訖。以二橘次公業一。爲二一方先陣一之間。著二讃岐國一。誘二住人等一。欲二相具一。各令二歸伏一。搆レ運二志於源家一之輩。注二出交名公業一。依レ執二進之一。有二其沙汰一。於レ今者。彼國住人可レ隨二公業下知一〔之前〕由。今日所レ被二仰下一也。

下　讃岐國御家人等。〔在二御判一〕

可下早隨二橘次公業下知一。向中西海〔道前〕合戰上事。

右國中輩。平家押領之時。無二左右一御方參。交名折紙。令レ經二御覽一畢。尤奉公也。早隨二彼公業下知一。可レ令

レ致二勳功忠一之狀如レ件。

元暦元年九月十九日

讃岐國御家人

注進平家當國屋嶋落付御坐捨。參二源氏御方一。奉二京都候一。御家人交名事。

藤大夫資光　同子息新大夫資重　同子息新大夫能員（資）

藤次郎大夫重次　同舍弟六郎長資　藤新大夫光高

三野三郎大夫高包（カヌ）　橘大夫盛資　三野首領盛資

仲行事貞房　三野九郎有忠　三野首領太郎

同次郎　大麻（アノ）藤太家人

右度度合戰。源氏御方。參二京都一候之由。爲レ入二鎌倉殿御見參一。注進如レ件。

元暦元年五月日

○廿日。丙午。玉井四郎資重濫行事。所レ被レ下二院宣一也。今日到二來于關東一。武衛殊依二恐申一給。則可二停

止二之旨。被二仰下一云云。
丹波國一宮出雲社者。蓮華王院御領也。預ニ給能盛法師一。年來令ニ知行一。何有下稱ニ地頭一之輩上哉。年來又不ニ聞食及一。而號ニ彼御下文一。玉井四郎資重恣押領。其理可ㇾ然哉。有ㇾ限御領。不ㇾ可ㇾ有ニ異儀一事也。早可ㇾ停ニ止件濫行一之由。〔宜〕令ニ下知一給。•可ㇾ•宜之由。院御氣色候也。仍執達如ㇾ件。

八月卅日　　右衛門權佐

謹上　兵衛〔權〕佐殿

○廿八日。甲寅。去五日。季弘朝臣。被ㇾ停ニ所帶職一畢之由。自ニ仙洞一。被ㇾ仰ニ源廷尉一（義經）義經又所ㇾ申ニ其旨一也。彼狀今日到ニ來鎌倉一云云。

十月大

六日。辛酉。自ニ去夜一雨降。午尅屬ㇾ霽。未尅。新造公文所吉書始也。安藝介中原廣元。爲ニ別當一着座。齋院次官中原親能。主計允藤原行政。足立右馬允藤內遠元。甲斐四郎。大中臣秋家。藤判官代邦通等。爲ニ寄人一參上。邦通。先書ニ吉書一。廣元披ニ覽御前一。次相模國中神領佛物等事。沙ニ汰之一。其後行ニ垸飯一。武衛出御。

千葉介經營。公私。有二引出物一。上分御馬一疋。下各野（御）劍一柄云云。○十二日。丁卯。參州於二安藝國一行下賞於有二勳功一之輩上。是依二武衛仰一也。其中。當國住人山方介爲綱。殊被二抽賞一。軍忠越レ人之故也云云。○十五日。庚午。辰時地震。今日。武衛。令レ歷二覽山家紅葉一給。若宮別當法眼（○圓曉）。參會。〔云云前〕○廿日。乙亥。諸人訴論對決事。相二具俊兼盛時等一。〔且前〕召二決之一。且令レ注二其詞一。可レ申二沙汰一之由。被レ仰二大夫〔屬前〕入道善信一云云。仍就二御亭東面廂二箇間一。爲二其所一。號二問注所一。打レ額云云。○廿四日。己卯。因幡守廣元。（九月十八日任）申云。去月十八日。源尉廷叙留。今月十一日。（イ五（吉本一））聽二院內昇殿一云云。其儀爲二八葉車一。扈從衛府三人。共侍廿人。（各騎馬）於二庭上一。舞蹈。擧二劍笏一參二殿上一云云。○廿七日。壬午。淡路國廣田庄者。先日被レ寄二附廣田社一之處。梶原平三景時。爲レ追二討平氏一。當時在二彼國一之間。郎從等亂二入彼庄一。妨二乃貢一歟。仍仲資主（任）。（○王イ）被レ申二子細一。更非二改變儀一。且可レ下二知景時一之由。今日被レ遣二御報一。○廿八日。癸未。石淸水別當成淸法印申與行兩條。所レ被レ申二京都一也。俊兼奉二行之一。

成淸法印申。

〔寶塔院庄（之右）庄事〕

彌勒寺庄之事。

右兩條。任二道理一。可レ有二御沙汰一之由。〔先日〕被二仰下一候畢。神社事。殊可レ被レ行二善政一候也。自然被二默止一。不便事候。以二此旨一。可下令二披露一給上候。恐惶謹言。

十月廿八日　　頼朝

進上　大藏卿殿

十一月大

六日。辛卯。於二鶴岡八幡宮一。有二神樂一。武衛參給。御神樂以後。入二御別當坊一。依レ奉レ請也。別當自二京都一。招二請兒童一。（號二惣持王一）去比下著。是郢曲達者也。以レ之爲二媒介一。所レ勸二申盃酒一也。垂髪吹二横笛一。梶原平次付レ之。又唱歌。畠山次郎歌二今樣一。武衛入レ興給。及レ晩令レ還給云云。○十二日。丁酉。常陸國住人等。爲二御家人一。可レ存二其旨一之由。被二仰下一云云。○十四日。己亥。左衛門尉朝綱。刑部丞盛綱已下。宛二賜所領於西國一之輩多レ之。仍存二其旨一。面面可レ被二沙汰付一之由。武衛今日被レ遣二御書於源廷尉之許一云云。○廿一日。丙午。今朝。武衛有二御要一。召二筑後權守俊兼一。俊兼。參二進御前一。而本自爲レ事二花美一者也。只今殊刷（カイツクロヒ）二行

粧。著二小袖十餘領一。其袖妻重二色色一。武衛覽レ之。召二俊兼之刀一。則進レ之。自取二彼刀一。令レ切二俊兼之小袖妻一給後。被レ仰曰。汝富二才翰一也。盍レ存二儉約一哉。如二常胤。實平一者。不レ分二清濁一之武士也。謂二所領一者。又不レ可レ雙二俊兼一。而各衣服已下用二麁品一。不レ好二美麗一。故其家有二富有之聞一。令レ扶二持數輩郎從一。欲レ勵二勳功一。汝不レ知二産財之所一レ費。太過分也。〔云云前〕俊兼無レ所二于述申一。垂レ面敬屈。武衛向後被レ仰下可レ停二止花美一否之由上。俊兼申下可二停止一之旨上。廣元。邦通。折節候レ傍。皆銷レ魂云云。○廿三日。戊申。園城寺專當法師。下二著關東一。所レ持二參衆徒牒狀一也。武衛則召二出御前一。被レ令二因幡守廣元讀一レ之。其狀云。

園城寺牒　　右兵衛佐家衙。

應下被レ以二平家領沒官地一。寄中進當寺上。紹二隆當寺佛法一事。

右當伽藍者。彌勒慈尊利生之地。智證大師興隆之庭。所レ學者。中道上乘之教法。所レ祈者。天長地久之御願。法皇之列二門侶一。崇二吾寺一。致二八埏之靜謐一。荃宰之輔二朝政一。歸二此地一。祈二一家之繁昌一。誠知。崇二我佛法一之聖主。寶祚延長。蔑二我佛法一之人臣。門族滅亡。事見二緣起一。詎貽二疑滯一者乎。爰故入道太政太臣。忽背二皇憲一。恣犯二惡罪一。幽二閉射山之禪居一。配二流博陸之重臣一。其後又追二捕親王亭一。兼擬レ伐二賴政卿一之間。各逃二虎口之

難一。來二此烏瑟之影一。衆徒等慈愍稟レ性。救護在レ心。隨二皇子之令旨一。伴二源氏之謀略一。延二國家鎭護之秘策一。專二逆臣降伏之懇祈一。依レ之。引二率千萬騎之軍兵一。燒二失數百宇之房舍一。佛像經論。化二煙炎一。而昇レ天。學徒行人。溺二淵淚一。而投レ地。計二其夭亡一者。行學合五百人。思二其離散一者。老少惣千餘輩。哀哉。三百餘歲之法燈。爲二平家一永滅。痛哉。四十九院之佛閣。爲二逆賊一忽失。過二居士會昌天子一。超二我朝守屋大臣一。而去七月廿五日。北陸道之武將。且以入洛。六波羅之凶徒。永以退散。四海悅レ之。一天感レ之。況於二三井一乎。況於二吾寺一乎。然而所行之旨。已過二先輩一。燒二落禪定法皇之仙洞一。殺二害天台兩門之貫首一。事絕二常篇一。例在二非常一。以二誰力一令レ伏レ之。只仰二大菩薩之冥鑒一。以二何人一征二伐之一。專待二當將軍之進發一。爰貴下。出二重代勳功之家一。爲二萬民倚賴之器一。遂廻二思於邊城之間一。忽決二勝於上都之內一。即於二當寺之頭(ホトリニ)(領)一。自レ獲二義仲之首一。今各成二安堵之思一。雖レ可レ企二止宿之計一。末寺庄園。武士之妨不レ靜。法侶禪徒。歸住之便旣闕。纔止纔住。如レ存如レ亡。春藤墮老。一鉢之貯惟空。秋桂嵐踈。三衣之衫(タモト)易レ破。法之衰弊。處之陵遲。見者掩レ面。行者反レ袖。若無二哀憐一者。爭(イカデカ)企二往侍(持)一乎。然則平家領之內。沒官地之間。雖二兩三所一。就二當寺一者。且挑(カカゲ)二欲レ消之法燈一。且續二欲レ斷之佛種一。倩(ツラツラ)考二先例一。聖德太子降二伏守屋(モリヤノ)大臣一之後。以二彼家宅一而爲二佛寺一。以二彼田園一而

寄二堂舍一。自レ厥以來。　王法安穩。佛法繁昌。此時尤可レ追二彼例一。今代〔必前〕可レ守二其蹤一。又貴下先祖伊豫入道。蒙レ承二詔命一。征レ伐貞任一之刻。先詣二園城之仁祠一。殊祈二新羅之靈社一。依二其効驗一。伏二彼夷狄一。傳二梟首於洛中一。施二虎威於關東一。曩祖已如レ此。子孫豈不レ歸乎。以レ之思レ之。源家與二當寺一。因緣和合。風雨感會者歟。然則。當寺之興隆。可レ任二當家之扶持一。當家安穩。可レ依二專寺之祈念一。仍每月。限二七箇日一。屈二百口僧綱大法師一。修二百壇不動供一即注二交名一。聞達先畢〔乎〕。抑大師記文云。予之法。可レ付二屬國王大臣一。於二此法門一。王臣若忽緒者。國土衰弊。王法滅少。天神捨離。地祇忿〔忽〕怒。內外騷亂。遐邇騷動。相二當彼時一。王臣恭敬。祈二予佛法一矣。忽二緒我佛法一者。洛中騷亂。歸二依此法文一者。天下安穩。彼平氏者。破二滅當寺一。自亡二門葉一。此源氏〔家前〕者。恭二敬當寺一。宜レ招二榮花一。衆徒之丹祈元無レ貳。三寶之冥助彌有レ恃。於二巘山重〔復〕江湛一。縱隔二面於萬里之曉雲一。朝祈夕念。將レ通二精於兩鄉之曉月一。志合者胡越爲二昆弟一。誠哉此言。仍以レ狀牒（〇牒脫カ）到准レ狀故牒。

元曆元年十月日　小寺主法師成賀

權都維那大法師慶俊

權都維那大法師仁譽

撿挍權僧正法印大和尙位〔在判〕

別當大僧都法印大和尙位　上座法橋上人位

大學頭阿闍梨大法師　權上座傳燈大法師

○廿六日。辛亥。武衞爲レ草二創伽藍一。鎌倉中之求二勝地一給。當二于營東南一。有二一靈崛一。仍被レ企二梵宇營作於出(〇吉本ニ從フベシ)彼所一。是報二謝父德之素願一也。但大嘗會御禊已後。可レ有二地曳始一之由。被レ定之處。去月廿五日被レ遂二其議一。(太夫判官義經供奉云云)〔之前〕間。今日有二犯土一。因幡守。筑後權守等奉二行之一。武衞監臨給云云。

十二月小

一日。丙辰。武衞召二園城寺使者一。賜二御下文二通一。所レ令レ寄二附兩村於一寺伽藍一給上也。其狀云。

奉レ寄　三井寺御領事。

在二若狹國玉置(並)領一。壹處。

右件所。依㆑爲㆓平家沒官之領㆒。自㆑院所㆓給預㆒也。而今爲㆑崇㆓當寺佛法㆒。所㆑令㆓寄進㆒也。但於㆓下司職㆒者。從㆓鎌倉㆒所㆓沙汰付㆒也。不㆑可㆑有㆓相違㆒之狀如㆑件。

元曆元年十一月廿八日　　前右兵衛佐源朝臣

奉㆑寄寺領貳箇所事。

右。爲㆓平家之逆徒㆒。及㆓寺院之破壞㆒。自㆑爾以降。未㆑知㆓住侶之有無㆒。不㆑達㆓籌懷之案內㆒。期㆓上洛之時㆒。暫送㆑日之處。牒狀忽到來。旨趣尤甚深也。仍寺領二箇所。（近江國横山。若狹國玉置領）相㆓副寄文㆒。所㆑令㆓奉進㆒也。爲㆑無㆓事之妨㆒。撰㆓便宜之村㆒也。但世間落居者。此上重可㆓計沙汰㆒之由。存思給也。仍牒狀如㆑件。

十二月一日　　前兵衛佐

○二日。丁巳。武衛被㆑遣㆓御馬一疋（葦毛）於佐佐木三郎盛綱㆒。〔云云〕盛綱爲㆑追㆓討平家㆒。當時在㆓西海㆒。而折節無㆓乘馬㆒之由。依㆑令㆓言上㆒。態立㆓雜色㆒。被㆑送㆓遣之㆒云云。○三日。戊午。園城寺專當歸洛。而北條殿殊令㆑歸㆓依當寺㆒給之間。相㆓副懇懃御書㆒被㆑申㆓彼寺事於源廷尉㆒。其詞曰。

園城寺之衆徒。殊勤㆓牒狀㆒。被㆑申㆓于鎌倉殿㆒事候歟之間。平家領一兩所。先以所㆑令㆓寄進㆒御候也。此次

第。尤嚴重思食候〔之〕故也。而自二彼業徒之御中一。令二髣申一給事候者。殊入二御心一。御沙汰可レ〔有〕候者也。

更御疎略不レ可レ候者歟。且又依二御氣色一。所下令二申上一候上也。凡可二申上一候事等雖二多レ之候一。忩忩候之間。

不レ能二心事一候。恐恐謹言。

十二月三日　　　　平

進上　判官殿

○七日。壬戌。平氏左馬頭行盛朝臣。引二率五百餘騎軍兵一。搆二城郭於備前兒嶋一之間。佐佐木三郎盛綱。爲二武衛御使一。爲レ責二落之一。雖二行向一。更難レ凌二波濤一之間。濱（ハマノヒカタニ）潟案レ轡之處。行盛朝臣頻招レ之。仍盛綱勵二武意一。不レ能レ尋二乘船一。乍レ乘レ馬渡二藤戸（フヂト）海路一。（三町餘）所二相具一之郎從六騎也。所謂志賀九郎。熊谷四郎。高山三郎。與野太郎。橘三。橘五等也。遂令レ著二向岸一。追二落行盛一云云。○十六日。辛未。吉備津宮宮仕。今日參二著鎌倉一。供僧行實。所レ捧二解狀一也。其趣。本宮長日法華經免田（メンデン）。並二季彼岸佛聖田（ブツシヤウデン）等。依二西海合戰事一。沒レ例。爲二關東御沙汰一。如レ元可レ被レ奉レ寄レ之由也。武衛相二尋子細一。可二成敗一之由。相二副御消息於件解狀一。被レ遣二實平之許一云云。實平當時在二備前國一云云。○廿日。乙亥。今日源延尉請文（ウケブミ）。自二京都一參著。是西國

賜㆓所領㆒之輩。任㆓仰之旨㆒。沙汰付之由云云。○廿四日。己卯。於㆓公文所㆒。被㆑置㆓雜仕女三人㆒。爲㆓因幡守沙汰㆒。今日定㆓其輩㆒云云。○廿五日。庚辰。鹿嶋社神主中臣親廣。親盛等。依㆑召參上。今日參㆓營中㆒。賜㆓金銀錦物㆒。剰當社御寄進之地。永停㆓止地頭非法㆒。一向可㆑令㆓神主管領㆒之旨。被㆓仰含㆒。是日來捧㆓御願書㆒。抽㆓丹祈㆒給之處。去春之比。現㆓嚴重神變㆒御之後。彌依㆑催㆓御信心㆒。今及㆓此義㆒云云。○廿六日。辛巳。佐佐木三郎盛綱。自㆑馬渡㆓備前國兒嶋㆒。追㆓伐左馬頭平行盛朝臣㆒事。今日以㆓御書㆒。蒙㆓御感之仰㆒。其詞曰。

自㆑昔雖㆑有㆘渡㆓河水㆒之類㆖。未㆑聞㆘以㆑馬凌㆓海浪㆒之例㆖。盛綱振舞。希代勝事也云云。

○廿九日。甲申。常陸國鹿嶋祠司宮介良景所領事。且准㆓地主㆒。企㆓富名㆒。且任㆓御物忌㆒。拜㆓富名例㆒。可㆑停㆓止萬雜事㆒之由。被㆑仰云云。

吾妻鏡　卷第四

元曆二年乙巳。　八月十四日爲二文治元年一。

正月大

一日。乙酉。卯剋。武衛（御水干）御二參鶴岡宮一。被レ奉二神馬二疋一（黑鹿毛）山上太郎高光。小林次郎重弘等引レ之。次法華經供養。導師別當法眼尊曉也。供養之後被レ引二御布施一。（裹物二）右馬助以廣取レ之。○六日。庚寅。爲レ追二討平家一。在二西海一之東士等。無レ船粮絕。而失二合戰術一之由。有二其聞一之間。日來有二沙汰一。用二意船一。可レ送二兵粮米一之旨。所レ被レ仰二付東國一也。以二其趣一。欲レ被レ仰二遣西海一之處。參河守範賴（去年九月二日出京赴二西海一）去年十一月十四日飛脚。今日參著。兵粮闕乏之間。軍士等不二一揆一各戀二本國一。過半者欲二逃歸一云云。其外鎭西條條被レ申レ之。又被レ所二望乘馬一云云。就二此申狀一。聊雖レ散二御不審一。猶被レ下二遣雜色定遠。信方。宗光等一。但定遠。信方者在二京都一（自京都）可二相具一之旨。被レ仰二含于宗光一。宗光帶二委細御書一。是於二鎭西一。可レ有二沙汰一條條也。其狀云。

十一月十四日御文正月六日到來。今日從ﾚ是脚力を立とし候つる程に、此脚力到來。仰遣たるむね委承候畢。筑紫の事。などか從はざらんとこそおもふ事にて候へ。物騷しからずして。能々國に沙汰し給べし。搦へて／＼國の者共に。にくまれずしておはすべし。馬の事誠にさるべき事にてはあれども。平家は常に傾城（○形勢）うかがふ事にてあれば。もしをのづから道にて押とられなどしたらん事は。聞耳も見苦しき事にてあらんずれば。つかはさぬ也。又内藤六が周防のせいを以。志をさまたげ候。〔なる〕以外事也。當時は國の者の心を破らぬ樣なる事こそ。吉事にてあらむずれ。又八嶋〔に〕御坐〔す〕大やけ。幷に二位殿。女房たちなど。少もあやまりあしざまなる事なくて。向へとり申させたまふべし。かくとだにも披露せられば。二位殿などは大やけをぐしまいらせて。向ざまにおはする事もあるらん。大方は帝王の御事。いまに始ぬ事なれ共。木曾はやまの宮。鳥羽の四宮討奉せて。冥加つきて失にき。平家又三條　高倉宮討奉て加樣にうせんとする事なり。されば能々したゝめて。敵をもらさずして。閑に可ﾚ被ﾆ沙汰ﾆ也。内府は極て憶病におはせる人なれば。自害などはよもせられじ。生どりに取て京へぐして上べし。さて世のすゑにも言傳てあらば。いま少吉事なり。返々此大やけの御事おぼつかなきことなり。いかにも／＼して。

事なきやうにさたせさせ給べし。大勢どもにも。此由をよく〳〵仰含られ候べし。穴賢〳〵。

さては侍共に。構々心々ならずして有べきよし。能々被レ仰べし。構々て筑紫の者どもにも。にくまれぬやうに。ふるまはせ給べし。坂東の勢をばはねとし。筑紫のものどもをもて。八嶋をば責させて。無レ念やうに。閑に沙汰候べし。敵よはくなりたると。人の申さんに付て。敵あなづらせ給ふ事。返々有べからず。構々敵をもらさぬ支度をして。能々したゝめて事を切せ給べし。猶々返々大やけの御事。ことなきやうに沙汰せさせ給べきなり。二月十日のころには。一定舟をば上ずるなり。〔さては〕佐々木三郎筑紫へは下さがりたるによて。下して備前兒島をば責落たるなり。構々ていかにも物騒しからずして。閑に軍しおほすべし。侍どもの事。是によりかれによりなどして。さゝやきなどして。人に見うとまれ給べからず。又路々の間。兵粮なくなりたるなど。京より方々にうたへ申せども。さほどの大勢の軍粮料にて上らざりしかば。一方かは。さなくて有べきとおもふなり。坂東にも其後別事もなし。少も違事候はず。委は此雑色に仰含候ぬ。恐々

千葉介。ことに軍にも高名してけり。大事にせられ候べし。

正月六日

蒲殿

國の者など。をのづから落まうでくる事あらば。もてなして。よに〳〵糸惜くせさせ給ふべし。豐後の舟だにもあらば。やすき事なり。四國をば舟少々あらば。從ゝ是せめよと云なり。東國の舟は。二月十日のころに。國を立て上するなり。猶々も筑紫の事。よく〳〵したゝめて。物騷しからず。ことなきやうに。さたせられ候べし。又侍共の。さ樣に心々にてあんなる。返々以外也。實に其條さぞあるらん。又方々より。われが事をば。訴あひたれども。人のとかくいはんに。全よるべからず。誠に能だにもふるまはれば。それぞよき事なる。又人云ずとも。所せむなくおはせんずるぞ。以外事にて有べき。又小山の者共。いづれ「を」も殊に糸惜し「く」給べし。穴賢々々。自ゝ是行たる者は。われをおもはゞ。當時所知所領をしらず候とも。さやうの論をすべき樣なし。件のさまたげ。止させ給ふべく候。當時は構々て。國の者をすかして。よき樣にはからはせ給へ。筑紫の者にて四國をば責させ給べし。此使は。雜色宗光。定遠。信方三

人の道なり。信方。定遠は京に有を下なり。宗光ぞ國より上する。委事は。宗光がもちたる文に申たるなり。よろづ能々斗て沙汰すべし。穴賢〳〵。

正月六日

參河守殿御返事

重仰

御下文一まい進じ候。國の者共に。見せさせ給べし。わうはく法師の事。用させ給べからず候。穴賢〳〵。甲斐の殿原の中には。いさわ殿。かゞみ殿。ことにいとをしくし申させ給べし。かゞみ太郎殿は。二郎殿の兄にて御坐候へども。平家に付。又木曾に付て。心をふぜんにつかひたりし人にて候へば。所知など奉べきには及ばぬ人にて候なり。たゞ二郎殿をいとをしくして。是をはぐゝ見候べき也。

又御下文一通。被遣于九國御家人中。其狀云。

下　鎭西九國住人等。

可下早爲二鎌倉殿御家人一。且安中堵本所上。且隨二參河守下知一。同心合力。追中討朝敵平家上事。
右仰二彼國國之輩一。可レ追二討朝敵一之由。院宣先畢。仍鎌倉殿御代官兩人上洛之處。參河守向二九國一。以二九郎判官一。所レ被レ遣二四國一也。爰平家。縱雖レ在二四國一。雖レ著二九國一。各且守二院宣(〇之脱カ)旨一。[且]隨二參河守下知一。令二同心合力一。可レ追二討件賊徒一也者。九國官兵。宜承知。不日全二勳功之賞一矣。以下。

元暦元年正月日

前右兵衛佐源朝臣

〇十二日。丙申。參州自二周防一到二赤間關一。爲レ攻二平家一。自二其所一。欲レ渡二海之處。粮絶無レ船。不慮之逗留及二數日一。東國之輩。頗有二退屈之意一。多戀二本國一。如二和田小太郎義盛一。猶潜擬レ歸二參鎌倉一。何況於二其外族一乎。而豐後國住人臼(次)一郎惟隆。同弟緒方三郎惟榮者。志二[在]源家一之由。兼以風聞之間。召二船於彼兄弟一。渡二豐後國一。可レ責二入博多津一之旨。有二儀定一。仍今日。參州[守](三川)歸二周防國一云云。〇廿一日。乙巳。武衛依二御宿願一。參二粟濱明神一給。御臺所同令二伴給一云云。〇廿二日。丙午。以二出雲國安東(樂)鄉一。先日令レ寄二附于鴨社(祖)

神領一給訖。而可レ爲二冬季御神樂料所一之旨。被二仰遣一。廣元。施二行之一。○廿六日。庚戌。惟隆。惟宗等。含二參州之命一。獻二八十二艘兵船一。亦周防國住人宇佐郡(那)木上七遠隆。獻二兵粮米一。依レ之。參州解レ纜。渡二豐後國一云云。同時進渡之輩

北條小四郎　足利藏人義兼　小山兵衛尉朝政
同五郎宗政　同七郎朝光　武田兵衛尉有義
(齋イ同)齊院次官親能　千葉介常胤　同平次常秀
下河邊庄司行平　同四郎政能　淺沼四郎廣綱
三浦介義澄　同平六義村　八田武者知家
同太郎知重　葛西三郎淸重　澁谷庄司重國
同二郎高重　比企藤內朝宗　比企藤四郎能員
和田小太郎義盛　同三郎宗實　同四郎義胤
大多和三郎義成　安西三郎景益　同太郎明景

大河戸太郎廣行　同三郎　中條藤次家長
加藤次景廉　工藤一﨟祐經　同三郎祐茂
天野藤內遠景　一品房昌寛　土左房昌俊
小野寺太郎道綱

此中常胤者。不レ爲レ事二義老一。凌二風波一。進渡。〔焉〕景廉者。忘二病身一相從矣。行平者。粮盡而雖レ失レ度。投二甲冑一買二取小船一。最前棹。人恠之云。不レ著二甲冑一。令レ參二大將軍御船一。全レ身可レ向二戰場一歟云云。行平云。於二身命一者。本自不レ爲レ惜レ之。然者雖レ不レ著二甲冑一。乘二于自身進退之船一。先登(サキガケ)欲レ任レ意云云。將帥解レ纜。

爰三州曰。周防國者。西隣二宰府一。東近二洛陽一。自二此所一。通二子細於京都與關東一。可レ廻二計略一之由。有二武衛兼日之命一。然者。留二有勢精兵一。欲レ令レ守二當國一。可レ差二誰人一哉者。常胤計申云。義澄爲二精兵一。亦多勢者也。早可レ被レ仰云云。仍被レ示二其旨於義澄一之處。義澄辭申云。懸二意於先登一之處。徒留二此地一者。以レ何立レ功哉云云。然而撰二勇敢一。被レ留二置之由。所レ命及二再三一之間。義澄結二陣於防州一云云。

二月小

一日。乙卯。參州渡二豐後國一。北條小四郎。下河邊庄司。澁谷庄司。品河三郎等令二先登一。而今日。於二葦屋（○葦）浦一。太宰小貳種直（タネナホ）。子息賀摩（カマ）兵衛尉等。引二隨兵一。相二逢之一挑戰。行平。重國等。懸廻（迴懸）射レ之。彼輩雖二攻戰一。爲二重國一被レ射（討）畢。行平誅二美氣（ミケ）三郎敦種一云云。○五日。己未。典膳大夫中原久經。近藤七國平。爲二使節一上洛。（先先雖レ爲二使節一他人相替（努）。今度治定云云）是追二討平氏一之間。寄二事於兵粮一。散在武士。於二畿内近國所所一。致二狼藉一之由。有二諸人之愁緒（訴）一。仍雖レ不レ被レ相二待平家滅亡一。且爲レ被レ停二止彼狼唳（藉）一。所レ被二差遣一也。先相二鎭中國近邊之十一箇國一。次可レ至二九國四國一。悉以經二奏聞一可レ隨二 院宣一。此一事之外。不レ可レ交二私沙汰一之由。被二定仰一云云。今兩人雖レ非二指（サシタル）大名一。久經者。故左典廐御時殊有レ功。又携二文筆一云云 國平者勇士也。有二廉直譽一之間。如レ此云云。依レ仰。各可レ致二憲法沙汰一之趣。進二起請文一云云。○十二日。丙寅。武衛令レ赴二伊豆國一給。是爲レ建二立伽藍於二狩野山一。日來被レ求二材木一。仍爲レ監二臨之一也。○十三日。丁卯。爲二平家追討御祈請（禱）一於二鶴岡寶前一。聚二鎌倉中僧徒一。被レ轉二讀大般若經一。京都又被レ行二卅壇之秘法一云云。今日伊澤五郎書狀。自二鎭西一。到二著于武衛御旅舘一。其詞云。爲レ迴二平家追討計一。雖レ入二長門國一。彼國饑饉依レ無レ粮。猶欲レ引二退于安藝國一。又欲レ攻二九州一之處。無二乘船一之間。不二進戰一之由云云。即御返事云。依レ無レ粮。

退二長門一之條。只今不レ相二向敵一者。有二何事一哉。攻二九國一事。當時不レ可レ然歟。先渡二四國一。與二平家一可レ遂二合戰一云云。〇十四日。戊辰。參州日來在二周防國一之時。武衛被二仰遣一云。令レ談二守土肥二郎。梶原平三一。可レ召二九國勢一。就レ之。若見二歸伏之形勢一者。可レ入二九州一。不レ然者。與二鎭西一不レ可レ好二合戰一。直渡二四國一。可レ攻二平家一者。而今參州欲レ赴二九國一。無レ船與不レ進。適雖レ渡二長門國一。粮盡之間。又引二退周防國一訖。軍士等漸有二變意一。不二一揆一之由。被レ歎二申之一。其飛脚。今日參二着伊豆國一。仍今度不レ遂二合戰一。令二歸洛一者。有二何眉目一哉。遣レ粮之程令二堪忍一。可レ相二待之一。平家之出二故鄕一。在二旅泊一。猶勵二軍張之儲一。況爲二追討使一。盍レ抽二勇敢思一乎之由。被レ遣二御書於參州幷御家人等中一云云。〇十六日。庚午。關東軍兵。爲レ追二討平氏一。赴二讃岐國一。廷尉義經。爲二先陣一。今日酉剋解レ纜。大藏卿泰經朝臣稱レ可レ見二彼行粧一。自二昨日一到二廷尉旅舘一。而卿諫云。泰經雖レ不レ知二兵法一。推量之處レ覃。爲二大將軍一者。未三必競二一陣一歟。先可レ被レ遣二次將一哉者。廷尉云。殊有二存念一。於二一陣一欲レ棄レ命云云。則以進發。尤可レ謂二精兵一歟。平家者。結二陣於兩所一。前内府以二讃岐國屋嶋一。爲二城郭一。新中納言。（知盛）相二具九國官兵一。固二門司關一。以二彥島一定レ營。相レ待二追討使一云云。今日武衛歷二覽山澤一之間。於二藍澤原一。付二參州迴季重一被レ遣二御書一。又被レ下二御書於北條小四郎殿。齋院次

官。比企藤内。同藤四郎等。是征平家之間。各可同心由也　○十八日。壬申。廷尉昨日自渡部欲渡海之處。暴風俄起。舟船多破損。士卒船等。一艘而不解纜。爰廷尉云。朝敵追討使。暫時逗留。可有其恐。不可顧風波之難云云。仍丑剋。先出舟五艘。卯剋著阿波國椿浦(常行程三箇日也)則率百五十餘騎。上陸。召當國住人近藤六(イ七)親家。爲仕承發向屋嶋。於路次桂浦。攻櫻庭介良遠(散位成良弟)之處。良遠。辭城逐電云云。入夜武衞自豆州遂著鎌倉給云云。○十九日。癸酉。南御堂事始也。武衞(香御水干駕鴾毛御馬。)渡御其所。御堂地南山麓搆假屋。御臺所同入御。爲覽今日儀〔覽〕也。申剋。番匠等賜祿。被引御馬云云。其後熊野山領參河國竹谷。蒲形兩庄事。有其沙汰。當庄根本者。開發領主散位俊成。奉寄彼山之間。別當湛快令領掌之。讓附女子。〔件女子〕始爲行快僧都之妻。後嫁前薩摩守平忠度朝臣。忠度。於一谷被誅戮之後。爲沒官領。武衞令拜領給之地也。而領主女子。令褁望子本夫行快云。早悉申子細於關東。可令安堵件兩庄。若然者。可讓未來於行快子息。(女子腹云云)就此契約。行快僧都自熊野差進使者。(僧榮增)所言上也。謂行快者。行範一男。爲六條廷尉禪門(爲義)外孫。於源家。其好已異他。仍本自重之處。此欸訴出來之間。無左右加下知給。

日又御敬神之故也云云。又廷尉（義經）昨日終夜。越下阿波國與二讃岐一之境中山上。今日辰剋到二于屋島內裏之向浦一。燒二拂牟禮。高松民屋一。依レ之先帝令レ出二內裏一御。前內府又相二率一族等一。浮二海上一。廷尉（著二赤地錦直垂紅下濃鎧一。駕二黑馬一）相二具田代冠者信綱。金子十郎家忠。同餘一近則。伊勢三郎能盛等一。馳二向汀一。平家又抑レ船。互發二矢石一。此間佐藤三郎兵衛尉繼信。同四郎兵衛尉忠信。後藤兵衛尉實基。同養子新兵衛尉基清等。燒二失內裏幷內府休幕以下舍屋一。黑煙聳レ天。白日蔽レ光。于レ時越中二郎兵衛尉盛繼。上總五郎兵衛尉忠光（平氏家人）等。下レ自レ船。而陣二宮門前一。合戰之間。廷尉家人繼信被二射取一畢。廷尉大悲歎。喚二一口衲衣一。葬二千株松本一。以二秘藏名馬一。（號二大夫黑一。元院御厩御馬也。行幸供奉時。自二仙洞一給レ之。每レ向二戰場一。駕レ之）賜二件僧一。是撫二戰士一之計也。莫レ不二美談一云云。同日。住吉神主津守長盛參洛。經二　奏聞一。〔原〕去十六日。當社行二恒例御神樂一之間。及二子剋一鳴鏑出レ自二第三神殿一。指二西方一行云云。此間奉レ仕二追討御祈一。靈驗掲焉者歟。○廿一日。乙亥。平家籠二于讃岐國志度道場一。廷尉引二八十騎兵一。追二到彼所一。平氏家人田內左衛門尉歸二伏于廷尉一。亦河野四郎通信。粧二三十艘之兵船一參加矣。義經主既渡二阿波國一。熊野別當湛增爲レ合二力源氏一同渡之由。今日風二聞洛中一云云。○廿二日。丙子。梶原平三景時以下東士。以二百四十餘艘一。著二屋島礒一。

云云。○廿七日。辛巳。入レ夜爲二追討御祈一。於二賀茂社一。被レ行二御神樂一。有二宮人曲一云云。○廿九日。癸未。
加藤五郎入道參二營中一。被レ置二一封狀於御前一。不二事問一落涙數行。小時申云。愚息景廉。爲二三州御共一。下二向
鎭西一。而去月自二周防國一。欲レ令レ渡二豐後國一給之刻。景廉沈二重病一。然而乘二病身於一葉之船一。猶爲二御共一之
由。申二送之一。則此狀也。凡奉二爲君一。臨二戰場一。入二萬死數一。於レ今者。亦被レ侵レ病。殆難レ免レ死歟。再不レ合
眼一者。老耄存命。甚無レ所レ據云云。武衛乍レ拭二御感涙一。覽二景廉之狀一。(和字)其趣常可レ候二御座右一之旨。
兼日雖レ奉二嚴命一。臨二天下重事之時一。猶不レ可レ留之由。思定候之間。愁以赴二西海一之處。病痾已及二危急一。縱雖レ
墜レ命。爲二國敵一被レ討之由。可レ被二思食准一候與之趣。可二披露一者。

三月大

一日。甲申。入レ夜。西國飛脚參著。合戰事與之由。成二推量一之間。鎌倉中諸人馳參云云。○二日。乙酉。去
夜飛脚者。澁谷庄司重國之使也。去正月。參州自二周防國一。被レ渡二豐後國一。最前渡海。討二補直一之由申レ之。
今日內藏寮領。山城國精進御薗事。止二給人景清妨一。可レ令二刑部丞信親領掌一之旨。武衛直令二下知一給云云。
○三日。丙戌。有二左馬頭義仲朝臣妹公一。是先日武衛御臺所有二御猶子之契一。而自二美濃一(一村有二御志一間在

國）上洛。募二御息女之威一。在京之間。蚜蟲之輩。多以屬レ之。捧二往日棄捐古文書一。寄二附不知行所所於件姫公一之後。又稱二其使節一。押二妨權門庄公（國）等一。此事。當時人庶之所レ愁也。既達二關東御遠聞一之間。號二之物狂（モノグルヒ）女房一。且停二止彼濫吹一。且可レ捕二進相順族一之由。今日被レ仰二遣近藤七國平一。并京畿內御家人等之許一。但於二御一族之中一。蚜濫人相交之條。依レ耻二世謗一給上。於二御書之面一。雖レ被レ載二物狂一〔之由〕潛有二隣愍御志一。可レ參二向關東一之趣。內內被二諫仰一云云。○四日。丁亥。爲レ鎭二畿內近國狼唳（戾）一。以二典膳大夫久經。近藤七國平一。爲二御使一被二差遣一己（之）訖。而猶在洛武士現二狼藉一之由。依レ令二聞及一給上。爲レ散二叡慮之恐一。被レ言二上其子細一云云。

武士之上洛候事者。爲レ令レ追二討朝敵一候也。朝敵不レ候者。武士又不レ可レ令二上洛一。武士又不レ令二上洛一者。不レ可レ致二狼藉一候歟。而敵人隔レ海之間。于レ今不レ遂二追討一。經廻之武士。國國庄庄。無二支度（シドケ）解一事。其間多候。仍〔被〕追討以後。可レ令二沙汰二〔直〕之由。雖二存思給候一。〔於〕近國者。〔且〕爲レ令二糺定一。使者二人所レ令二上洛一候也。其以前。不覺者候。只守二院宣一。相二副御使一。爲二廻行一計（許）候。不レ〔可〕然者。令二進退一候者。定似二自由之沙汰一候歟。募二頼朝威一。武士濫妨事。令二停止一候之許也。子細勤（勒〔イ〕同）狀。給二使者一候畢。以二此旨一。可下令レ申二沙汰一給上候。恐恐謹言。

三月四日　頼朝

謹上　藤中納言殿

○六日。己丑。景廉所勞事。武衛御歎息殊甚。仍景廉病痾事。尤可レ加二療養一。平愈之後者。早可二歸參一之由。可レ被二示付一之趣。被レ献二御書於參州一。亦被レ遣二慇懃御書於景廉一。被レ訪二仰病惱事一。剩被レ引二送御馬（御厩小鴾〔イ同〕鴾毛。景義〔茂〕進）一疋一。駕レ之可レ參〔之〕云云。因幡前司奉二行之一。○七日。庚寅。東大寺修造事。殊可レ抽二丹誠一之由。武衛被レ遣二御書於南都衆徒中一。又被レ送二奉加物於大勸進重源聖人一訖〔歟〕。所謂八木一萬石。沙金一千兩。上絹一千疋云云。

御書云

東大寺事。

右當寺者。破二滅〔被〕平家之亂逆一。遂逢二回祿之厄難一。佛像爲二灰燼一。僧徒及二沒亡一。積惡之至。比類少之者歟。殊以所二歎思給一也。於レ今者。如レ舊令レ遂二修複〔復イ同〕造營一。可レ被レ奉レ祈二鎭護國家一也。世縱雖レ及二澆季一。君於〔猶〕レ令レ施二舜德一者。王法佛法。共以繁昌候歟。御沙汰之條。法皇定思食知候歟。然而如二當時一者。朝敵追

討之間。依無他事。若令遲遲候歟。且又當寺事。可致丁寧之由。所令相存候也。仍勤（勒イ同）状如件。

三月七日　　前右兵衞佐源朝臣

○八日。辛卯。源廷尉義經飛脚。自西國參著。申云。去月十七日。僅率百五十騎。凌暴風。自渡部（ワタノベ）解纜。翌日卯剋。著于阿波國。則遂合戰。平家從兵。或被誅。或逃亡。仍十九日。廷尉被向屋嶋訖。此使不待其左右馳參。而於播磨國。顧後之處。屋嶋方黑煙聳天。合戰已畢。內裏以下燒亡無其疑云云。○九日。壬辰。參河守自西海被獻狀云。就爲平家之在所近近。相構著豐後國之處。民庶悉逃亡之間。兵粮依無其術。和田太郎兄弟。大多和二郎（次）。工藤一臈以下侍數輩。推而欲歸參之間。抂抑留之。相伴渡海畢。猶可被加御旨歟。次熊野別當湛增。依廷尉引級（汲イ同）。承追討使。去比渡讃岐國。今又可入九國之由有其聞。四國事者義經奉之。九州事者範賴奉之處。更又被抽如然之輩。匪啻失身之面目。已似無他之勇士。人之所思。尤爲耻云云。○十一日。甲午。被遣參州御返報。湛增渡海事。無其實之由被載之。又自關東所被差遣之御家人等。皆悉可被憐愍。就中。千葉介常胤不顧老骨。堪忍旅泊之條。殊神妙。拔傍輩可被賞翫者。凡於常胤大功者。生涯更不可盡報謝之由云云。

又北條小四郎殿。井小山四郎朝政。同五郎宗政。齊院次官親能。葛西三郎淸重。加藤次景廉。工藤一﨟祐經。宇佐美三郎祐茂。天野藤内遠景。仁田四郎忠常。比企藤内朝宗。同藤四郎能員。以上十二人中。被レ遣二慇懃御書一。各在二西海一。殊抽二大功一之故也。令三同心渡二豐後國一。神妙趣。所レ在二御感一也。伊豆駿河等國御家人。同可レ示三存此旨一之由云云。〇十二日。乙未。爲レ征二罰平氏一。兵船三十二艘。日來浮二于伊豆國鯉名奧一。并妻良津一。被レ納二兵粮米一。仍早可レ解レ纜之由。被二仰下一。俊兼。奉二行之一。〇十三日。丙申。對馬守親光者武衞御外戚也。在任之間。爲二平氏一被レ襲之由。依レ有二其聞一。可二迎取一之旨。今日被レ仰二遣參河守之許一。剰作二過書一。所レ被レ遣也。

下　西海山陽道諸國御家人

可レ令三早無二事煩一。勘二過對馬前司上道一事。

右。彼對馬前司。自二任國一所レ被二上道一也。諸國路次之間。無二事煩一。無二狼藉一。可レ令二勘過一之狀。所レ仰如レ件。以下

元曆二年三月十三日

前右兵衛佐源朝臣

〇十四日。丁酉。雨。南鬼窪小四郎行親。爲二使節一下二向鎭西一。被レ遣二御書於參州一。是追討可レ廻二遠慮一事。并賢所〔并〕寶物等無爲可レ奉二返入一事等。被レ載レ之云云。〇十八日。辛丑。於二南御堂一。番匠一人（字觀能）〔乎〕者誤而自二木屋上一落レ地。然而其身無二殊煩一。諸人成二奇異之思一。是偏實御所願叶二佛意一之故。以此男不レ及二死悶一。結終有レ恃之由。武衛御自愛再三云云。〇廿一日。甲辰。甚雨。廷尉爲レ攻二平氏一。欲レ發二向壇浦一之處。依レ雨延引。爰周防國在廳船所五郎正利。依レ爲二當國舟船奉行一。獻二數十艘一之間。義經朝臣與二書於正利一。可レ爲二鎌倉殿御家人一之由云云。〇廿二日。乙巳。廷尉促二數十艘兵船一。差二壇浦一解レ纜云云。自二昨日一。堅二乘船一廻二計一云云。三浦介義澄聞二此事一。參二會于當國大島津一。廷尉曰。汝已見二門司關一者也。今可レ謂二案内者一。〔然〕可二先登一者。義澄受レ命。進到二于壇濱奥津邊一。（去二平家陣一。三十餘町也）于レ時平家聞レ之。棹レ船出二彥島一。過二赤間關一。在二田浦一云云。〇廿四日。丁未。於二長門國赤間關壇浦海上一。源平相逢。各隔二三町一。艚二向舟船一。平家五百餘艘分二三手一。以二山峨兵藤次秀遠。并松浦黨等一。爲二〔大〕將軍一挑二戰于源氏之將帥一。及二午剋一。平氏終敗傾。二品禪尼持二寶劔一。按察局奉レ抱二先帝一。（春秋八歲）共以沒二海底一。建禮門院。（藤重御衣）入レ水御

之處。渡部黨源五馬允。以二熊手一奉レ取レ之。按察(大納言)局同存命。但先帝終不レ令レ浮(ウカバセタマハ)御一。若宮。(今上兄)者。御存命云云。前中納言(教盛號二門脇一)入レ水。前參議(經盛)出二戰場一。至二陸地一出家。立二還又沈一波底一。新三位中將。(資盛)前少將有盛朝臣等同沒レ水。前內府(宗盛)右衛門督(淸宗)等者。爲二伊勢三郞能盛一。被二生虜一。其後。軍士等亂二入御船一。或者欲レ奉レ開二賢所一。于レ時兩眼忽暗。而神心惘然。平大納言(時忠)加二制止一之間。彼等退去訖。是尊神別體。朝家惣持也。神武天皇第十代。崇神天皇御宇。恐二神威同殿一。被レ奉二鑄改一云云。朱雀院御宇。長曆年中內裏燒亡之時。圓規已雖レ虧。平治逆亂之時者。令レ移二師仲卿之袖一給。(其後奉レ入二新造櫃一。民部卿資長爲二藏人頭一。沙二汰之一)(○吉本ハ割註ニセズシテ「其後奉入櫃獻之。爲藏人頭民部卿資長沙汰云云」トアリ、下ノ濟季以下無シ)濟季之今。猶顯二神變一。可レ仰。可レ恃焉。○廿七日。庚戌。土佐國介良(ヒラヤ)庄住侶琳猷(リンユウ)(獻)(○下文猷ニ作ル)上人。參二上于關東一。是有レ功二于源家一者也。去壽永元年。武衛舍弟(兄)土佐冠者希義。於二彼國一爲二蓮池權守家綱一。被二討取一之時。欲レ曝二死骸於遐邇(シ)一。爰士人之中。自(尋〔イ〕ハ好)雖レ有二存忠之輩一。怖二平家後聞一。不レ及二葬禮沙汰一。而此上人。以二往日師壇(檀)(檀)一。垣田鄕內點二墓所一。訪二沒後一未レ怠。又取二幽靈鬢髮一。今度則懸レ頸所二參向一也。屬二于走湯山住僧良覺一。申二子細一之間。武衛有二御對面一。

以二上人之光臨一。用二亡魂再來一由。被レ盡二芳讃一云云。○廿九日。壬子。平氏追討事。武衞依レ被レ申。爲レ令レ勵二軍旅之功一。被レ下二院御下文於豐後國住人等之中一。是雖レ爲二先日事一。彼案文。今日所レ到二來關東一也。

院廳下　豐後國住人某等。

可下彌專二征伐一。遂二勳功一期中勸賞上事。

右。平家謀叛黨類。往二反四國邊嶋一。蔑二爾朝憲一之間。鎭西邊民。多入二鳥(烏同)合之群一。令レ致二狼唳之企一。而當國軍兵等。堅守二王法一。不レ與二兇醜一。遂艤二數船一。迎二取官軍一。可レ令レ服二從九國輩一之由。有二其聞一。殊以叡感。彌增銳兵。可レ令レ討二滅彼凶徒一也。各隨二其勳功一。依レ請可レ有二賞賜一也。當國大名等。宜下承知上。勿レ令二違越一者。所レ仰如レ件。故下。

元暦二年二月二日

四月小

四日。丁巳。平家悉以討滅之由。去夜。源廷尉(義經)使馳二申京都一。今日又。以二源兵衞尉弘綱一。註二傷死生虜之交名一。奉二　仙洞一云云。○五日。戊午。大夫尉信盛爲二　勅使一。赴二長門國一。征伐已顯二武威一。大功之至。

殊所二思食一也。又寶物等。無ㇾ爲可ㇾ奉ㇾ入之由。依ㇾ被ㇾ仰二義經朝臣一也。○十一日。甲子。未剋。南御堂柱立也。武衞監臨給。此間西海飛脚參。申二平氏討滅之由一。廷尉進二一卷記一。（中原信泰書ㇾ之云云）是去月廿四日。於二長門國赤間關海上一。浮二八百四十餘艘兵船一。平氏又艚二向五百餘艘一合戰。午剋逆黨敗北。

一　先帝沒二海底一御。

入ㇾ海人人。

二位尼上

門脇中納言（敎盛）　新中納言（知盛）

平宰相（經盛先出家也）　新三位中將（資盛）

小松少將有盛　左馬頭行盛

一　若宮並建禮門院。無爲奉ㇾ取ㇾ之。

一　生虜人人。

前内大臣。　平大納言。（時忠）

右衛門督、（清宗）　前內藏頭信基。（被ㇾ疵。）

左中將。（時實同上）　兵部少輔平尹明。

內府子息六歲童形。（字副將）

此外。

美濃前司則清。　民部大夫成良。

源大夫判官季貞。　攝津判官盛澄。

飛騨左衛門尉經景。　後藤內左衛門尉信康。

右馬允家村。

女房。

帥典侍。（先帝御乳母）、　大納言典侍。（重衡卿妻）

帥局。（二品妹）　按察局。（奉ㇾ抱二先帝一。雖ㇾ入ㇾ海水。存命。）

僧。

僧都全眞。　律師忠快。

法眼能圓。　法眼行明。（熊野別當）

爲ㇾ宗分交名。且如ㇾ此。此外男女生取事。追可二注申一。又內侍所神璽御坐。寶劒紛失。愚闇之所ㇾ覃。奉ㇾ搜二求之一。

藤判官代跪二御前一。讀二申此記一。因播守。并俊兼。筑前三郎等候二其砌一。武衛則取ㇾ之。自令ㇾ卷二持之一給。向二鶴岡方一令ㇾ座給。不ㇾ能ㇾ被ㇾ發二御詞一。柱立上棟等事終。匠等賜ㇾ祿。漸令ㇾ還二營中一給之後。召二使者一合戰間事。具被ㇾ尋二下之一云云。〇十二日。乙丑。平氏滅亡之後。於二西海一可ㇾ有二沙汰一條條。今日被ㇾ經二群議一云云。參（河）州暫住二九州一。沒官領以下事。可ㇾ令二尋沙汰ㇾ之。廷尉相二具生虜等一。可二上洛一之由。被ㇾ定云云。則雜色時澤（里）重長等。爲二飛脚一赴二鎭西一云云。〇十三日。丙寅。武藏國威光寺院主長榮。經廻（行）日夜不ㇾ怠。然平家滅亡畢。有二御感沙汰一之處。爲二小山太郎有高一。被ㇾ押二領寺領一之由。捧二去年九月所ㇾ給御下文一。所二訴申一也。仍今日被ㇾ經二沙汰一。帶二御下文一之上。失二其功一。成二濫妨一。非二能治之計一。如ㇾ元可二返付一之由。因播守廣元依ㇾ加二下知一。主計允行政。右馬允遠光。甲斐小四郎秋家。判官代邦通。筑前三郎孝尚等連署云云。〇十四日。

丁卯。大藏卿泰經朝臣使者參二著關東一。追討無爲。偏依二兵法之功一也。叡感少レ類之由。可レ申之趣。所レ被二院宣一也者。武衞殊譴悅給云云。今日。波多野四郎經家。（號二大友一）自二鎭西一歸參。是爲院次官親能之舅也。則召二御前一。令レ問二西海合戰間事一給云云。〇十五日。戊辰。關東御家人。不レ蒙二內擧一。無レ功勞。多以拜二任衞府所司等官一。各殊奇怪之由。被レ遣二御下文於彼輩之中一。件名字。載二一紙一。面面被レ注二加其不可一云云。

下　東國侍內任官輩中。

可レ令下停二止下一向中本國上。各在京勤二仕陣直公役上事。

副下　交名注文一通。

右。任官之習。或以二上日之勞一。賜二御給一。或以二私物一。償二朝家之御大事一。各浴二　朝恩一事也。而東國輩。徒抑二留庄薗年貢一。掠二取國衙進官物一。不レ募二成功一。自由拜任。官途之陵遲。已在レ斯。偏令レ停二止任官一者。無二成功之便一者歟。不レ云二先官當職一。於二任官輩一者。永停二城外之思一。在京可レ令レ勤二仕陣役一。已厠二　朝列一。何令レ籠二居哉。若違二令下一向二墨俣一以東一者。且各改二召本領一。且又可レ令レ申二行斬罪一之狀如レ件。

元曆二年四月十五日

東國住人任官輩事。

兵衛尉義廉。　鎌倉殿ハ。惡主也。木曾ハ吉主也ト申シテ。始レ父相二具親昵等一。令レ參二木曾殿一。ト(ヌシ)(イナンド)申テ。鎌倉殿祗(祗イ)候セバ。終ニハ落人ト被レ處ナントテ候シハ。何ニ令二忘却一歟。希有惡兵衛尉哉。

兵衛尉忠信。　秀衡(景)之郎等。令レ拜二任衛府一事。自往昔未レ有。計二涯分一。被レ坐ヨカシ。其氣ニテヤラン。是ハイタチ(猫)ニ(○怖)。ヲヅル。

兵衛尉重經。　御勘當ハ。粗被レ免ニキ。然者可レ令レ歸二府本領一之處。今ハ本領ニハ不レ被二付申(候カ)一之(シ)(イ)。(イジ)

澁谷馬允。　父在國也。而付二平家一。令二經廻一之間。木曾以二大勢一。攻入之時。付二(討)木曾一留。又判官殿御入京之時。又落參。度度合戰ニ。心ハ甲ニテ有バ。免二前(前)御勘當一。可レ被二召仕一之處。衛府シテ。被レ斬レ頸ズルハ。イカニ能用意頸(ニイ)(○鍛治)二語二加治一テ頸玉ニ厚ク可レ卷レ金也。(○吉本、「能用意シテ語テ加治、頸玉ヲ厚ク頸ニ可卷金也」トアリ)

小河馬允。　少少御勘當免テ。可レ有二御糸惜一之由。思食之處。色樣不レ吉。何樣(料)任官ヤラン。
ノ(イモ無シ)

兵衛尉基淸。　目ハ鼠眼ニテ。只可レ候之處。任官希有也。

馬允有經。　少少奴。木曾殿有二御勘當一之處。[少少]令レ免給タラハ。只可レ候ニ。(之)五位ノ補二馬
允一。未曾有事也。

刑部丞友景。　音樣シワガレテ。後髮サマデ刑部ガラナシ。

同男兵衛尉景貞(員)。　合戰之時。心甲ニテ有由聞食。仍可レ有二御糸惜一之由。思食之處。任官希有也。

兵衛尉景高。　惡氣色シテ。本自白者ト御覽ゼシニ。任官誠ニ見苦シ。

馬允時經。　大虛言計ヲ能トシテ。エシラヌ官好シテ。松双(婁)(〇一本揖婁)庄。云(者)不レ知。アハレ
水驛ノ人哉。惡馬細工シテ有(アレ)カシ。

兵衛尉季綱。　御勘當スコシ免レテ有ベキ處。無レ由任官哉。

馬允能忠。　同。

豐田兵衛尉。　色ハ白ラカニシテ。顏ハ不覺氣ナモノノ。只可レ候ニ。任官希有也。(又)父ハ於二下總一

度度有ㇾ召ニ不ㇾ參シテ。東國平ラゲラレテ後參。不覺歟。

兵衛尉政綱。

兵衛尉忠綱。　本領少少可ニ返給（賜）一之處。任官シテ。今ハ不ニ相叶一。嗚呼人（ヲコヒト）哉。

馬允有長。

右衛門尉季重。　久日（目イ）源三郎。顏ハフワフワトシテ。希有之任官哉。（○吉本割注ナシ）

〔左衛門尉景季　久日源三郎〕

縫殿助。　〔顏ハフワフワトシテ。希有之任官哉。〕

宮內丞舒國。　於ニ大井渡一。聲穢憶病氣ニテ。任官見苦事歟。

刑部丞經俊。　宮（官イ同）好無ニ其要用一事歟。アワレ無益事哉。

此外輩。其數雖ㇾ令ニ拜任一。文武官之間。何官何職。分明不ニ知食及一之故。委不ㇾ被ㇾ載ニ注文一。雖ニ此外一。

永可ㇾ令ㇾ停ニ止城外之思一歟矣。

右衛門尉友家。

兵衛尉朝政。

件兩人下二向鎭西一之時。於レ京令二拜任一事。如二駘馬之道草飡一。同以不レ可二下向一之狀如レ件。

○廿日。癸酉。今日。迎二伊豆國三島社祭日一。武衛爲レ果二御願一。被レ寄二附當國糠田郷於彼社一。而先レ之。御寄寄地三箇所有レ之。今已爲二四箇所一也。相二分之一。以二河原谷三薗一。募二六月廿日臨時祭料所一。被レ付二神主盛方一。(號二東大夫一)以二糠田長崎一。爲二八月放生會(二宮八幡宮)料所一。被レ付二神主盛成一。(號二西大夫一)是皆北條殿御奉。令二施行一給云云。○廿一日。甲戌。梶原平三景時飛脚。自二鎭西一參著。差二進親類一獻二上書狀一。始申二合戰次第一。終訴二廷尉不義事一。其詞云。

西海御合戰間。吉瑞多レ之。御平安事。兼神明之所レ示レ祥也。所以者何。先三月廿日。景時郎從海太成光夢想〔ニ〕。淨衣男捧二立文一〔テ〕來。是石淸水御使〔覺カト〕覺。披見之處。平家〔ハ〕未〔ノ〕日可レ死〔ト〕載タリ。覺之後。彼男相語。仍未日。相搆テ可レ決二勝負一之由。存思之處。果而如レ旨。又攻二落屋嶋一戰場之時。御方軍兵不レ幾。而數萬勢。マボロシニ出現〔シ〕テ。敵人〔ニ〕見云云。次去年。長門國合戰之時。大龜一出來。始浮二海上一。後ニハ昇レ陸。仍海人恠レ之。參河守殿御前〔ニ〕持參。以二六人

力一。猶持煩之程也。于レ時可レ放二其甲一之由。相儀之處。先レ之有二夢之告一。忽具合。［トテ］參河守殿加二制禁一。剰付レ［于］箭テ被二放遣一畢。然臨二平氏最後一。［ニ］件鎧再浮二出于源氏御船前一。（以レ簡知レ之）次白鳩二羽。翻二舞于船屋形上一。當二其時一。平氏宗人人。入二海底一。次周防國合戰之時。白旗一流。出二現于中虚一。暫見二御方軍士眼前一。終［ニ］收二雲膚一畢。［云云］

又曰。

判官殿。爲二君御代官一。副二遣御家人等一。被レ遂二合戰一畢。而頻雖レ被レ存二一身之功由一。偏依二多勢之合力一歟。謂多勢。每レ人不レ思二判官殿一。志奉レ仰レ君之故。勵二同心之勳功一畢。仍討二滅平家一之後。判官殿形勢。殆超二過日來之儀一。士奉之所レ存。皆如レ踏二薄氷一。敢無二眞實和順之志一。就中景時爲二御所近士一。憖伺二知嚴命一之間。每レ見二彼非據一。可レ達二關東御氣色一歟之由。諫申之處。諷詞還爲二身之讎一。動招レ刑者也。合戰無爲之命。祗候無レ所レ據。早蒙二御免一。欲二歸參一云云。

凡和田小太郎義盛。與二梶原平三景時一者。侍別當所司也。仍被レ發二遣舍弟兩將於西海一之時。軍士等事。爲レ令二奉行一。被レ付二義盛於參州一。被レ付二景時於廷尉一之處。參州者。本自依レ不レ乖二武衛之仰一。大少事示二合于常

亂。義盛等一。廷尉者。掠二自專之儀一。曾不レ守二御旨一。偏任二雅意一。致二自由張行一之間。人之成レ恨。不レ限二景時一云云。○廿四日。丁丑。賢所神璽。令レ著二今津邊一御。仍頭中將通資朝臣參二其所一。入レ夜。藤中納言（經房）宰相中將（泰通）權右中辨兼忠朝臣。左中將公時朝臣。右少將範能朝臣。藏人左衛門權佐親雅等。參二向桂河一。大渡之後。經二朱雀大路幷六條一。自二大宮一。入二御待賢門一。渡二御官朝所一。（經二東門一）此間。大夫判官義經著レ鎧供奉。候二官東門一。[看]督長著二布衣一。取二松明一在レ前云云。又賴範朝臣。（其身在二九州一）辭二參河國司一。其辭状。今日到二著于關東一。親能。執二達之一。仍可レ有二院奏一云云。○廿六日。己卯。近年兵革之間。武勇之輩耀二私威一。於二諸庄薗一。致二濫行一歟。依レ之。去年春之比。宜レ令二停止一之由。被レ下二綸旨一訖。而關東。以二實平景時一。被レ差二定近國惣追捕使一之處。於二彼兩人一者。雖レ存二廉直一。所二補置一之眼代等。各有二猥所行一之由。漸懷二人之訴一。就レ之早可レ令二停止一之旨。所レ被レ成二御下文一也。俊兼奉二行之一云云。

下　畿内近國實平押領所所。

可レ令下早任二　院宣状一。停中止實平濫妨知行上事。（知行濫妨イ）

右畿内近國庄公。無二指由緒一。寄以押領。各代官輩。偏居二住郡内一。不レ随二平家預所下知一。忽二緒國宣　廳

催。或掠取年貢。或犯用官物。所行之至。尤以不當事也。於今者。早隨被下 院宣。不論是非。
令退出境内之後。帶理者。追可令言上子細之狀如件。以下。

元暦二年四月廿六日。

（〇以下。今日前内府云云マデノ間吉本ナシ）

下 畿内近國景時押領所所。

可令早任 院宣狀。停止景時濫妨知行事。

右畿内近國庄公。無指由緒。恣以押領。各代官輩。偏居住郡内。不隨平家預所下知。忽諸國宣 廳催。或掠取年貢。或犯用官物。所行之至。尤以不當事也。於今者。早隨被下 院宣。不論是非。令退出境内之後。帶理者。可令言上子細之狀如件。以下。

元暦二年四月廿六日

今日前内府已下生虜。依召可入洛之間。法皇爲御覽其體。密密被立御車於六條坊城云云。申剋各入洛。前内府。（〇宗盛）平大納言〔中〕。（〇時忠）（各駕八葉車。上前後簾。開物見云云）右衞門督。（〇淸宗）（乘父車後。各淨衣。立烏帽子）土肥二郎實平。〔次〕（黒糸威鎧）在車前。伊勢三郎能盛。（肩白赤威鎧）在

同後其外勇士。相具之。又美濃前司以下同相具之。信基時實等者。依被用開路云云。皆悉入廷尉六條室町第云云。同日則有罪狀定。前內府父子并家人等。可被處死罪之由。明法博士章貞。進勘文云云。（〇以下吉本ニハ今日近江云云マデ缺ク）〇廿八日。辛巳。建禮門院渡御于吉田邊。（律師實憲坊）又若宮。（今上兄）御坐船津之間。侍從信淸。令參向。奉迎之。奉入七條坊門亭云云。今日近江國住人前出羽守重遠參上。是累代御家人也。齡八旬云云。武衛哀其志。召御前。舍弟十郎。并僧蓮仁等加扶持。重遠申云。平治合戰之後。存譜代好之間。終不隨平家之威權。送廿餘年訖。適逢御執權之秋。可開愁眉之處。還爲在京之東士等。稱兵粮。號番役。譴責之條。太以難堪。凡一身之訴。及諸人之愁。平氏之時。曾無此儀。世上未收斂云云。申狀之趣。尤叶正理之由。有御感。仍停止如然濫妨。可令成安堵思之旨。直有恩裁云云。又國中訴詔（〇訟）事。可有御沙汰之由云云。〇廿九日。壬午。雜色吉枝。爲御使。赴西海。是所被遣御書於田代冠者信綱也。廷尉者。爲關東御使。相副御家人。被差遣西國之處。偏存自立之儀。〔云云〕以侍等成私服仕思之間。面面有恨云云。所詮於向後者。存志於關東之輩者。不可隨廷尉之由。內內可相觸云云。今日以備中國妹尾鄕。被付崇德院法

華堂一。是爲二沒官領一武衞所レ令二拜領一給也。仍爲レ奉レ資二彼御菩提一。被レ宛二衆僧供料一云云。

五月小

一日。癸未。故伊豫守義仲朝臣妹公。(字菊)宮 自二京都一參上。是武衞令二招引一給之故也。御臺所殊愍給。先日所所押領由事。餘曲之族。假レ名立レ面之條。全不レ知二子細一之旨。陳謝云云。豫州爲二朝敵一。雖レ預二討罰一。無レ指二雜意一之女姓。盍レ憐レ之乎云云。仍所レ賜二美濃國遠山庄內一村一也。又武衞被レ遣二御書於左兵衞佐局一。是 崇德院法華堂領新加事也。去年以二備前國福岡庄一。被二寄進一之處。牢籠之間。取二替之一。被レ進二妹尼一畢。爲二供佛施僧之媒(謀)一。可レ被レ奉レ訪二御菩提一之趣被レ載レ之。件禪尼者。武衞親類也。當初爲二彼 院御寵女一(也)云云。今日建禮門院令二落餝一御(タマフ)云云。○二日。甲申。土左上人琳猷歸國。令レ止二住關東一。可レ掌二一寺別當職一之由。頻雖二抑留給一。於二土左冠者墳墓一。可レ凝二佛事一之旨。申請之間。有二御餞別會一。又上人住所弁良庄。恒光名。潭(澤)崎在家。被レ停二止萬雜事(マンザフジ)一畢。加之。此上人依レ訪二故希義主夢後一。爲レ酬二其志一。可二賞翫一之趣。被レ仰二土左國住人等一云云。○三日。乙酉。木曾妹公事。所レ被レ加二御扶持一也。可レ奉レ憐之趣。被レ仰二付于小諸太郎光兼以下信濃國御家人等一云云。是信州者。如二木曾分國一。號(○兮カ)住人皆蒙二彼恩顧一之故也云云。○四日。

丙戌。梶原平三景時使者。還二于鎭西一云々。仍被レ付二御書一。被レ勘二發廷尉一訖。於レ今者不レ可レ從二彼下知一。但平氏生虜等已入洛云々。是當時重事也。罪名治定之程。景時已下御家人等。皆一レ心而可レ令二守護一。各任レ意不レ可レ令二歸參一之由云々。○五日。丁亥。爲レ可レ奉レ尋二寶劔一之。以二雜色一。爲二飛脚一。下二知參州一。凡至二于冬比一。住二九州一。諸事可レ被二沙汰鎭一者。且以二其次一。澁谷庄司重國。今度豐後合戰。討二加摩田兵衛尉一。神妙之由。被二感仰遣一。又所レ被レ付二置于參州一之御家人等事。縱乖二所存一者。雖二相交一。私不レ可レ加二勘發一。可レ訴二申關東一之由云々。去年之比。爲二追討使一。二人舍弟。(範頼。義經)蒙二 院宣一訖。爰參州入二九國一之間。可レ管二領九州一之事。廷尉入二四國一之間。又可レ支二配其國國事一旨。兼日被レ定處。今度廷尉遂二壇浦合戰一之後。九國事悉以奪二沙汰之一。所二相從一之東士事。雖レ爲二小過一。不レ及レ免レ之。又不レ申二子細於武衛一。只任二雅意一。多加二私勘發一之由。有二其聞一。綷已爲二諸人愁一。科又難レ被レ宥。仍廷尉蒙二御氣色一先畢云々。今日小山七郎朝光。自二西海一歸參。○六日。戊子。公家爲二追討報賽一。被レ發二遣廿二社奉幣使一。上卿右大將(良經)奉行辨兼忠朝臣云々。○七日。己丑。源廷尉使者(號二龜井六郎一)自二京都一參著。不レ存二異心一之由。所レ被レ獻二起請文一也。因播前司廣元。爲二申次一。而三州者。自二西海一。連連進二飛脚一。申二子細一。於レ事無二自由[之]張行一

之間。武衛又被通懇志。廷尉者。動有自專計。今傳聞氣色不快之由。殆及此儀之間。非御許容之限。還爲御忿怒之基云云。○八日。庚寅。因播前司。大夫屬入道。筑後權守。主計允。筑前三郎等參會。鎭西事等。被經其沙汰。早可令施行之。俊兼。奉之。其條條。

一　宇佐大宮司公房。日來雖致平家祈禱。依御敬神。如元可管領宮務事。

一　同宮祠官等。可浴御恩事。

一　去年依合戰事。當宮神殿破損云云。殊加造營。可奉解謝由。可啓白事。

一　平家沒官領外。貞能幷盛國法師等。得領家免有知行所所由風聞。可注申其在所事。

一　可召上美氣大藏大夫（過言參州者也）於關東事。

一　所被遣鎭西之御家人等。鹽谷五郎以下。多以歸參訖。遣御使。被止向後參上。可沙汰鎭西海事。

一　西國御家人交名。仰義盛可令注進事。

○九日。辛卯。澁谷五郎重助。不預關東御擧。令任官事。可被申止召名之旨。重有沙汰。是父重國

石橋合戰之時。雖レ奉レ射二武衞一。依二寬宥之儀一。被レ召二仕之處。重助者。猶令レ屬二平家一。背二度度召一畢。而平
家赴二城外一之日。留二京都一。從二義仲朝臣一。滅亡之後。爲二廷尉專一之者一。條條科。被レ優二精兵一事一之處。結
句令二任官一訖(訛)。旁不レ可レ然之由。有二其沙汰一。今度重國又渡二豐後國一之時者。雖レ有二先登之功一。先三立于參州一。
上洛之條。同以不快。則被レ仰三遣此條條一云云。又原田所知者。可レ被レ分三宛于勳功輩一之由。被レ仰三遣參州一
云云。○十日。壬辰。於二志摩國麻生浦一。加藤太光員郎從等。搦三取平氏家人上總介忠淸法師一。傳二京師一云云。
○十一日。癸巳。依下被レ召三進前內府一之賞上。武衞去月廿七日敍二從二位一給。除書今日到著。左典廐。（能保）
所レ被二執進一也。近日可二參向一之由被二申送一云云。○十二日。甲午。雜色常遍。爲二使節一。赴二鎭西一。所レ被レ
遣二御書於參州一也。西國事。方方御下文等。被レ付二此靑鳥(セイテウコ)一云云。○十五日。丁酉。廷尉使者（景光）參著。
相三具前內府父子一。令二參內一云。去七日出京。今夜欲レ著二酒勾驛一。明日可レ入二鎌倉一之由申レ之。北條殿爲二御
使一。令レ向二酒勾宿一給。是爲レ迎三取前內府一也。被レ相三具武者(衛)所宗親。工藤小次郎行光等一云云。於二廷尉一者。
無二左右一不レ可レ參二鎌倉一。暫逗三留其邊一。可レ隨レ召之由。被二仰遣一云云。小山七郎朝光。爲二使節一云云。○十
六日。戊戌。忠淸法師。於二六條河原一梟首云云。今日前內府入二鎌倉一。觀者如二堵(垣)牆一。內府用レ輿。金吾乘レ馬。

家人則淸。盛國入道。季貞。(以上前廷尉)盛澄。經景。信康。家村等。同騎馬相從之。經若宮大路。至橫大路。暫扣輿。宗親先參入。申〔入〕事由。則被仰可招入營中之旨。仍以西對。爲彼父子之居所。入夜。因州奉仰。雖羞膳。內府敢不用之。只溺愁淚之外無他云云。此下向事。并同父子及殘黨罪條條事。二品屬經房卿被奏聞之處。有其沙汰。而招下文可被行〔死罪〕之旨。勅許既畢。但於時忠事者。可被寬死罪一等之由。是內侍所無爲御歸坐者。依彼卿功之故云云。○十七日。己亥。卯剋左典廐(能保。去七日與廷尉同日出京)到著。直被入營中。昨日極熱之間。聊有霍亂之氣。逗留之由被申之云云。昨日左典廐侍後藤新兵衛尉基淸僕從。與廷尉侍伊勢三郎能盛下部鬪亂。是能盛沙汰餉之間。基淸馳〔過〕彼旅館之前。其後所令持旅具之疋夫等。進行之處。能盛引馬。踏基淸之所從。仍相互及諍論。此間。基淸所從。取刀。切件馬鞦手綱奔行。能盛。聞此事。馳出。竹根引目。射所殘之疋夫。彼等令叫喚馳騷。基淸又聞之迴駕。與能盛欲決雌雄。典廐頻抑留之。被發使者於廷尉之許。廷尉又被相鎭之無爲云云。此事典廐强雖不訴申。自達二品聽。能盛下部等成驕之條奇恠之由。御氣色甚云云。○十九日。辛丑。京畿群盜等蜂起。敢難禁之間。可相鎭之子細。今日被經沙汰。先平氏家

人等中。遁二出戰場一之族。令レ閑二散本在所一。猶知二行田園一。剰横二行都鄙一。爲レ事二盜犯一云云。次近日遠江國居住御家人等。以二武威一。恣令二内奏一。或申二下　院宣一。或掠二取國司領家等下文一。貪二地利一。欠二公平一云云。次。伊豆守仲綱男。號二伊豆冠者有綱一者。爲二廷尉聟一。多掠二領近國庄公一云云。此條條事。（〇以下吉本缺ク）依レ有二其聞一。殊經二奏聞一。悉以可レ令二糺斷一之由。被レ定云云（〇以上缺）〇廿一日。癸卯。雷雨。即屬レ晴。晩涼甚。一品相二伴左典廐一。渡二御南御堂地一。巡二見造營之體一。令レ談二合堂舍在所等一給云云。又南都大佛師成朝。依二御招請一參向。是爲レ造二立此御堂佛像一也。〇廿三日。丁（乙）巳。參河守（範頼）受二三品之命一。爲二對馬守親光迎一。可レ遣二船於對馬嶋一之處。親光。爲レ遁二平氏攻一。三月四日。渡二高麗國一云云。仍猶可レ遣二高麗一之由。下二知彼嶋在廳等一之間。今日既遣レ之。當嶋守護人河内五郎義長。同送二狀於親光一。是平氏悉滅亡訖。不レ成二不審一早可レ令二歸朝一之趣。載レ之云云。〇廿四日。戊午。源廷尉（義經）如レ思平二朝敵一訖。剰相二具前内府一。參上。其賞兼不レ疑之處。日來依レ有二不儀之聞一。忽蒙二御氣色一。不レ被レ入二鎌倉中一。於二腰越驛一。徒渉レ日之間。愁欝之餘。付二因播（幡イ同）前司廣元一。奉二一通歎（數）狀一。廣元雖レ披二覽之一。敢無二分明仰一。追可レ有二左右一之由云云。彼書云

左衛門少尉源義經。乍レ恐申上候。意趣者。被レ撰二御代官其一一。爲二 勅宣之御使一。傾二 朝敵一。顯二累代弓箭之藝一。雪二會稽耻辱一。可レ被二抽賞一之處。思外依二虎口讒言一。被レ默二止莫太之勳功一。義經無レ犯而蒙レ咎。有レ功雖レ無レ誤。蒙二御勘氣一之間。空沈二紅涙一。倩案二事意一。良藥苦レ口。忠言逆レ耳。先言也。因レ茲。不レ被レ糺二讒者實否一。不レ被レ入二鎌倉中一之間。不レ能レ述二素意一。徒送二數日一。當二于此時一。永不レ奉レ拜二恩顏一。骨肉同胞之儀既似レ空。宿運之極處歟。將又感二先世之業因一歟。悲哉。此條。故亡父尊靈不二再誕給一者。誰人申二披愚意之悲歎一。何輩垂二哀憐一哉。事新申狀。雖レ似二述懷一。義經受二身體髮膚於父母一。不レ經二幾時節一。故頭殿御他界之間。成レ孤〔無實之子〔イ同〕〕被レ抱二母之懷中一。赴二大和國宇多郡龍門牧一〔之〕以來。一日片時不レ住二安堵之思一。雖レ存下無二甲斐一之命〔許〕上。京都之經廻難治之間。令レ流二行諸國一。隱二身於在在所所一。爲レ栖二邊土遠國一。被レ服二仕土民百姓等一。然而幸慶忽純熟而。爲二平家一族追討一。令二上洛一之手合。誅二戮木曾義仲一之後。爲レ責二傾平氏一。或時峨峨巖石策二駿馬一。不レ顧レ爲レ敵亡レ命。或時漫漫大海。凌二風波之難一。不レ痛下沈二身於海底一。懸中骸於鯨鯢之鰓上。加之爲二甲冑於枕一。爲二弓箭於業一。本意併奉レ休二亡魂憤一。欲レ遂二年來宿望一之外。無二他事一。剩義經補二任五位尉一之條。當家之面目。希代之重職。何事加レ之哉。雖レ然今愁深

歎切。自ㇾ非二佛神御助一之外者。爭達二愁訴一。因ㇾ茲以二諸神諸社牛王寶印之裏一。〔全〕不ㇾ挿二野心一之旨。奉ㇾ請二驚日本國中大小神祇冥道一。雖ㇾ書二進數通起請文一。猶以無二御宥免一。我國神國也。神不ㇾ可ㇾ稟二非禮一。所ㇾ憑非二于他一。偏仰二貴殿廣大之御慈悲一。伺二便宜一。令ㇾ達二高聞一被ㇾ廻二秘計一。被ㇾ優二無ㇾ誤之旨一。預二芳免一者。及二積善之餘慶於家門一。永傳二榮花於子孫一。仍開二年來之愁眉一。得二一期之安寧一。不ㇾ書二盡愚詞一。併令二省略一候畢。欲ㇾ被ㇾ垂二賢察一。義經恐惶謹言。

元暦二年月五日　　左衛門少尉源義經

進上　因幡前司殿

○廿五日。丁未。被ㇾ差二遣雜色六人於與膳大夫近藤七等之許一。是畿內雜訴成敗之間。久經三人。國平三人。可ㇾ召二仕之由。所ㇾ被二仰付一也。以二此次一。京畿之間。可ㇾ致二沙汰一條條。被ㇾ遣二御事書（コトガキ）一。其間。久經不ㇾ可ㇾ耽二人之賄一。國平不ㇾ可ㇾ現二僻事一之趣。被ㇾ載二加之一云云。○廿七日。己酉。源藏人大夫頼兼申云。去年十八日。盜人令ㇾ推二參禁裏一。盜二取晝御座御劍一。藏人并女官等動搖求ㇾ之。頼兼家人武者所久實。追二奔于左衛門陣之外一。生二虜之一。奉ㇾ返二置御劍於本所一。件犯人。被二搦取一之時。欲二自殺（殺イ同）一之間。已半死半生之由。只今有二

其告一云云。如レ然之勇士。殊可レ被レ加レ賞之由。二品被二感仰一。則取二出劍一。稱レ可レ與二彼男一。賜二賴兼一。此人
御氣色快然云云。

六月大

二日。癸丑。去月廿日。被レ下二配流官府一。上卿源中納言(通親)參陣。頭辨光雅朝臣仰レ之云云。其交名目錄。今日到二著鎌倉一。流人。

前大納言時忠(能登)　前內藏頭信基(備後)
前左中將時實(周防)　前兵部權少輔尹明(出雲)
法印大僧都良弘(阿波)　權少僧都全眞(安藝)
權律師忠快(伊豆)　法眼能圓(備中)
法眼行明(常陸)

○五日。丙辰。囚人前廷尉季貞子息。有二源太宗季者一。(後日爲二頼見冠者光長猶子一。改二宗長一。)爲レ見二季貞存亡一。密密下向。是弓馬傳レ藝。剩作(ハグ)レ矢達者也。受二矢野橋內所所口傳一云云。上總國飯富(ヨフ)庄者。爲二外戚傳領一

之間。有二其便一。當國住人中禪寺奧次郎弘長。爲二知音一也。宗季作レ矢之由。弘長申レ之也。二品被レ仰下可レ賞二其堪否一之由上。仍今日宗季作三獻野箭一腰一。相二叶御意一之間。可レ列二御家人一之由。被二仰出一云云。又被レ加二石清水神領一云云。

奉レ寄　八幡宮神領壹處。

在二阿波國三野田保一者。

右件保。〔者〕所レ奉レ寄二當宮神領一也。早爲二少別當任賢沙汰一。知三行保務一。爲二祈禱一。以二所當物一。可レ令二神事用途一之狀。〔如件〕（○吉本衍カ）奉レ寄如レ件。

元暦二年六月五日　　前右兵衛佐源朝臣賴朝

○七日。戊午。前內府近日可レ歸洛一。可下面謁上歟之由。被レ仰二合因幡前司一。是本三位中將下向之時。對面給之故也。而廣元申云。今度儀。不レ可レ似二以前之例一。君者鎭二海內濫刑一。其品已叙二二品一給。彼者過爲二朝敵一。無レ位囚人也。御對面之條。還可レ招二輕骨之謗一云云。仍被レ止二其儀一。於二簾中一覽二其體一。諸人群參。頃之。前內府。（著二淨衣立烏帽子一。）出二于西侍障子之上一。武藏守。北條殿。駿河守。足利冠者。因幡前司。筑後權

守。足立馬允等。候二其砌一。二品以二比企四郎能員一。被レ仰云。於二御一族一。雖レ不レ存二略宿意一。依レ奉二勅定一爲二追討使一之處。輙奉レ招二引邊土一。且雖レ恐思給一。尤欲レ備二弓馬眉目一者。能員蹲二踞内府之前一。述二子細一之處。内府動レ座。頗有二諂諛之氣一。被レ報申一之趣。又不二分明一。只令レ救二露命一給者。遂二出家一。求二佛道一之由云云。是爲二將軍四代之孫一。武勇稟レ家。爲二相國第二之息一。官祿任レ意。然者不レ可レ憚二武威一。不レ可レ恐二官位一。何對二能員一。可レ有二禮節一哉。死罪更非レ可レ被レ優二于禮一歟。觀者彈指云云。○九日。庚申。廷尉。此間逗二留酒勾邊一。今日相二具前内府一歸洛。二品差二橋馬允。淺羽庄司。宇佐美平次已下壯士等一。被レ相二副因人一矣。廷尉日來所存者。令レ參二向關東一者。征二平氏一間事。具預二芳問一。又被レ賞二大功一。可レ達二本望一歟之由。思儲之處。忽以相違。剰不レ遂二拜謁一。而空歸洛。其恨已深二於古恨一云云。又重衡卿。自二去年一。在二狩野介宗茂之許一。今被レ渡二源藏人大夫頼兼一。同以進發。任二衆徒申請一。可レ被レ遣二南都一云云。○十三日。甲子。所レ被レ分二宛于廷尉一之平家沒官領二十四箇所。悉以被レ改レ之。因幡前司廣元。筑後守俊兼等奉二行之一。凡謂二廷尉勳功一者。非二一品御代官一。不レ被レ差二副御家人等一者。以二何神變一。獨可レ退二凶徒一哉。而偏爲二一身大功一之由。廷尉自稱。剰今度及二歸洛之期一。於二關東一成レ怨之輩一者。可レ屬二義經一之旨吐レ詞。縱雖レ令レ違二背予一。爭不レ憚二後聞一乎。所

存之企。太奇怪之由。忿怒給。仍如此云云。○十四日。乙丑。參河守範頼。并河內五郎義長等。受二品命。渡使者於高麗國之間。對馬守親光。歸著彼嶋云云。是去去年。自當嶋欲上洛之折節。平家零落于鎮西之間。路次依不通。不能解纜。猶以在國之處。爲中納言知盛卿并少貳種直等奉行。可令參屋嶋之由。及其催。九州二島中國等。皆雖從于平家之方。親光猶運志於源家之間。不行向。仍三箇度被遣追討使。所謂高二郎大夫經直(種直家子)兩度。拒押使宗房(種益郎等)一箇度也。此輩頻下國。或知行國務。或及合戰。雖存命之間。凌風波。去三月四日。令越渡高麗國之時。相伴妊婦。仍構假屋於曠野之邊產生。于時猛虎竊來。親光郎從射取之訖。高麗國主感此事。賜三箇國於親光。已爲彼國臣之處。有此迎歸朝。件國主殊惜其餘波。與重寶等。納三艘貢船。副送之云云。○十六日。丁卯。典膳大夫。近藤七等。爲關東御使。帶院宣。巡撿畿內近國。成敗士民訴詔。然間。當時其誤不聞。二品。內內被感仰之處。尾張國有玉井四郎助重云者。本自爲先猛惡。令懷諸人愁之由。謳歌。近日。殊又有違勅之科。仍件兩人。爲尋沙汰。雖遣召文。敢不應。還及謗言。于時久經等。言上子細之間。爲俊兼奉行。今日被仰助重云。違背綸命之上者。不可住日域。依令忽緒關東。不可參

鎌倉。早可逐電云云。○十八日。己巳。池亞相（賴盛）使者到著。去月廿九日。於東大寺邊。任素懷。遂出家（法名重蓮）之由。被申之。兼日所被申合品也。〔云云〕○廿日。辛未。天陰。夜半大地震。一時中動搖及數度。筑前國香椎社。前大宮司公友。忽背領家命。致濫行。抑留造替遷宮之儀。加之莫身作爲前司。掠而行社務。早可被行罪科之由。社官等日來訴申關東。仍今日追却其身。可遂行遷宮。若不承引。遣別御使。任法可致沙汰之旨。令下知給。俊兼奉行之。○廿一日。壬申。卯尅。廷尉著近江國篠原宿。令橘馬允公長。誅前内府。次至野路。〔口〕以堀彌太郎景光。梟前右金吾。（淸宗）此間。大原本性上人。爲父子知識。被來臨于其所所。兩客共歸上人敎化。忽翻怨念。住欣求淨土之志云云。又重衡卿。今日被召入花洛云云。抑前内府。（宗盛公）者。其身備公家御外戚。其官昇槐門内相府也。然而　朝敵罪名。無據于宥歟。粗訪前蹤。成務天皇御宇三年正月。武内宿禰始任大臣。　天智天皇七年十月十三日。大織冠始任内大臣。（武内與大織冠。中間。大臣十六人歟）給以降。至于此内府。昇件職之臣一百三十三人。（此内於内大臣者。九人歟）其中非無逢殃之例歟。所謂　用明天皇二年。（四月九日。帝崩御）七月日。上宮太子（于時十六歲）誅大臣守

屋一。皇極天皇（舒明天皇后）三年甲辰六月。於二大極殿一。誅二大臣入鹿一。（大臣蝦夷子）　天武天皇元年七月廿二日。太政大臣大友皇子。怖二叛逆過一。自殺。同八月廿七日。　帝誅二右大臣金連一。同年左大臣赤兄配流。　孝謙天皇御宇天平寶字元年（丁酉）七月二日。右大臣豐成被レ遷二大宰權帥一。同八年甲辰九月十九日。誅二大臣正一位仲麿一。（號二惠美一）　桓武天皇御宇延暦元年壬戌六月。左大臣（魚名）左遷。　醍醐天皇御宇昌泰四年辛酉二月廿五日。右大臣（菅原公）遷二大宰權帥一給。　冷泉天皇御宇安和二年己巳三月廿六日。左大臣（高明）配二同官一。（西宮）　一條天皇御宇。長德二年丙申四月廿四日。內大臣伊周。又左二遷帥一。　高倉院御宇治承三年己亥十一月十七日。太政大臣師長。配二尾張國一等。是也。○廿二日。癸酉。重衡卿。被レ遣二東大寺一。依二衆徒申請一也。○廿三日。甲戌。前內大臣幷右衛門督淸宗等首。源廷尉家人等。持二向六條河原一。檢非違使大夫尉知康。六位尉章貞。信盛。公朝。志明基。府生經廣。兼康等。莅二其所一。請二取之一。懸二獄門前樹一矣。此事。頭右大辨光雅朝臣參陣。仰二別當一。（家通）別當仰二頭辨一。頭辨傳二太夫史一。隆職。隆職。傳二廷尉知康一云云。今日前三位中將重衡。於二南都一。刎レ頸云云。是爲二伽藍火災張本一之間。衆徒族申二請之一云云。○廿五日。丙子。佐佐木三郞成綱者。平家在世之程者。奉レ背二源家一。於レ事現二不忠一。而彼氏族城外之後。奉二追從一。

遂二去年一谷合戰一。子息俊綱。討二取越前三位通盛一訖。仍雖レ望二其賞一。令レ惡二先非一給之間。敢無二御許容一之處。屬二待從公佐朝臣一。頻依レ愁二申之一。募二子息之功一。本知行所者。可レ被二沙汰付一之由。有二御契約一云云。

七月小

二日。癸未。橘右馬允。淺羽庄司等。自二京都一歸參。去月廿一日。前内府父子梟首事。同廿三日。被レ遣二彼首於獄門一。被レ渡二重衡於南都一事等。具申レ之云云。〇七日。戊子。前筑後守貞能者。平家一族。故入道大相國專一腹心者也。而西海合戰。不レ敗以前逐電。不レ知二行方一之處。去比忽然而來二于宇都宮左衛門尉朝綱之許一。平氏運命縮之刻。知二於其時一。遂二出家一。遁二彼與同罪一訖。於レ今者。隱二居山林一。可レ果二往生素懷一也。但雖二山林一。不レ蒙二關東免許一者。難レ成レ之。早可レ申二預此身一之由懇望云云。朝綱則啓二事由一之處。平氏近親家人也。爲二降人一之條。還非レ無二其疑一之由。有二御氣色一。隨而無二許否之仰一。而朝綱强申請云。屬二平家一。在京之時。聞下擧二義兵一給事上。欲二參向一之刻。前内守不レ免レ之。爰貞能。申二宥朝綱并重能。有重等一之間。各全レ身參二御方一。攻二怨敵一畢。是啻匪レ思二私芳志一。於レ上又有レ功者哉。後日若彼入道有下企二反逆一事上者。永可下令レ斷二朝綱子孫一給上云云。仍今日。有二宥御沙汰一。所レ被レ召二預朝綱一也。〇十二日。癸巳。鎭西事。且止二武

士自由狼藉一。且顛倒之庄園如レ舊。附二國司領家一。爲レ全二乃貢一。早申二下　院宣一。行向可レ遂二巡撿一之由。被レ仰二久經國平等一云云。亦平家追討之後。任二其命一。廷尉者則歸洛。參州［者］于レ今在二鎭西一。而以下管輿等。有二狼藉一之由上。自二所所一。有二其訴一。早可レ召二上件輩一之旨。雖レ被レ仰二下之一。菊池。原田以下。同二意平氏一之輩。掠領事。令下被二朝臣一尋究上之由。二品令二言上一給之間。範賴事。神社佛寺以下領不レ成レ妨者。雖レ不二上洛一。有二何事一哉。急上洛可レ有二後悔一者。可二相計一之趣。重被レ下二　院宣一之間。平家沒官領。種直。種遠。秀遠等所領。原田。板井。山鹿以下所處事。被レ定二補地頭一之程者。差二置沙汰人一。心靜可レ被二歸洛一之由。今日所レ被レ仰二遣參州之許一也。○十五日。丙申。神護寺文學房。以二關東潤色一。得二院奏之便一。去正月廿五日。捧二發起狀一。申二下御手印一之後。爲レ寄二附寺領一。於二近國一。令レ煩二庄園一之由。有二其聞一。二品殊依二爲恩食一。釋門人爭現二邪狂一哉。早可レ停二止如レ然監吹一之由。可下令二下知一給上云云。俊兼奉二行之一云云。○十九日。庚子。地震良久。京都去九日午剋。大地震。得長壽院。蓮花王院。最勝光院以下佛閣。或顛倒。或破損。又閑院御殿棟折。釜殿以下屋屋少少顛倒。占文之所レ推。其愼不レ輕云云。而源廷尉六條室町亭。云二門垣一。云二家屋一。無二聊傾一云云。可レ謂二不思議一歟。○廿二日。壬寅。日向國住人宮山二郎大夫義良以下。鎭西輩之可レ爲二御家

人一分者。他人不レ可レ令レ煩レ之旨。今日所レ被レ成二遣數通御下文一也云云。○廿三日。甲辰。山城介久兼。依二二品之召一。自二京都一參著。是陪從也。神宴等役。當時無二其人一。仍態以令二招下一給云云。○廿六日。丁未。前律師忠快爲二流人一。一昨日到三著伊豆國小河鄕二之由。宗茂申レ之。是平家緣坐也。○廿九日。庚戌。泰經朝臣消息到著。今月上旬之比。佛嚴上人夢中。赤衣人多現云。無レ罪之輩。爲二平家緣坐一。多以蒙二配流之罪一。故有二地震等一云云。凡爲三滅亡衆消二レ罪。去五月廿一(七イ同)日。被レ始三行不斷御讀經一畢。然者流罪中僧等事者。可レ有二免許一歟之由。有二其沙汰一。相計。可下令二申宥一給上之趣也云云。

八月大

四日。甲寅。前備前守行家者。二品叔父也。而度度雖レ被レ差三遣于平氏軍陣一。終依レ不レ顯二其功一。二品强不下令二當(綺)一給上。備州又無二進參向一。當時半二面西國一。以二關東親昵一。於二在在所所一。譴二責人民一。加之。掠二謀反之志一。綺(コト)既發覺云云。仍相二具近國御家人等一。早可レ追二討行家一之由。今日被レ下二御書於佐佐木太郎定綱一云云。○十三日。癸亥。久經。國平等使者。自二京都一參著。帶二院廳御下文一。已以赴二鎭西一畢云云。持三參彼御下文案一。即所レ被レ預三置俊兼一也。其狀云。

院廳下　大宰府幷管內諸在廳官人等。

可下早任二從二位源卿使中原久經。藤原國平等下知一。令レ停二止武士妨一。諸國諸庄委二附國司領家一上事。

右謀叛之輩。追討之後。諸國諸庄。任レ舊國司領家可二知行一之處。面面武士各各押領。不レ能二成敗一之由。依レ有二其聞一。國務庄家行二庄務一。永停二新儀一。可レ守二先規一之由。去六月成二廳下文一。相三副源卿狀一。著（對）二久經。國平一。所二下遣一也。早停三止旁濫妨一。云二國衙一。云二庄薗一。如レ元可レ令レ委二附國司領家一之狀。所レ仰如レ件。太宰府及（オヨビ）以官（管）內諸國在廳人等。宜二承知一。敢勿二違失一。故下。

元暦二年七月廿八日　主典代織部正兼皇后宮大屬大江朝臣

別當大納言兼皇后宮大夫藤原朝臣　判官宮內權少輔藤原朝臣

民部卿藤原朝臣　勘解由次官兼皇后宮權大進藤原朝臣

權中納言藤原朝臣　右少辨藤原朝臣

參議讃岐權守平朝臣　（左）右衛門權佐兼皇后宮大進藤原

大藏卿兼備後權守高階朝臣　左少辨平朝臣

右大將家皇后宮亮藤原朝臣

木工頭藤原朝臣

右馬頭高階朝臣（○主典代云云以下須序大系本ニ據ル）

○十四日。甲子。改元。改二元暦二年一爲二文治元年一。左大將家光撰二進之一。○廿日。庚午。專光房。依レ召自二伊豆國一參上。是故左典厩御遺骨。自二京都一可三到著一之間。可レ奉レ安二南御堂一之間事。爲レ令レ致二沙汰一也。○廿一日。辛未。鹿嶋社神主中臣親廣。與二下河邊四郎政義一。被レ召二御前一。遂二一決一。是常陸國橘郷者。被レ奉レ[寄]彼社領一訖〔畢〕。而政義以二當國南部惣地頭職一。稱レ在二郡内一。押二領件郷一。令レ譴二責神主妻子等一。剰可レ從二所勘一之由。成二祭文一之旨〔告〕。親廣訴二申之一。政義雖レ伏。頗失二陳謝〔詞〕一。爲二眼代等所爲一歟之由稱レ之。仍停二止向後違妨一。任二先例一。可レ令レ勤二行神事一之趣。神主蒙二恩裁一。退出之後。政義猶候二御前一之間。仰云〔曰〕。政義向二戰場一。殊施二武勇一。對二親廣一。失レ度歟。尤咲レ之云云。政義申云。鹿島者守二勇士一之神也。爭無二怖畏之思一哉。仍無レ有二所存一。故不レ能二陳謝一云云。○廿三日。癸酉。爲久自二京都一又參著。爲二新造御堂畫圖一也。○廿四日。甲戌。下河邊庄司行平。蒙二歸參御免一。自二鎭西一去夜參著。是相二副參州一。雖二向西海一。竭二軍忠一訖〔款〕。同時所レ

被レ遣之御家人等。不レ堪二經廻一。而多以歸參。行平于レ今在國。有二御感一云云。今日參二營中一。獻二盃酒一。二品出御。武州。北條殿已下群參。行平稱二九國第一一。進二弓一張一之處。仰曰。無二左右一叵(ガタシ)レ領二納之一。遣二鎮西一之東士。悉無レ粮而棄二大將軍一。多以歸參畢。汝所領。與二西海一。已隔二數箇月行程一也。全二乘馬一參上。尤可レ謂二不思議一。剩勸二盃酒一。獻二土產一。於二彼國一。不レ取二人之賄一者。爭有二知レ此之貯一乎。奇恠也者。行平陳申云。在國之程。失二兵粮之計一。經二日數(數日)一之間。爲レ扶二郎從等一。令レ沽二却彼翠之甲冑以下物具一訖。而渡二豐後國一之時者。傍輩皆待二參州御船一。行平敢不レ顧レ私存レ忠之故。爲レ任二先登於意一。以下總所・廣盛二之自分錢(於)ニ相二傅(カヘ)小舟一。雖レ不レ著二甲冑一。掉レ船最前著岸。入二敵先陣一。討二取美氣三郎一。凡毎度竭レ功之條。大將軍見知分明也。今依レ召欲レ參之處。無二進物一。專違二所存一。此弓於二九國一。名譽之由。兼以風聞。其主不慮之外。沽二却之一。行平喜レ之。折節著二小袖二領一。仍一領脫レ之替レ之。于レ時參州祗候人等。爲二餞別一來會。見二此事一。頻感レ之。可レ被二召尋一歟。次獻二盃酒一事者。留二置下總國一之郎從(僕)。矢作(ヤハギ)二郎。鈴(スズキ)置(下)平五等。用二意旅粮一。來(米)二向于途中一。以レ之令レ宛二經營料一。全不レ貪二他物一云云。二品具(ツブサニ)令レ聞レ之給。浮二感涙一。喜二其志一給。仰曰。行平。日本無雙弓取也。見二知宜弓一之條。不レ可レ過二汝之眼一。然者可レ爲二重寶一者。則召二廣澤三郎一。令レ張レ之。自引試

給。殊相二叶御意一之由被レ仰。直賜二御盃於行平一。仰曰。西國者大底見レ之畢。依二今度勳功一。欲レ知二行一國守護職一。何國哉可レ請者。行平申云。播磨國。有二須磨明石等之勝地一。有下如二書寫山一之靈場上。尤所レ望云云。早可レ有二御計一之由。被二請仰一云云。〇廿七日。丁丑。午剋。御靈社鳴動。頗如二地震一。此事先先爲レ怪之由。景能驚二申之一。仍二品參給之處。寶殿左右扉破訖。爲レ解二謝之一。被レ奉二納御願書一通一之上。巫女等。面面有二賜物一。(各藍摺一段(與)) 被レ行二御神樂一之後。還御云云。〇廿八日。戊寅。二品被レ進二御書於京都一。是葛上神湯兩庄事。可レ被レ下二院廳御下文一之由也。勅使河原後三郎爲二使節一。上洛云云。〇廿九日。己卯。去十六日。有二小除目一。其聞書今日到來。源氏多以承二朝恩一。所謂義範。(伊豆守)惟義。(相摸守)義兼。(上總介)遠光。(信濃守)義資。(越後守)義經。(伊豫守)等也。義經朝臣。官職事。於二以前一者。二品頻雖二被二傾申一至二今度豫州事一者。去四月之比。內內被レ付二泰經朝臣一畢。而彼不義等。雖レ令二露顯一。今更不レ能レ被レ申二上之一。偏被レ任二 勅定一云云。其外五箇國事者。任人面面。直懇望申之間。且募二勳功之賞一。且爲レ添二一品眉目一。殊所レ及二嚴密御沙汰一也云云。各可レ令レ知二行國務一之由云云。皆是當時關東御分國也。〇卅日。庚辰。二品御素意。偏以レ恭爲レ本之處。未レ盡二朱哀之節一。而平治有レ事。嚴閤天亡給之後。以二每日轉讀法華經一。

被ㇾ備二没後追福一。而今(令)極二榮貴一給之故(イナシ)今。被ㇾ企二一伽藍作事一。可ㇾ安二先考御廟於其地一之由。存念御之間。潜被ㇾ伺二奏此由一。　法皇亦叡二感勳功一之餘。去十二日。仰二判(刑イ)官一。於二東獄門邊一。被ㇾ尋二出故左典廐首一。相二副正淸(號二鎌田二(次)郎兵衛尉一)首一。江判官公朝爲二勅使一被ㇾ下ㇾ之。今日公朝下著。仍二品爲ㇾ令ㇾ奉ㇾ迎ㇾ之。參二向固稻瀨河邊一給。御遺骨者。文學上人門弟僧等奉ㇾ懸ㇾ頸。二品自奉ㇾ請二取之一還向。于ㇾ時。改二以前御裝束一。(練色水干)著二素服一給云云。又播磨國書寫山事。二品御歸依異ㇾ他。性空上人聖跡。不斷法華經轉讀之靈場也。尤如ㇾ舊可ㇾ被ㇾ與(致)之由。先度粗被ㇾ仰二泰經朝臣之許一畢。重可ㇾ被二奏達一之旨。今日内々。及二御沙汰一云云。(〇吉本ハ此處ヲ卷四ノ終トセズ、猶續ケリ)

吾妻鏡　卷第五（○吉川本八十二月マデヲ續ケテ四卷トス。）

文治元年乙巳九月小

一日。辛巳。廷尉公朝。爲二勅使一參二營中一。二品對面給。被レ勸二盃酒一。辭（綺）不レ及二再三一號（兮イ同）退出。于レ時賜二（其）砂金十兩。馬（置レ鞍）一疋一。又以二藤判官代邦通一爲二御使一。被レ送二長絹二十疋。紺絹三十端於彼旅所一。（比企四郎東御門宅云云）○二日。壬午。梶原源太左衛門尉景季。義勝房成尋等。爲二使節一上洛也。南御堂供養導師御布施。并堂莊嚴具（大略已調二置京都一）爲二奉行一也。亦平家緣坐之輩。未レ赴二配所一事。若乍レ居二洛中一勅免二者。不レ及二子細一。遂又可レ被二下遣一者。早可レ有二御沙汰一歟之由被レ申レ之。次稱二御使一。行二向伊豫守義經之亭一。尋二窺備前前司行家之在所一。可レ誅二戮其身一之由相觸。而可レ見二彼形勢一之旨。被レ仰二含景季一云云。去五月廿日。前大納言時忠卿以下。被レ下二配流官府（苻イ同）一畢。而于レ今在京之間。二品欝憤之處。豫州爲二件亜相聟一。依レ思二其好一。抑二留之一。加之引二級備前前司行家一。擬レ背二關東一之由。風聞之間。如レ斯云云。○三日。癸未。子尅。故左典厩御遺骨。（副二正淸首一）奉レ葬二南御堂之地一。路次被レ用二御輿一。惠（慈）眼房。專光房等。令レ

沙汰此事也。武藏守義信。陸奥冠者頼隆。〔昇〕御輿。二品（着御素服給）參給。御家人等多雖供奉。皆被止郭外。只所被召具者。義信。頼隆。惟義等也。武州者。平治逆亂之時。爲先考御共。（于時。號平賀冠者）頼隆者。亦其父毛利冠者義隆。相替亡者之御身。被討取訖。彼此依思舍舊好。被召拔之云云。○四日。甲申。勅使江判官公朝歸洛。二品御餞物尤慇懃也。此程依風氣。逗留渉日云云。又依去七月大地震事。且被行御祈。且可被滿遍德政於天下事。并崇德院御靈。殊可被奉崇之由事等。被申京都。是可奉添朝家寶祚之旨。二品御存念甚深之故也云云。○五日。乙酉。小山太郎有高。押妨威光寺領之由。寺僧捧解狀。仍令停止其妨。任例可經寺用。若有由緒者。令參上政所。可言上子細之旨。被仰下。惟宗。孝尙。橘判官代以廣。藤判官代邦通等。奉行之。前因播守廣元。主計允行政。大中臣秋家。右馬允遠元等加署判。新藤次俊長。小中太光家等爲使節。相觸有高云云。○十日。庚寅。御堂供養導師事。被請申本覺院僧正公顯之處。領狀先畢。仍下向之間。宿次雜事以下。今日被宛催御家人等。因播前司。齋院次官等。奉行之。進發日雜事。佐佐木太郎左衛門尉定綱可沙汰之云云。○十二日。壬辰。景季。成尋等入洛。則配流人人事云云。○十八日。戊戌。新藤中納言（經

房朝）者。廉直貞臣也。仍二品常令レ通二子細一給。於レ今者。吉凶互被レ示二合一。而黄門有レ望之由。内内被レ申之間。二品令レ吹二擧之一給云云。○廿一日。辛丑。參河守（範頼）使者參著。既出二鎭西一。在二途中一。今月相搆可レ入洛一。八月中可レ參洛レ之由。雖レ蒙二嚴命一。依二風波難一。遲留。恐思云云。此使自二京都一先立之旨申レ之。而今申狀。被レ重二御旨（命）一之條。揚焉之由。被二感仰（之）一矣。○廿三日。癸卯。前大納言時忠卿。下二向配所能登國一云云。○廿九日。己酉。南御堂内羅（陳）板敷等削レ之畢。二品監臨給。匠等更賜レ祿。各長絹一疋。筑後權守俊兼。主計允行政奉二行之一。

十月大

三日。壬子。南御堂供養間。導師請僧等布施。諸方進物。且覽レ之。其間事。令レ談二合左馬頭一給。又爲二御分并布施取等一。装束廿餘具。自二京都一被二召下一。義勝房。相二具之一（也）。去夜參著。仍今日被レ支二配所役人人一云云。因播前司。筑後權守等奉二行之一。○六日。乙卯。梶原源太左衛門尉景季。自二京都一歸參。於二御前一申（之）云。參二向伊豫守亭一。申二御使由一之處。稱二違例一。無二對面一。仍レ此蜜（密）事以レ使不レ能レ傳（傳能）。歸二於宿一（旅）（六條油小路）相二隔一兩日一。又令レ參之時。乍レ懸二脇足一。被二相逢一。其體誠以憔悴。灸有二數箇所一。而試達二行家追討事一

之處。彼レ報云。所勞更不レ僞。義經之所レ思者。縱雖レ爲下如二强竊一之犯人上。直欲レ糺二行之一。況於二行家事一哉。彼非二他家一。同爲二六孫王之餘苗一。掌二弓馬一。難レ准二直也人（人也）一。遣二家人等之計（許）一。輙難レ降二伏之一。然者早加二療治一。平喩（愈）之後。可レ廻レ計之趣。可二披露一之由云云。者。二品仰曰。同二意行家一之間。搆二虚病一之條。已以露顯云云。景時承レ之。申云（之）。初日參之時。不レ遂二面拜一。隔二一兩日一之後有二見參一。以レ之案二事情一。一日不レ食。一夜不レ眠者。其身必悴。灸者雖二何箇所一。一瞬之程可レ加レ之。況於レ曆（歷）二日數一乎（之）。然者一兩日中被レ相二搆如レ然之事一歟。有二同心用意一分。［〇兮カ］不レ可レ及二御疑貽一云云。〇九日。戊午。可レ誅二伊豫守義經一之事。日來被レ凝二群議一。而今被レ遣二土佐房昌俊一。此追討事。人人多以有二辭退氣一之處。昌俊進而申二領狀一之間。殊蒙二御感仰一。已及（之）二進發之期一。參二御前一。老母幷嬰兒等。有二下野國一。可下令レ加二憐愍一御上之由申レ之。二品殊被二諾仰一。仍賜二下野國中泉庄一云云。昌俊相下具八十三騎軍勢上。三上彌六家季。（昌俊弟）錦織三郎。門眞太郎。藍澤二郎以下云云。行程可レ爲二九箇日一之由。被レ定云云。〇十一日。庚申。御堂佛後壁畫圖。終二彩色之功一。所レ奉レ圖二淨土瑞相幷二十五菩薩像一也。二品監臨給之處。圖二淨土一之所。有二三日月一。而此（間）月者。以二已影一。隱二已影一云云。今畫樣頗不レ叶二本說一之由。被レ仰之間。畫工不レ能レ改レ之。則削云云。今日佐佐木三郎盛綱（成）。

(號ニ本佐佐木ニ) 本知行田地。如レ元可ニ領掌ニ之旨。被レ書ニ下之ニ。但可レ從ニ佐佐木太郎左衛門尉定綱所堪ニ云云。是雖レ非ニ一族ニ。佐佐木庄總管領者定綱也。盛綱(成イ同)分。在ニ其內ニ之故歟。○十三日。壬戌。去十一日幷今日。伊豫大夫判官義經潛參ニ 仙洞ニ。奏聞云(之)。前備前守行家。向ニ背關東ニ。企ニ謀反ニ。其故者。可レ誅ニ其身ニ之趣。鎌倉二位(品)卿所レ命。達ニ行家後聞ニ之間。以ニ何過怠ニ。可レ誅ニ無レ罪叔父ニ哉之由。依レ含ニ欝陶(胸)ニ也。義經頻雖レ加ニ制止ニ。敢不レ拘。而義經亦退(遁)ニ平氏凶惡ニ。令レ屬ニ世於靜謐ニ。是盍ニ大功ニ乎。然而二品曾不レ存ニ其賞ニ適所ニ計宛ニ之所領等。悉以改變。剩可ニ誅滅ニ之由。有ニ結構之聞ニ。爲レ遁ニ其難ニ。已同ニ意行家ニ。此上者。可レ賜ニ頼朝追討官府(符イ同)ニ。無ニ 勅許ニ者。兩人共欲ニ自殺ニ云云。能可レ宥ニ行家謀賞ニ之旨。有ニ勅答ニ云云。○十四日。癸亥。院宣到ニ來于鎌倉ニ。可レ被レ遣ニ 義定朝臣ニ也。彼朝臣。背ニ 綸命ニ。二品殊可レ令レ加ニ諷詞ニ之趣。及ニ御沙汰ニ云云。

當國小杉御厨。於ニ神宮御領ニ。已被レ下ニ 宣旨ニ畢。而自ニ國司ニ有レ妨之由。所ニ訴申ニ也。尤不便。早如レ元。可レ被(被)ニ奉免ニ者。依ニ 院宣ニ。執達如レ件

九月二十四日　　右馬頭(奉判)

遠江守殿舘

○十五日。甲子。齋宮用途。可レ被二進納一之由事。并太神宮御領伊雜神戶。鈴母御厨。沼田御牧、員部神戶。田公御厨等所所散在武士。無二其故一押領事。可レ被二尋成敗一由事。　院宣到來。兩條所レ被レ載二別紙一也。○十六日。乙丑。豐後國住人臼杵二郎維隆。緒方三郎維榮等。去年合戰之間。破二却宇佐宮寶殿一。押二取神寶一。依レ之雖レ被レ下二配流官府一。〔イ同苻〕去四日。逢二非常赦一云云。○十七日。丙寅。土佐房昌俊。先日依レ含二關東嚴命一。相二具水尾谷十郎已下六十餘騎軍士一。襲二伊豫大夫判官義經六條室町亭一。于レ時。豫州方壯士等。逍二遙西河邊一之間。所二殘留一之家人。雖レ不レ幾。相二具左藤四郎兵衛尉忠信等一。自開二門戶一。懸出責戰。行家。傳二聞此事一。自二後面一來加。相共防戰。仍小時。昌俊退散。豫州家人等走散求レ之。〔蒙〕豫州〔命〕則馳二參　仙洞一。奏二無爲之由一云云。○十八日。丁卯。義經言上事。可レ有二　勅許一否。昨日於二仙洞一有二議定一。而當時義經外。無二警衛之士一。不レ蒙二勅許一者。若及二濫行之時一。仰二何者一可レ被二防禦一哉。爲レ遁二今之難一。先被二　宣下一。追被レ仰二子細於關東一。二品定無二其憤一歟之由治定。仍被レ下二　宣旨一。上卿左大臣（經宗云云）

文治元年十月十八日　　宣旨

從二位源頼朝卿偏耀二武威一。已忘二朝憲一。宜レ令下前備前守源朝臣行家。左衛門少尉同朝臣義經等一追討

彼卿上。

藏人頭左大辨兼皇后宮亮藤原光雅（奉）

○十九日。戊辰。法皇御護御劍。去〔去〕年紛失。去比江判官公朝求二得之一令レ獻二上之一。風聞之間。今日。二品以二御書一。被レ仰二公朝一云云。是以二左典厩太刀一。所レ被レ奉レ獻也。吠丸。蒔鳩〔鳩〕云云。先考御重寶。再備二朝家御護一之條。依レ爲二御眉目一。今及二此儀一云云。○廿日。己巳。御堂供養導師本覺院僧正坊公顯下著。所レ相二具廿口龍象一也。參河守範頼朝臣相伴參著云云。彼朝臣今夜即參二二品御所一。申二日來事一。去月廿七日。自二西海一入洛云云。於二鎭西一。尋二取仙洞重寶御劍鵜丸一。今度進上訖。是平氏黨類。壽永二年城外之刻。淸經朝臣自二法住寺殿一。取二御劍二腰一。（吠丸鵜丸）其隨一也云云。又唐錦十端。唐綾絹羅等百十端。南廷三十。唐墨十廷。茶垸具二十。唐莚五十枚。米千石。牛十頭等。同進二院一之由。申レ之。次別進二解文二通一。〔進〕二二品幷御臺所御方。唐錦唐綾唐絹南廷（五十）甲冑弓八木大豆等一也。○廿一日。庚午。南御堂奉レ渡二本佛一。（丈六。皆金色阿彌陀佛。佛師成朝也）大夫屬入道。大和守。主計允等。奉二行之一云云。今

日。源藏人大夫頼兼。自京都參著。去五月。家人久實。搦進犯人。（晝御座御劍盜人）依件賞。去十一日。叙從五位上。久實又賜兵衛尉。而讓息男久長之由申之。又御堂供養願文到著。草式部大夫光範。淸書右少辨定長也。因播守廣元。於御前。讀申之云云。○廿二日。辛未。右（○左カ）馬頭（能保）家人等。自京都馳參。申云。去十六日。前備前守行家。追捕祇候人之家屋。搦取下部等。結句行家移住北小路東洞院御亭云云。又風聞説云。去十七日。土佐房合戰。不成其功。行家義經等。申下二品追討宣旨云云。二品曾不令動搖給。御堂供養沙汰之外無他云云。○廿三日。壬申。山內瀧口三郎經俊候從。自伊勢國奔參。申云。伊豫守稱宣旨。被催近國軍兵。此間。爲誅經俊。去十九日被圍守護所。定不遁歟云云。仰曰。此事非實證歟。經俊無左右非可被度子人之者云云。經俊者。所被補置勢州守護也。明日御堂供養御出隨兵以下。供奉人事。今日被淸撰之。其中河越小太郎重房者。兼日雖被加件衆。依爲豫州緣者。被除之。○廿四日。癸酉。天霽風靜。今日南御堂（號勝長壽院。）被遂供養。寅剋。御家人等中。差殊健士。警固辻辻。宮內大輔重頼奉行會場以下。堂左右構假屋。左方二品御座。右方御臺所幷左典厩室家等御聽聞所也。以御堂前簀子。爲布施取（廿人）座。山本又有北條殿

宜井可レ然御家人等妻聽聞所一。已尅。二品御出。（御束帶）御歩儀。

行列

先隨兵十四人

畠山次郎重忠　　千葉太郎胤正

三浦介義澄　　佐貫（佐木）四郎大夫廣（成）綱

葛西三郎清重　　八田太郎朝重

榛谷四郎重朝　　加藤二（次）景廉

藤九郎盛長　　大井兵三次郎實春

山名小太郎重國　　武田五郎信光

北條小四郎義時　　小山兵衛尉朝政

小山五郎宗政持二御劒一。

佐佐木四郎左衛門尉高綱著二御鎧一

愛甲三郎季隆懸二御調度一

御後五位六位（布衣下括）卅二人

源藏人大夫頼兼　武藏守義信

參河守範頼　遠江守義定

駿河守廣綱　伊豆守義範

相模守惟義　越後守義資〔御沓〕

上總介義兼　前對馬守親光

前上野介範信　宮内太輔重頼

皇后宮亮仲頼　大和守重弘

因播守廣元　村上右馬助經業

橘右馬助以廣　關瀬修理亮義盛

平式部大夫繁政　安房判官代高重

藤判官代邦道　　新田藏人義兼

奈胡（ナゴ）藏人義行　　所（トコロ）雜色（ザツシキ）基繁

千葉介常胤　　同六郎大夫胤頼

宇津宮左衛門尉朝綱〔御沓ノ牛長〕　　八田右衛門尉知家

梶原刑部丞朝景　　牧武者所宗親

後藤兵衛尉基清　　足立右馬允遠光〔最末〕

次隨兵十六人

下河邊庄司行平　　稻毛三郎重成

小山七郎朝光　　三浦十郎義連

長江大〔太イ同〕郎義景　　天野藤内遠景

澁谷庄司重國　　糟屋藤太有季

佐佐木太郎左衛門定綱　　小栗十郎重成

波多野小次郎忠綱　　廣澤三郎實高

梶原源太左衛門尉景季　　千葉平次常秀（〇吉本ハ千葉、梶原ノ上ニ在リ）

村上左衛門尉賴時　　次 加加美二郎長淸

次隨兵六十人。（被レ淸二撰弓馬達者一。皆供二奉最末一。御堂上後。各候二門外東西一。）

東方

足利七郎太郎　　佐貫六郎

大河戸太郎　　皆河四郎

千葉四郎　　三浦平六

和田三郎　　同五郎

長江太郎　　多多良四郎

治 沼田太郎　　曾我小太郎

宇治藏人三郎　　江戸七郎

中山五郎　山田太郎

天野平内　工藤小次郎

新田四郎　佐野又太郎

宇佐美平三　吉河二郎

岡部小次郎　岡村太郎

大見平三六　臼井六郎

中禪寺平太　常陸平四郎

所六郎　飯富源太

西方

豐島權守　丸太郎

堀藤太　武藤小次郎

比企藤次　天羽次郎

都筑平太　熊谷小次郎
那古谷橘次　多胡宗太
（菜）萊（ヨモギノ）七郎　中村〔右〕馬允
金子十郎　春日三郎
小室太郎　河勾七郎
阿保（アブ）五郎　四方田三郎
苔田太郎　横山野三
西太郎　小河小二（次）郎
戸崎右馬允　河原三郎
仙波二（次）郎　中村五郎
原二（次）郎　猪俣（イノマタノ）平六
甘糟野次　勅使河原（テシガハラノ）三郎

令レ入二寺門一給之間。義盛。景時等。候二門外左右一。行レ事。次御堂上。胤頼參進。取二御沓一。高綱著二御甲一。
（問）候二前庭一。觀者雖レ之。以二脇立一（ワキダテヲ）。著二甲上一爲レ失云云。爰高綱小舍人童聞二此事一。告二高綱一。高綱嘆曰。著二主
君御鎧一之日。若有レ事之時。先取二脇立一進レ之者也。加二巨難一（コナンヲ）之者。未レ辨二勇士之故實一云云。次左馬頭能
保。（直衣。具二諸大夫一人衛府一人一。）前少將時家。侍從公佐。光盛。前上野介範信。前對馬守親光。宮內
大輔重頼等。著二座堂前一。武州已下。著二其傍一。次導師公顯。率二伴僧廿口一參堂。演二供養之儀一。事終。被レ引二
布施一。比企藤內朝宗。右近將監家景等。役送。先レ之。入二布施物等於長櫃一。昇二立堂砌一。俊兼。行政等。奉二
行之一。時家。公佐。光盛。頼兼。範信。親光。重頼。仲頼。廣綱。義範。義資。重弘。廣元。經（種）業。以廣（コレヒロ）。
繁政。基繁。義兼。高重。邦通等。數反相替取二布施一。導師分。

錦被物五重。　綾被物五百重。　綾二百端。
長絹二百疋。　染絹二百端。　藍摺二百端。
紺二百端。　砂金二百兩。　銀二百兩。
法服一具。（副二錦横被一。）　上童（重イ）裝束十具。

馬三十疋。（武者所宗親。爲北條殿御代官。奉行之。）此内十疋。置鞍。（御家人等引之。（〇所以下吉本割注ニセズ）所殘二十疋者。御厩舍人等。引立傍。）

一御馬　千葉介常胤　足立右馬允遠元

二御馬　八田右衛門尉知家　比企藤四郎能員

三御馬　土肥次郎實平　工藤一﨟祐經

四御馬　岡崎四郎義實　梶原平次景高

五御馬　淺沼四郎廣綱　足立十郎太郎親成

六御馬　狩野介宗茂　中條藤次家長

七御馬　工藤庄司景光　宇佐美三郎祐茂

八御馬　安西三郎景益　曾我太郎祐信

九御馬　千葉二郎師常　印東四郎

十御馬　佐佐木三郎盛綱　二宮小太郎

次加布施。金作劒一腰。裝束。念珠。（付㆓銀打枝㆒。）五衣一領。（松重。自㆓簾中㆒。被㆓押出㆒。云云）已上左典厩被㆑取㆑之。此外八木五百石。被㆑送㆓遣旅店㆒。

次請僧分。口別色色被物三十重。絹五十疋。染絹五十端。白布百端。馬三疋（一疋置㆑鞍）也。每㆑事莫㆑不㆑盡㆑美。思㆓作善大功㆒。已千載一遇也。還御之後。召㆓義盛。景時㆒。明日可㆑有㆓御上洛㆒。聚軍士等㆒。令㆑著㆓到之㆒。其內明曉可㆓進發㆒之者有哉。別可㆑注㆓進其交名㆒之由。被㆓仰含㆒云云。及㆓半更㆒。各申云。群參御家人。常胤已下爲㆑宗者。二千九十六人。其內申㆘則可㆓上洛㆒之由㆖者。朝政朝光已下。五十八人云云。○廿五日。甲戌。今曉。差㆓領狀勇士㆒。被㆑發㆓遣京都㆒。先至㆓尾張美濃㆒之時。仰㆓兩國住人㆒。可㆑令㆑固㆓足近洲俣渡渡㆒。次入洛最前。可㆑誅㆓行家義經㆒。敢莫㆓斟酌㆒。若又兩人。不㆑住㆓洛中㆒者。暫可㆑奉㆑待㆓上洛㆒者。各揖㆑鞭云云。

○廿六日。乙亥。土佐〔左〕房昌俊并伴黨三〔二〕人。自㆓鞍馬山奧㆒。豫州家人等求㆓獲之㆒。今日於㆓六條河原㆒。梟首云云。

○廿七日。丙子。二品被㆑立㆓奉幣御使於伊豆筥根等權現㆒。伊豆新田四郎。箱根工藤庄司也。各被㆑奉㆓御馬一疋㆒云云。又筑前介兼能爲㆓御使㆒。上洛云云。○廿八日。丁丑。片岡八郎常春。同㆓心佐竹太郎㆒。（常春舅）有㆓謀叛企㆒之間。被㆑召㆓放彼領所下總國三崎庄㆒畢。仍今日。賜㆓千葉介常胤㆒。依㆑被㆑感㆓勳節等㆒也。○廿九日。

戊寅。爲征豫州備州等之叛逆。二品今日上洛給。於東國健士者。直可被具之。山道北陸之輩者。經山道。可參會于近江美濃等所所之由。被廻御書。又相摸國住人原宗三郎宗房者。勝（スグレタル）勇敢者也。而早河合戰時。令同意景親奉射二品之間。恐科逐電。當時在信濃國。早相具之。可馳參洲俣邊之旨。被仰下于彼國御家人等中云云。巳剋。令進發給。土肥二郎（次）實平候先陣。千葉介常胤在後陣。今夜止宿相摸國中村庄云云。當國御家人等悉參集。

十一月大

一日。庚辰。二品著御駿河國黃瀨河驛。被觸仰御家人等云（曰）。爲聞定京都事。暫可逗留于此所。其程可用意乘馬幷旅粮已下事云云。〇二日。辛巳。豫州已欲赴西國。仍爲令儲乘船。先遣大夫判官友實之處。有庄四郎者（元豫州家人。當時不相從）今日於途中。相逢友實。問云。今出行何事哉。友實任實答事由。庄僞示可合如元可屬豫州趣。友實。又稱可傳達其旨豫州。相具進行。爰庄忽被誅戮廷尉訖。件庄（友）。實者。越前國齋藤一族也。垂髮而候仁和寺宮。首服時屬平家其後向背相從木曾。木曾被追討之比。爲豫州家人。遂以如此云云。〇三日。壬午。前備前守行家。（櫻威甲）伊豫守義經

(赤地錦直垂。萠黃威甲)等赴二西海一。先進二使者於 仙洞一。申云。爲レ遁二鎌倉譴責一。零二落鎭西一。最期雖レ可二參拜一。行粧異體之間。已以首途云云。前中將時實侍從良成。(義經母弟。一條大藏卿長成男)伊豆右衛門尉有綱。堀彌太郎景光。佐藤四郎兵衛尉忠信。伊勢三郎能盛。片岡八郎弘經(綱)。辨慶法師。已下。彼此之勢二(三)百騎歟云云。○五日。甲申。關東發遣御家人等入洛。二品忿怒之趣。先申二左府一云云。今日豫州至二河尻一之處。攝津國源氏多田藏人大夫行綱。豐島冠者等。遮二前途一。聊發(ハナツ)二矢石一。豫州懸(カケヤブル)敗之間。不レ能二挑戰一。然而豫州勢。以零落。所レ殘勢不レ幾云云。○六日。乙酉。行家。義經。於二大物(モツノ)濱一乘レ船之刻。疾風俄起而。逆浪覆レ船之間。慮外止二渡海之儀一。伴類分散。相二從豫州一之輩纔四人。所レ謂伊豆右衛門尉。堀彌太郎。武藏房辨慶幷妾女(字靜)一人也。今夜一二宿于天王寺邊一。自二此所一逐電云云。今日可レ尋二進件兩人一之旨。被レ下二院宣於諸國一云云。○七日。丙戌。二品爲レ召二聚軍士一。爲レ聞二食一定京都事一。逗二留黃瀨河宿一給之處。去三日行家義經於二中國(出)一(ヨリ)落二西海一之由。有二其告一。但件兩人。賜二院廳御下文一。四國九國住人。宜レ從二兩人下知一之旨被レ載レ之。行家補二四國地頭一。義經補二九州地頭一之故也云云。今度事。云二 宣旨一。云二廳御下文(書)一。被レ任二逆徒申請一畢。依レ何被レ弃二捐乎度度勳功一哉之由。二品頻鬱陶(胸イ)給。而可レ被レ下二彼 宣旨一否。及二御沙汰一

之時。右府。(〇兼實) 頗(頼)被レ扶二持關東一之旨。風聞間。二品。欣悦〔給〕云云。今日義經。被レ解二却見任一。
(伊豫守。撿非違使云云) 〇八日。丁亥。大和守重弘。一品房昌寛等。爲二使節一。自二黄瀬河一上洛。行家義
經等事。所レ被二爵申一也。又彼等已落レ都之間。止二御上洛之儀一。今日令レ歸二鎌倉一給云云。〇十日。己丑。
還二御鎌倉一之處。左典厩被レ申云。只今都人傳言云。義經反逆間。可レ被レ下二追討　宣旨一否事。被レ仰二合左
右内府并帥納言 (經房) 等一之處。右府意見。首尾殊被レ盡レ理。皆是豈關東引級(インキフ)之詞也。内府是非不レ被レ申二
分明之儀一。左府早可レ被二　宣下一之由申切。帥納言再三傾二申之一云云。又刑部卿頼經。右馬權頭業忠等者。
其志偏有二豫州腹心一。廷尉知康同前之由云云。〇十一日。庚寅。義經等反逆事。任二申請一。被二　宣下一畢。但
追可レ被レ誘二關東一之由。在二　叡慮一之處。二品之狩(得)債興盛之間。日來沙汰之趣。已相違畢。爰義經行家巧二
反逆一。赴二西海一之間。於二大物濱一。漂沒之由。雖レ有二風聞一。亡命之條。非レ無レ所レ疑。早仰二有勢之輩一。尋二捜
山林一。可レ召二進其身一之由。被レ下二　院宣於畿内近國國司等一云云。其狀云。
被二　院宣一偁。源義經。同行家。巧二反逆一。赴二西海一之間。去六日於二大物濱一。忽逢二逆風一云云。漂沒之
由。雖レ有二風聞一。亡命條非レ無二狐疑一。早仰下有二武勇一之輩上。尋二捜山林河澤之間一。不日可レ令レ召二進其身一。當

國之中。至二于國領〔先〕一者。任レ狀令二遵行一。於二庄園一者。移二本所一。致二沙汰一。事是嚴密也。曾勿二懈緩一者。

院宣如レ此。悉之謹狀。

十一月十一日　　　　太宰權帥

其國守殿

○十二日。辛卯。二品被レ遣二御書於駿河國一。以二兩〔西〕御家人一。被二觸仰一。九郎已落レ京畢。仍御上洛事。當時者所レ令二延引一也。但各無二懈緩之儀一。致二用意一。可レ順二重仰一也者。又駿河國岡邊權守泰綱。此間依二病惱一。御堂供養幷御二坐黃瀨河一之時。不二參向一。近日適平愈。聞〔開イ同〕レ可レ有二御上洛事一。扶二悴衰之身一。先參二鎌倉一。可レ候二御共一由申レ之〔也〕。而今無二御京上之儀一。不レ可二參向一。將又肥滿泰綱。騎用之馬〔定〕無レ之歟。須廻二用意一可レ隨二御旨一之由。被二報仰一云云。今日。河越重賴所領等被二收公一。是依レ爲二義經緣者一也。其內。伊勢國香取五箇鄉。大井兵三次郎實春賜レ之。其外所者。重賴老母預レ之。又下河邊四郎政義。同被レ召二放所領等一。爲二重賴聟一之故也。凡今度次第。爲二關東重事一之間。沙汰之〔篇〕始終之趣。太思食煩之處。因播前司廣元申云〔之〕。世已澆季。梟惡者尤得レ秋也。天下有二反逆輩一之條。更不レ可二斷絕一。而於二東海道之內一者。依レ爲二御居所一雖レ令二

靜謐一。奸濫（亂）起二於他方一歟。爲レ相二鎭之一。每度被レ發二遣東士一者。人人（之）煩也。國費也。以二此次一。諸國交二御沙汰一。每二國衙庄園一。被レ補二守護地頭一者。强不レ可レ有レ所レ怖。早可下令二申請一給上云云。二品殊甘心。以二此儀一治定。本末相應。忠言之所レ令レ然也〇十五日。甲午。大藏卿泰經朝臣使者參著。依レ怖レ刑罰。直不レ參二營中一。先到二左典　御亭一。告下被レ獻二狀於鎌倉殿一之由上。又一通獻二典廐一。義經等事。全非二微臣結構一。只怖二武威一。傳奏許也。及二何樣遠聞一哉。就二世上浮說一。無二左右一不レ鑽之樣。可レ被二宥申一云云。典廐相二具使者一。達二子細一給。府卿云狀（之）披覽。俊兼。讀二申之一。其趣。行家。義經謀叛事。偏爲二天魔所爲一歟。無二　宣下一者。參二宮中一。可二自殺一之由。言上之間。爲レ避二當時難一。一旦雖レ似レ有二　勅許一。曾非二　叡慮之所一レ與云云。是偏傳二天氣一歟。二品被レ投二返報一云。行家。義經謀叛事。爲二天魔所爲一之由。被二仰下一。甚無レ謂事候。天魔者。爲二佛法一成レ妨。[云云]於二人倫一。致レ煩者也。賴朝降二伏數多之朝敵一。奉レ任二世務於君一之忠。何忽變二反逆一非二指叡慮一。被レ下二　院宣一哉。云二行家一。云二義經一。不二召取一之間。諸國衰弊。人民滅亡歟。仍日本第一大天狗者。更非レ他者歟云云。〇十七日。丙申。豫州籠二大和國吉野山一之由。風聞之間。執行相二催惡僧等一。日來雖レ索二山林一。無二其實一之處。今夜亥刻。豫州妾靜（シヅカ）。自二當山藤尾坂一降。到二于藏王堂一。其體尤奇恠。衆徒等

見ニ咎之一。相具向ニ執行坊一。具問ニ子細一。靜云。吾是九郎大夫判官（今伊豫守）妾也。自ニ大物濱一。豫州來ニ此山一。五箇日逗留之處。衆徒蜂起之由依ニ風聞一。伊豫守者。假ニ山臥之姿一。逐電訖。于レ時。與ニ數多金銀類於我一。付ニ雜色男等一。欲レ送レ京。而彼男共取ニ財寶一。弃ニ置于深峰雪中一之間。如レ此迷來云云。○十八日。丁酉。就ニ靜之説一。爲レ搜ニ求豫州一。吉野大衆等。又踏ニ山谷一。靜者執行頗令ニ憐愍一。相勞之後。稱下可レ進ニ鎌倉一之由上云云。○十九日。戊戌。土肥次郎實平。相ニ具一族等一。自ニ關東一上洛。今度被レ支ニ配國國一精兵之中。尤爲ニ專一一云云。○廿日。己亥。伊豫守義經。前備前守行家等。出ニ京都一。去六日。於ニ大物濱一。乘レ船解レ纜之時。遭ニ惡風一。漂沒之由。及ニ傳聞一之處（風）。八島冠者時淸。同八日歸京（洛）畢。兩人未レ死之旨。言上云云。次讃岐中將時實朝臣。乍レ爲ニ流人身一。潜在洛。而今度相ニ具義經一。赴ニ西海一。辭不レ成兮。伴黨離散之刻。歸京之間。村上右馬助經業舍弟禪師經伊（ツネコレ）。生ニ虜之一云云。兩條。達ニ叡聽一畢之由。有ニ其聞一云云。○廿二日。辛丑。豫州凌ニ吉野山深雪一。潜向ニ多武峰一。是爲レ祈ニ請（精）大織冠御影一云云。到著之所者。南院内藤室。其坊主號ニ十字坊一之惡僧也。賞ニ翫豫州一云云。○廿四日。癸卯。二品爲ニ國土泰平一。被レ奉ニ御願書於諸社一。光太神宮分。被レ付ニ生倫神主一。其外近國一宮云云。於ニ相摸國中一者。佛寺十五箇所。神社十一箇所。悉以被レ奉ニ納之一

云云。○廿五日。甲辰。今日。北條殿入洛云云。行家義經叛逆事。二品欝陶（胸イ）趣。帥中納言具以奏達。仍今日條條有沙汰。儲可尋索之由被宣下。其狀云

文治元年十一月廿五日　宣旨

前備前守源行家。前伊豫守同義經。恣挾野心。遂赴海西（西海）訖。而於攝津國解纜之間。忽逢逆風之難。誠是一天之譴也。漂沒之間。雖有其說。殞命之實。猶非無疑。早仰從二位源朝臣。不日尋搜在所。宜令捉（投）搦其身。

藏人頭右大辨兼皇后宮亮藤原光雅　（奉）

○廿六日。乙巳。大藏卿泰經朝臣籠居。是義經。申下追討宣旨事。依為彼朝臣傳奏。源二位卿殊欝申之趣。達叡聞之間。　勅定如此云云。泰經。同意行家義經謀叛事。載書狀。挾竹枝。昨日立帥中納言庭。黃門乍驚披見之。付定長朝臣。備奏覽云云。○廿八日。丙午（丁未）。補任諸國平均守護地頭。不論權門勢家庄公。可宛課兵粮米（段別五升）之由。今夜。北條殿謁申藤經房卿中納言（中納言經房卿）云云。○廿九日。戊申。北條殿所被申之諸國守護地頭兵粮米事。早任申請。可有御沙汰之由。被仰下之間。帥中納言

彼ㇾ傳二 勅於北條殿一云云。又多武峰十字坊、相ニ談豫州一云。寺院非ㇾ廣。住侶又不ㇾ幾。遁隱始終不ㇾ可ㇾ叶。自ㇾ是欲ㇾ奉ㇾ送二遠津河邊一。彼所者。人馬不通之深山也者。豫州諾ㇾ之。大欣悦之間。差二惡僧八人一。送ㇾ之。謂二惡僧一者。道徳。行徳。拾悟、拾躍。樂達遠。樂圓。文妙。文實等也〔云云。〕今日。二品被ㇾ定二歸路之法一。依二此間重事一。上洛御使雜色等。伊豆。駿河以西。迄二于近江國一。不ㇾ論二權門庄庄之所一。傳馬可ㇾ騎二用之一。且於二到來所一。可ㇾ沙二汰其粮一之由云云。

十二月大

一日。庚戌。平氏一族。相二漏誅戮配流一之輩。多以在二京都一。又前中將時實。去夏雖ㇾ含二配流 宣下一。不ㇾ向二配所一。今度同二意義經一。赴二西海一之由。風聞。仍是彼。早尋二取之一。可ㇾ召二預在京御家人一之由。今日被ㇾ仰二遣北條殿一。（去月廿五日。入洛云云）〇四日。癸丑。生倫神主申云。捧二去月御願書一。令ㇾ參二籠于安房國東條御厨庤一。抽二懇祈一之處。今月二日。有二靈夢之告一云云。二品則被ㇾ奉二御厩御馬（號二飛龍一）於件庤一云云。〇六日。乙卯。今度同二意行家義經一之侍臣并北面從輩事。具達二關東一。仍可ㇾ被ㇾ申二行罪科一之由。雖ㇾ〔注〕交名於折紙。被ㇾ遣二帥中納言一。其上。殊結構衆六人。可ㇾ申二請之旨。被ㇾ觸二仰北條殿一。侍從良成。

少內記信康。（伊豫守右筆）右馬權頭業忠。兵庫頭章綱。大夫判官知康。信盛。右衛門尉信實。時成等也。

又右府有レ訓二綴關東一。〔聞〕依レ令レ露二中丹一。被レ獻二一通書一云云。廣元。善心。俊兼。邦通等。沙二汰此間事一。

〔奉行云云〕　院奏折紙狀云。

可レ有二御沙汰一事

一　議奏公卿

右大臣（可レ被レ下二內覽宣旨一）　內大臣

權大納言實房卿　宗家卿　忠親卿

權中納言實家卿　通親卿　經房卿

參議雅長卿　兼光卿

已上卿相。朝務之間。光始レ自二神祇一。次至二于佛道一。依被（彼イ同）二議奏一。可レ被二計行一也。

一　攝籙事

可レ被レ下二內覽　宣旨於右大臣一也。但於二氏長者一。本人不レ可レ有二相違一也。

一　職事事

光長朝臣　　兼忠朝臣

二人相並可レ被レ補歟。光雅朝臣被レ下二追討　宣旨一畢。天下草創之時。不吉之職事也。早可レ被二停廢一也。

一　院御厩別當

朝方卿。（〇玉葉ニ「本」ノ字有リ）奉行之職也。可レ被二還補一歟。

一　大藏卿

宗頼朝臣。可レ被レ任レ之。

一　辨官事

親經可レ被二採用一歟。

一　右馬頭

侍從公佐可レ被レ任レ之。

一　左大史

日向守廣房在二（○失カ）任國一。可レ被レ任レ之。隆職。成二追討　宣旨一。天下草創之時。禁忌可レ候也。仍可レ被二停廢一。

一　國國事

伊豫。　右大臣御沙汰。（月輪殿）
越前。　內大臣御沙汰。
石見。　宗家卿可レ給也。
越中。　光隆卿同。
美作。　實家卿同。
因播。　通親卿同。
近江。　雅長卿同。
和泉。　光長朝臣同。
陸奥。　兼忠朝臣同。
〔豐後〕

頼朝欲ㇾ申ニ給一。其故者。云ニ國司一。云ニ國人一。同ニ意行家。義經謀叛一。仍爲ㇾ令ㇾ尋ニ沙ㇾ汰其黨類一。欲ㇾ令ㇾ知ニ

行國務一也。

一　關官事

撰ニ定器量一。可ㇾ被ニ採用一也。

十二月六日　　頼朝（在判）

一　解官事

參議親宗　　大藏卿泰經　　右大辨光雅

刑部卿頼經　　左右馬頭經仲　　右馬權頭業忠

左大史隆職

左衛門少尉信盛　　信實

時成　　兵庫頭章經

同ニ意行家。義經等一。欲ㇾ亂ニ天下一之凶臣也。早解ニ官見任一。可ㇾ被ニ追却一也。兼又。此外。行家。義經家人

追從
逆徒勸誘之客。相㆓尋淺深㆒。於㆓官位之輩㆒。一一。可㆑被㆓解官停廢㆒也。僧。陰陽師之類。相交由有㆓其聞㆒。

同可㆑有㆓追却㆒也。

十二月六日　　　賴朝（在判）

被㆑獻㆓右府㆒。御書曰。

言㆓上

事由㆒。

右言㆓上日來之次第㆒候者。定子細事長候歟。但平家奉㆑背　㆑君。旁奉㆑結㆓遺恨㆒。偏企㆓濫吹㆒候。次 世以無㆑隱候。今始不㆑能㆓言上㆒候。而賴朝。爲㆓伊豆國流人㆒。雖㆑不㆑蒙㆓指御定㆒。忽廻㆓籌策㆒。可㆑追㆓討御敵㆒之由。令㆓結構㆒候之間。御運令㆑然之上。勳功不㆑空。始終已討平。伏㆓敵於誅㆒。奉㆓世於　君㆒。日來之本意相叶。公私依㆓悅思給㆒候。先不㆑待㆓平家追討之左右㆒。爲㆑停㆓近國十一箇國武士之狼藉㆒。差㆓上二人使㆒。（久經國平）猶私下知依㆑有㆑恐。一一賜㆓　院宣㆒。可㆓成敗㆒之由。仰含候畢。仍彼國狼藉。大略令㆓沙汰鎭㆒候之後。復 依㆓別仰㆒。重又件使者男。被㆑下㆓遣鎭西四國㆒候。已賜㆓　院宣㆒。令㆓進發㆒候畢。如㆑此之間。種直。隆直。種遠。

秀遠之所領者。依レ爲二沒官之所一。任二先例一。可レ置二沙汰人職一之由雖レ令レ存候一。且先乍レ申二事之由一。倚賴于レ

今不二成敗一候。何況自余之所。不レ及二成敗一候。如二近國沙汰一。任二 院宣一。可レ鎭二旁狼藉一之由。兼令二存

知一候之處。不寄次第出來候。以二義經一。補二九國地頭一。以二行家一。被レ補二四國地頭一候之條。前後之間。事

與レ意相違。彼輩各相二憑其威一。巧二非分之謀一。令二下向一候之刻。雖レ無二指寄攻(キコウ)之敵一。天譴難レ遁。乘レ船解レ

纜之時。入レ海浮レ浪。郎從眷屬。即令二滅亡一之條。誠非二人力之所一レ及。已是神明御計也。而彼兩人。其身

未二出來一。晦レ跡逐電。旁分レ手令二尋求一候之間。國國庄庄。門門戶戶。山山寺寺。定狼藉事等候歟。召取

候之處(後)。何不二相鎭候一哉。但於レ今者。諸國庄園。平均可レ尋二沙一汰地頭職一候也。其故者。是全非下思二身之

利潤一候上。土民或令下二梟惡之意一値中遇謀叛之輩上候。或就二脇脇之武士一。寄二事於左右一。動現二奇怪一候。不下致二

其用意一候上者。向後無二四度計(シドケハン)一候歟。然者。雖二伊豫國候一。不レ論二庄公一。可レ成二敗地頭之輩一候也。但其後。

先例有レ限正稅已下。國役本家雜事。若致二對捍一。若致二懈怠一候者。殊加レ誡。無二其妨一。任レ法可レ致二沙汰一

候也。兼可下令二御二心得此旨一給上候。兼又當時可下被二仰下一候事。愚意之所レ及。乍レ恐注二折紙一。謹以進(言)二

上之一。一通 院奏折紙(料)令レ付二帥中納言卿一候。今度天下草創也。尤被レ究二行淵源(底)一候。殊可下令レ申二沙汰一給上

也。天之所レ令レ率レ與也。全不レ可レ及二御案一候。以二此旨一。可下令レ洩二申右大臣殿一給上之狀。謹言上如レ件。

十二月六日　　賴朝（在判）

謹上　右中辨殿

○七日。丙辰。雜色濱四郞爲二御使一。帶下院奏折紙狀。幷被レ獻二右府一御書等上。上洛。左典厩下部黑法師丸。爲二京都案內者一。被レ相二副之一。有二義經同心聞一之侍臣事。被レ申二子細一之中。民部卿成範卿者。爲二右府御緣者一之間。被レ除二折紙一云云。此間事等。京都巨細者。大略以被レ示二合左典厩幷侍從公佐等一。治定云云。彼公佐朝臣者。二品御外舅（法橋全成子息也〔イ同息女子〕）（〇此分註外孫ノ下ニ有ルベキカ）北條殿外孫也。旁以有二其好一之上。心操太穩便。不レ背二御意一之故。今度則令レ擧二申右馬權頭一給云云。○八日。丁巳。吉野執行送二書於北條殿御亭一。就レ之爲レ搜二求豫州一。可レ被レ發二遣軍士於吉野山一之由云云。○十一日。庚申。二品若君。俄以御病惱。諸人群參。營中物忩。若宮別當法眼爲二御加持一。被二參候一云云。○十五日。甲子。北條殿飛脚。自二京都一參著。被レ注二申洛中子細一。謀叛人家屋等。先點二定之一。同二意惡事一輩。當時露顯分。不二逐電一之族。廻二計略一。此上又申二帥中納言殿一畢。次豫州妾出來。相尋之處。豫州出レ都。赴二西海一之曉。被二相伴一至二大

物濱一。而船漂倒之間。不レ遂二渡海一。件類皆分散。其夜者宿二天王(皇)寺一。豫州自レ此逐電。于レ時約レ日(曰)。今一兩日於二當所一可二相待一。可レ遣レ迎者也。但過二約日一者。速可二行避一云云。相待之處。送レ馬之間乘レ之。雖レ不レ知二何所一。經二路次一有二三箇日一。到二吉野山一。逗二留彼山一。五箇日。遂別離。其後更不レ知二行方一。吾凌二深山雪一。希有而著二藏王堂一之時。執行所二虜置一也者。申狀如レ此。何樣可レ計二沙汰一乎云云。若公御平愈云云。○十六日。乙丑。去七日。所レ被レ副二上洛御使一之黑法師丸。自二途中一馳歸。申云。雜色濱四郎。至二駿河國岡部宿一。俄病惱心神失レ度。待二平愈之期一。雖レ經二兩日一。當時起居猶不レ任二其意一。况難レ向二遠路一云云。依〔之〕不レ廻二時剋一。被レ差二上雜色鶴次郎。生澤五郎一。黑法師丸(マル)。猶所二相副一也。又被レ遣二北條殿御返事一。靜者可レ被二召下一云云。○十七日。丙寅。小松內府息。丹後侍從忠房。後藤兵衛尉基淸預レ之。亦北條殿。任二關東仰一。屋島前內府息童二人。越前三位通盛卿息一人。被レ搜二出之一。於二遍(ヘン)照寺奧一。大覺(寺)等北。菖蒲澤一。虜二權亮三位中將惟盛卿嫡男一。(字六代)令レ乘レ輿。被レ向二野地一之處。神護寺文學上人稱レ有二師弟昵一。申二請北條殿一云。須レ啓二子細於鎌倉一。待二其左右一之程。可レ被二宥置一云云。前土佐守宗實。(小松內府息)左府猶子也。是又被レ申二一品一。暫可二免許一之由。被二仰遣一。依レ之兩人者被レ閣レ之。於二屋島內府息等一者。梟首云云。○廿一日。庚午。於二

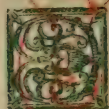
諸國庄園下地者。關東一向可令領掌給云云。前前稱地頭者。多分平家家人也。是非朝恩。或平家〔之〕領內。〔授〕其號補置之。或國司領家。爲私芳志定補于其庄園。又令違背本主命之時者改替之。而平家零落之刻。（悔）依爲彼家人。知行之跡被入沒官畢。仍施芳恩本領主。空手後悔之處。今度諸國平均之間。還斷其思云云。〇廿三日。壬申。帥中納言爲御使可被下向之由。今日風聞關東。已叡慮治定云云。是行家。義經之〔間〕事。條條被奏聞之趣。爲有勅答歟。二品殊令恐申給。可言上事。用（使）役者幷書狀。被仰下事。又披奉書散欝念。如卿相爲御使。被凌長途之條。尤可愼之由被申之云云。又前對馬守親光。爲公家。爲武門。抽大功訖。而不意兮。被改任國。可還任之由頻愁申之間。二品所被執申之云云。〇廿四日。癸酉。文學上人弟子（某）爲上人飛脚。參申云。故維盛卿嫡男六代公者。爲門弟之處。已欲被梟罪。彼黨類悉被追討畢。如此少生者。縱雖被赦置有何事哉。就中祖父內府。（〇重盛）於貴邊。被盡芳心。且募彼功。且被優文學。可預給歟云云。彼者爲平將軍正統也。雖少年。爭（イカデカ）無成人之期哉。尤難測其心。〔中〕但上人申狀。又以非可默止。進退谷（苦）之由被仰云云。使者僧强望及再三之間。暫可奉預上人之旨（由）。被遣御書於北條殿。〇廿六日。

乙亥。前中將時實朝臣。同二意豫州一。赴二西海一之間。於二路次一生二虜之一。今日武者所宗親。相具所二參向一也。

又左府御書到來。是故小松內府末子。前土佐守宗實者。自二幼齡當初一。爲二猶子一。而依二餘殃（族）一。可レ有二斷罪一之由風聞。狂欲レ申二請之一云云。可レ存二其旨一之趣。被二報申一云云。〇廿八日。丁丑。甘繩邊士民。（字所司二（次）郎）去夜於二閨（閫）上一。乍レ立頓死。人舉見レ之。家中之輩。語二群集者一云。及二半更一叩レ戶有下喚二此男之名字一者上。此男答。則開レ戶之刻。再不レ語。而良久恠レ之。取二脂燭一見レ之處。已入二死門一云云。又去比。若宮別當坊下僧夜行之時。於二路次一頓滅。少時蘇生。語云。大法師一兩人行會。抱留由思云云。其僧于レ今如レ亡云云。

又御臺所御方祗候女房。下野局夢。號二景政一之老翁。來申二一品一云。讚岐院於二天下一令レ成レ祟給。吾雖二制止申一不レ叶。可レ被レ申二若宮別當一者。夢覺畢。翌朝申二事由一。于レ時雖レ無二被レ仰之旨一。彼是誠可レ謂二天魔之所變一。仍專可レ被レ致二國土無爲御祈一之由。被レ申二若宮別當法眼坊一。加之以二小袖長絹等一。給二供僧職掌一。邦通奉二行之一。〇廿九日。戊寅。北條殿御使參著。去十七日。被レ下二解官　宣旨一。大外記師尙送レ之。則奉レ獻二其狀一云云。

大藏卿兼備後權守高階朝臣泰經

右馬頭高階朝臣經仲
侍從藤原朝臣能成
越前守高階朝臣高經
少內記中原信康
左大臣宣。奉レ勅。件人等。宜レ令レ解二却見任一者。
文治元年十二月十七日。　大外記中原師尙（奉）
○卅日。己卯。令レ拜二領諸國地頭職一給之內。以二土佐（左）國吾河郡一。令レ寄二附六條若宮一給。彼宮者。點二故廷尉禪室六條御遺跡一。被レ奉レ勸二請石淸水一。以二廣元弟。秀（○季ノ誤カ）毅阿闍梨一。所レ被レ補二別當職一也。（○吉本卷四ノ終トス。）

大正十五年三月廿四日印刷
大正十五年三月廿七日發行

〔非賣品〕

日本古典全集第一回
吾妻鏡
第一

編纂者　與謝野寛
同　正宗敦夫
同　與謝野晶子
裝幀圖案者　廣川松五郎

東京府北豐島郡長崎村一六二
發行者　長島豐太郎

東京府北豐島郡長崎村一六二
印刷所　新樹製版印刷所
印刷者　高瀨清吉

發行所
東京府北豐島郡長崎村一六二
日本古典全集刊行會
振替口座東京七三〇三二
電話番號小石川七〇九九